



QlikView の管理

QlikView®

May 2024

Copyright © 1993-2020 QlikTech International AB. All rights reserved.

1 はじめに	6
1.1 [Status] (ステータス):	6
1.2 ドキュメント	6
1.3 Users	6
1.4 システム	6
2 QlikView Publisher ドキュメント管理者	7
3 [Status] (ステータス):	8
3.1 (タスク)	8
関数	8
タスクの編集 (Edit Task)	10
タスクの実行 (Run Task)	10
タスクの中止 (Stop Task)	11
タスク詳細の表示 (Show Task Details)	11
タスク詳細の非表示 (Hide Task Details)	11
最新の情報に更新オプション	12
QlikView Distribution Service マシンのステータス	12
3.2 サービス	12
サービス名 (Service Name)	12
動作サーバー (Running On)	13
状態	13
アラートの表示 (Show Alert)	13
情報 (Information)	13
QlikView Distribution Service を停止させる	14
3.3 QVS 統計	15
ドキュメントを開く	15
アクティブユーザー	15
パフォーマンス	16
ドキュメントとユーザー	18
4 ドキュメント	20
4.1 QlikView ドキュメントの種類と機能	20
4.2 QlikView における QVF サポート	21
サポートされている機能	21
QlikView QVF ファイルの制限事項	21
4.3 [Source Documents] (ソース ドキュメント)	21
関数	22
テンプレート	24
ウィザードのスタートページ	26
(基本設定)	45
リロード	45
サイズ縮小や分割	47
配布	50
ドキュメント情報	57
[Trigger] (トリガー)	58
検索機能 (Search Function)	65
サーバー	66
4.4 [User Documents] (ユーザー ドキュメント)	71
ドキュメントの検索 (Search Document)	72

ドキュメント設定の構成 (Configure Document Settings)	72
サーバー	72
許可 (Authorization)	79
ドキュメント情報	81
リロード	82
Document CAL	85
4.5 QlikView ドキュメントへのリンクを Qlik Sense ハブで公開する	87
QlikView ドキュメント	88
始める前に	88
QlikView 証明書の要件	88
共有コンテンツへのリンクの公開をユーザーに許可するための Qlik Sense の構成	88
Qlik Sense 証明書を使用した QlikView Distribution Service の構成	89
QlikView ドキュメントへのリンクを Qlik Sense ハブで公開するタスクの作成	91
4.6 QlikView ドキュメントとリンクの Qlik Sense クラウドハブでの公開	92
ドキュメントとリンクのどちらを公開するかを選択	93
Qlik Sense Enterprise SaaS 展開への QlikView Server の接続	93
QlikView ドキュメントを Qlik Sense クラウドハブで公開する	94
QlikView ドキュメントへのリンクの Qlik Sense クラウドハブでの公開	100
5 ユーザー	103
5.1 ユーザー管理	103
ユーザーの検索	103
ユーザーの表示と管理	103
CAL	103
サーバー オブジェクト	105
グループ (Groups)	106
ドキュメント	106
配布	107
ユーザー管理検索機能	108
5.2 (セクション アクセス管理)	109
セクション アクセス テーブル (Section Access Table)	109
セクション アクセス テーブルの管理 (Manage Section Access Table)	109
6 システム	114
6.1 設定	114
管理サービス	114
QlikView Servers	118
配布サービス	134
ディレクトリサービス コネクタ (Directory Service Connector)	142
AllowAlternateAdmin=1	144
[削除]	145
マシン1の準備	146
2台のマシン間のファイル転送	147
マシン2の準備	148
6.2 Directory Service	149
AllowAlternateAdmin=1	149
[削除]	149
6.3 関数	150
カスタム ユーザー (Custom Users)	150

[削除]	151
カスタム ユーザー グループ (Custom User Groups)	151
[削除]	152
グループ テーブル	153
エンティティテーブル	153
AllowAlternateAdmin=1	153
[削除]	155
AllowAlternateAdmin=1	156
[削除]	157
AllowAlternateAdmin=1	158
[削除]	158
AllowAlternateAdmin=1	159
[削除]	159
QlikView Web Server	159
マウント上の閲覧可能フラグに従う(Respect Browsable Flag on Mount)	165
AllowAlternateAdmin=1	165
[削除]	165
リモート マネージメント サービス (Remote Management Services)	169
メール サーバー	172
License Service	174
クラウド展開	175
6.4 ライセンス	177
QlikView Publisher	177
QlikView Server	179
ライセンス リース	182
最新の情報に更新	183
ユーザー識別方法 (Identify User by)	183
ライセンスのリースを許可 (Allow License Lease)	184
CAL の動的割り当てを許可 (Allow Dynamic CAL Assignment)	184
最新の情報に更新	184
ユーザーを割り当て (Assign Users)	184
[Name] (名前)	185
最新の情報に更新	186
User	186
マシン ID (Machine ID)	186
時刻 (UTC) (Time (UTC))	186
最新の情報に更新	186
6.5 バージョン情報	190
QlikView システム情報 (About this QlikView System)	190
6.6 サポートタスク	190
外部プログラム	191
データベース コマンド	201
一時停止	210
QVD 生成	219
6.7 ログ収集	229
収集されたファイル	229
ログファイルの収集およびエクスポート	229

1 はじめに

このガイドでは、QlikView Management Console (QMC) を使用して、QlikView サイトを構成および管理する方法について説明します。

QMC は、QlikView Server (QVS) および QlikView Publisher (QVP) のモジュール設定へのアクセスを提供します。また、統合されたツリー表示管理によって、単一のマネージメントコンソールから、複数の QVS インスタンスおよび複数の Publisher 実行インスタンスの管理をサポートすることができます。

QMC ユーザー インターフェースは、主としてタブで構成されており、ページ、ツリー表示、フォルダ、パネル、ダイアログが含まれます。

1.1 [Status] (ステータス):

状態セクションでは、スケジュールできるタスクについての情報、また、Windows でのさまざまな QlikView サービスについての情報を取り扱います。QlikView Server の統計情報についても解説しています。

1.2 ドキュメント

ドキュメントセクションではソースドキュメント、割り当てられたタスク、およびユーザードキュメントの情報について解説します。

1.3 Users

ユーザーセクションではユーザー管理についての詳細およびセクションアクセスの管理についての情報について説明します。

1.4 システム

システムセクションではセットアップ、ライセンス契約、サポートタスクについて説明します。さらに、Windows でコンピューター情報とサービスがどのように表示されるかについて詳しく参照することができます。

2 QlikView Publisher ドキュメント管理者

QlikView Publisher (QVP) では、タスク作成とタスク管理の権限を、非 QlikView 管理者、つまり QlikView 管理者の Windows グループに入っていないユーザーに委譲することができます。これらの limited users、QlikView Publisher ドキュメント管理者、ドキュメント管理者 (略) は、複数の管理者が QVP に従事している場合に有用です。たとえば、共有インフラによって大企業に配備するなどといった適用方法が考えられます。



この機能を利用するには、QlikView Publisher (QVP) ライセンス キーが必要です。

ユーザーは、QlikView マネージメント コンソール (QMC) を使用して、QlikView Distribution Service (QDS) のソース ドキュメントフォルダに対する許可について、割り当てを受けることができます。また、QlikView Server (QVS) の設定によって、QVS 全体か、またはドキュメント管理者がそれによる作業を許可されている特定のマウントされたフォルダに対して、割り当てを受けることができます。QMC にログインしているドキュメント管理者は、これらのフォルダにあるソース ドキュメントのタスクを作成・変更することのみを許可されており、QMC でシステム設定や CAL 割り当てを修正することはできません。また、QlikView 管理者は、ドキュメント管理者が作業に使用するタスクのトリガーを有効化するか、あるいは無効化するかを、デフォルトで統制することができます。



ドキュメント管理者およびスーパーバイザーは、[システム (System)] タブを利用できません。これは、サポート タスクにアクセスできないことを意味します。

QVS フォルダの許可は、フォルダ アクセス (Folder Access) タブで付与されます。

ソース ドキュメントへの許可は、「基本設定 (General)」タブで付与されます。ここでは、ドキュメント管理者が作成したトリガーのステータスを設定することもできます。

ドキュメント管理者を構成し、このユーザーを使用して QMC にログインすると、制約のあるバージョンの QMC が起動します。ドキュメント管理者は、このユーザーが許可を付与されているソース ドキュメントを使用した作業のみを行うことができます。

3 [Status] (ステータス):

を状態 タブには、次のページが含まれます。

- タスク (Tasks): タスクの編集、開始、停止が可能です。
- サービス (Services): Windows でホストされている QlikView サービスを、監視することができます。
- QVS 統計 (QVS Statistics): QlikView Server に関するデータを表示できます。

3.1 (タスク)

この (タスク) ページにはすべてのタスクが表示されます。タスクは編集、開始、および停止できます。

関数

タスクの検索

タスクを検索するには、このテキストボックスに任意の検索語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。

フィルターとソート

リスト項目を、様々な条件でフィルタ処理することができます。列上の黒い Filter by... (フィルター条件) アイコン  は、その列ではフィルターが使用されていないことを表します。列上の青い Filter by... (フィルター条件) アイコン  は、その列ではフィルターが使用されていることを表します。個々の列フィルタの詳細については、各列ヘッダーの説明を参照してください。

ソート機能は、フィルタを使用しているときにのみ利用できます。列内または列名上にあるソートアイコン ( または ) は、ソートの昇順・降順のトグルスイッチになっています。ソートに使用できる列は、1度に1つのみです。アクティブな列には、ソートアイコンが示されます。デフォルトでは、リストは [Name] (名前) 列でソートされます。

名前

タスクのツリー表示はアルファベット順であり、ソート順序は QlikView Server およびタスク カテゴリの名前によって異なります。タスクの構成時に [Select Category] (カテゴリの選択) 項目でカテゴリを設定しなかった場合、該当するタスクは既定のフォルダー内に表示されます。

カテゴリでフィルタ処理するには、該当する列の [Filter by Category] (カテゴリでフィルタ処理) アイコン  をクリックし、チェックボックスのオン/オフを切り替えて該当の条件を選択/選択解除します。フィルターをリセットする(つまり使用しない) 場合には、[Clear Filter] (フィルターをクリア) ボタンをクリックし、すべての条件 (日付を入力した場合にはそれも含めて) を選択解除します。ダイアログで行った変更を確定させるには、OKボタンをクリックします。

実行対象

タスクを実行中の場合の、タスクを実行しているマシン。

現在タスクを実行していない場合は、最後にタスクを実行したマシンを表示します。

この列で使用できるフィルターはありません。

[Status] (ステータス):

各タスクの現在のステータスは、次のいずれか1つによって示されます。

- 待機中 (Waiting)
- 警告 (Warning)
- 失敗 (Failed)
- 実行中 (Running)
- 中断中 (Aborting)
- キューに登録済み (Queued)
- 実行不可 (Unrunnable)

ステータスでフィルター処理するには、この列の [Filter by Status] (ステータスで絞り込む) アイコン  をクリックし、チェックボックスのオン/オフを切り替えて該当の条件を選択/選択解除します。フィルターをリセットする(つまり使用しない)場合には、[Clear Filter] (フィルターをクリア) ボタンをクリックし、すべての条件(日付を入力した場合にはそれも含めて)を選択解除します。ダイアログで行った変更を確定させるには、OKボタンをクリックします。

利用可能なオプションにステータスインジケータがありますが、これらはアルファベット昇順になっています。

Publisher グループ

各タスクに関連付けられたマシングループ

ステータスでフィルター処理するには、この列の [Filter by Publisher Group] (Publisher グループでフィルター処理) アイコン  をクリックし、チェックボックスのオン/オフを切り替えて該当の条件を選択/選択解除します。フィルターをリセットする(つまり使用しない)場合には、[Clear Filter] (フィルターをクリア) ボタンをクリックし、すべての条件(日付を入力した場合にはそれも含めて)を選択解除します。ダイアログで行った変更を確定させるには、OKボタンをクリックします。

前回実行時間 (Last Execution)

タスクの起動を最後に試行したときのタイムスタンプのことです。

前回の実行時間でフィルター処理するには、この列の [Filter by Last Execution] (前回実行時間でフィルター処理) アイコン  をクリックし、ダイアログでチェックボックスのオン/オフを切り替えて該当の条件を選択/選択解除した後に、オプションを選択して日付を入力します(該当する場合)。フィルターをリセットする(つまり使用しない)場合には、[Clear Filter] (フィルターをクリア) ボタンをクリックし、すべての条件(日付を入力した場合にはそれも含めて)を選択解除します。ダイアログで行った変更を確定させるには、OKボタンをクリックします。

次のオプションを使用できます。

- Period (期間): 以下から、1つの条件のみを選択できます。
 - Last Hour (同一時刻の正時から現在の時刻まで): たとえば、現在の時刻が 09:12 の場合、09:00 から 09:12 までの範囲となります。

- Earlier Today (同一日の午前 0 時から現在の時刻まで):たとえば、現在の時刻が 09:12 の場合、00:00 から09:12 までの範囲となります。
 - Earlier This Week (同一週の月曜午前0時から現在の曜日時刻まで):たとえば、現在の曜日と時刻が水曜の 09:12 の場合、同じ週の月曜の 00:00 から水曜の 09:12 までの範囲となります。
 - ...から- まで...空の項目は「無制限」を意味します。各日付は [Date Picker] (カレンダー) ダイアログで選択します。
- Never (実行なし):実行されたことが一度もないタスクのみが表示されます。

開始済み/スケジュール設定済み (Started/Scheduled)

タスクが、手動かスケジュール設定によって最後に開始されたときのタイムスタンプ、またはタスクの開始がスケジュール設定されている時刻のことです。開始済み/スケジュール設定済みでフィルター処理するには、この列の [Filter by Started/Scheduled] (開始済み/スケジュール設定済みでフィルター処理) アイコン  をクリックし、ダイアログでチェックボックスのオン/オフを切り替えて該当の条件を選択/選択解除した後に、オプションを選択して日付を入力します(該当する場合)。フィルターをリセットする(つまり使用しない)場合には、[Clear Filter] (フィルターをクリア) ボタンをクリックし、すべての条件(日付を入力した場合にはそれも含めて)を選択解除します。ダイアログで行った変更を確定させるには、OKボタンをクリックします。

次のオプションを使用できます。

- Period (期間):以下から、1つの条件のみを選択できます(スケジュール設定 (On a Schedule)):
 - This Hour (同一時刻の正時から59分まで):たとえば、現在の時刻が 09:12 の場合、09:00 から 09:59 までの範囲となります。
 - Today (同一日内):現在の日付内 (00:00 から 23:59 までの範囲) となります。
 - This Week (同一週内):現在の週内 (月曜の 00:00 から日曜の 23:59 までの範囲) となります。
 - ...から- まで...空の項目は「無制限」を意味します。各日付は [Date Picker] (カレンダー) ダイアログで選択します。
- 他のタスク イベント(On Event from Another Task).
- On External Event (外部イベント発生時).
- On Multiple Events(On Multiple Events Completed).
- Not Scheduled (スケジュール設定なし):スケジュール設定されていないタスクのみが表示されます。

タスクの編集 (Edit Task)

タスクを構成するには、[Edit this Task] (このタスクを編集) アイコン  をクリックします。

タスクの実行 (Run Task)

タスクを実行するには、[Run this Task] (このタスクを実行) アイコン  をクリックします。

タスクの中止 (Stop Task)

タスクを中止するには、[Abort this Task] (このタスクを中断) アイコン  をクリックします。これによりキューからタスクが削除されます。

タスク詳細の表示 (Show Task Details)

以下のタスク詳細やタスクログを表示するには [Show Task Details] (タスク詳細を表示) リンクをクリックします。

- Task Details (タスクの詳細): 以下が表示されます。
 - Configuration Summary (構成サマリー): タスク受信者、タスクトリガー、およびクラウド展開名、コレクション、受信者 (ユーザーまたはグループ)、トリガーなどのクラウド展開に配布される情報などを含みます。
 - [Details] (詳細) タスクの詳細および実行に関する情報が含まれます。具体的には、[Name] (名前), [Category] (カテゴリ), [Distribution Service] (配布サービス), [Type] (種類), [Document] (ドキュメント), [Status] (ステータス), [Running On] (動作サーバー), [Last execution] (前回実行時間), [Last execution on] (前回実行時間時間), [Started/Scheduled] (開始済み/スケジュール設定済み)、および [Average duration of successful executions] (成功したタスクの平均実行時間)。
複数のイベントトリガーを含むタスクには、完了する必要があるすべてのイベントがリストされます。
- Task History (タスク履歴): 以下が表示されます。
 - [Execution Started] (開始時刻): タスクが最後に開始された時刻が表示されます。
 - [Status] (ステータス): タスクの現在のステータス、つまり、[Succeeded] (成功) または [Failed] (失敗)。
 - Duration (処理期間): タスクが実行された期間が示されます。
- Log (ログ): 最新のタスク実行に関するログが示されます。



[Tasks] (タスク) には QlikView サーバーの過去 30 日以内のエントリのみが表示されます。QlikView ログファイルは 30 日を過ぎたエントリを削除するように設定されており、[Tasks] の表示はこの設定に左右されます。この保存期間は変更することができます。

[ログとエラーコード](#)

タスク詳細の非表示 (Hide Task Details)

タスクの詳細とタスクログを非表示にするには、[Hide Task Details] (タスク詳細の非表示) リンクをクリックします。

最新の情報に更新オプション

左側パネルのリストを定期的かつ自動的に更新するには、[Automatic Refresh of Task List] (タスクリストの自動更新) チェックボックスをオンにします。自動更新を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。このリストを手動で更新するには、最新の情報に更新アイコン  をクリックしますが、これは自動更新機能がオフになっている場合にのみ利用可能です。

永続的に更新状態を変更するには、ブラウザのクッキーを許可する必要があります。

QlikView Distribution Service マシンのステータス

QDS マシンがダウンすると、ページ上部にオレンジ色のステータスバーが表示されます。ステータスバーにはダウンした QDS マシン名が表示されます。このマシンで実行が予定されていたタスクのステータスが実行不可 (Unrunnable) と、黒いドクロのアイコン  が表示されます。

3.2 サービス

[Services] (サービス) ページでは、Windows サービスのステータスの概要を確認できます。ここから QlikView Distribution Service (QDS) を停止することもできます。

[QlikView Distribution Service を停止させる](#)

サービスのステータスは、自動的にリフレッシュされます。

サービス名 (Service Name)

QlikView Server を、QlikView Publisher (QVP) のライセンスを使用して起動すると、以下のサービスが示されます。

- QlikView Directory Service Connector (DSC)
- Qlik License Service
- QlikView Distribution Service (QDS)
- QlikView Management Service (QMS)
- QlikView Server (QVS)
- QlikView Web Server (QVWS)

QlikView Server を、QVP のライセンスを使用しないで起動すると、以下のサービスが示されます。

- QlikView Management Service (QMS)
- QlikView Directory Service Connector (DSC)
- Qlik License Service
- QlikView ReloadEngine(サービスではない)
- QlikView Server (QVS)
- QlikView Web Server (QVWS)

右側パネルの [メッセージ (Messages)] でサービスのステータスをチェックするには、左側パネルの該当するサービスをクリックします。

動作サーバー (Running On)

[Running On] (動作サーバー) 列は、サービスが動作しているサーバーの名前を示します。サービスが複数のサーバー上で動作している場合は、サーバーの数が示されます。

状態

サービスの現在のステータスのことです。示される可能性のあるステータスは、次のとおりです。

- 実行中 (Running)
- 切断 (Disconnected)
- <クラスタ内のサーバー総数> のうち <動作中のサーバー数> が動作中 (<Number of servers running> of <total number of servers in cluster> running) — クラスタ内の1つ以上の (ただし全部ではない) サーバーがダウンした場合。
- 無効な設定 (Invalid Setup) — QlikView Management Service の複数のインスタンスが動作している場合。

アラートの表示 (Show Alert)

サービスが切断された場合にアラート機能を有効化する場合には、このチェックボックスをオンにします。

情報 (Information)

サービス ステータス メッセージ

[Service Name] (サービス名) の下のサービスをクリックすると、そのサービスに関するステータス メッセージがすべて表示されます。メッセージが表示され、その下に、サービス名に続いてステータスが表示されます。

config ファイルに適用されているカスタム設定のリスト

展開が QlikView November 2018 以降にアップグレードされている場合、展開内で DSC、QDS、QMS、および QVWS の各サービスに適用されている既定以外の config 値が、すべてリストに表示されます。

[Service Name] (サービス名) で該当するサービスを選択します。1つ以上のカスタム値が設定されている場合、情報タブに **[Non default config values for machine <machine-name>]** (<マシン名> マシンの既定以外の config 値) と呼ばれるセクションが追加されます。QlikView サービスが複数のマシン上で実行されている場合、各マシンについて既定以外の値のリストが個別に作成されます。選択されたサービスにカスタム値が存在しない場合は、代わりに「**All values are default**」(すべての値が既定値です) というメッセージが表示されます。

QlikView サービスが複数のマシン上で実行されている場合、これらのマシンには、明確な相違を必要としない限り、同じ config 値が存在するはずですが、QlikView Server で、異なるマシン上で同じ config 設定の不一致が特定された場合は、既定以外の config 値セクションの下に **[Anomalies detected]** (検出された異常) というセクションが追加されます。このセクションには、異なるマシン上で config 値が一致しない設定がリストされます。

既定以外の config 値のリストでは、カスタマイズされた各設定が **[設定]** にリストされ、*exe.config* ファイル内に存在する場合には表示されます。管理者によって変更された値は、**[Existing Value] (既存の値)**。元の値は **[既定値]** の下にリストされています。以下の例を参照してください。

Example 1:

サービスは動作中であり、問題が発生したという報告はありません (The service is running without any reported problems)。

<マシン名>: 実行中 (Running)

All values are default (すべての値が既定値です)

Example 2:

クラスタ内のすべてのサービスが動作中であり、問題が発生したという報告はありません (All services in the cluster are running without any reported problems)。

<machine-A>: 実行中 (Running)

<machine-B>: 実行中 (Running)

Non default config values for machine <machine-A> ((<machine-A> マシンの既定以外の config 値))

<machine-A> config 値

構成	Existing Value (既存の値)	既定値
DSCCacheSeconds	910	900
DebugLog	true	false

Non default config values for machine <machine-B> ((<machine-B> マシンの既定以外の config 値))

<machine-B> config 値

構成	Existing Value (既存の値)	既定値
DSCCacheSeconds	910	900

Anomalies detected (検出された異常)

DebugLog

QlikView Distribution Service を停止させる

QlikView 12.10 以降では、QMC には、手順どおりのやり方 (いわゆるグレースフル シャットダウン) で QlikView Distribution Service (QDS) Distribution Service (QDS) を停止する方法が用意されています。この方法で QDS サービスを停止することにより、保守などを実行できます。

グレースフル シャットダウンにより QDS を停止させるためのスイッチ ボタン アイコンが、QDS サービスのサービス ステータス メッセージに表示されます。このスイッチ ボタンをクリックすると、QDS で実行中のタスクはすべて、事前に設定された猶予時間が経過するまで実行を継続できます。猶予時間中にタスクが完了しなかった場合、そのタスクは停止されます。この猶予時間中は、QDS サービスで新しいタスクを起動できません。

次の手順を実行します。

1. **[サービス名 (Service Name)]** の下の、停止する QDS サービスをクリックします。
クラスターサーバーを使用している場合は、サービスのツリーブラウザーを展開しなければならないこともあります。
2. **[情報 (Information)]** エリアで、スイッチ ボタン アイコンをクリックします。
3. QDS サービスを停止することを承認します。
QDS のグレースフル シャットダウンが開始されます。猶予時間中に完了しなかったタスクはすべて停止されます。既定の猶予時間は 30 分です。

QDS のグレースフル シャットダウンの猶予時間を設定するには、QVDistributionService.exe.config ファイルの ServiceStopGracetimeInSeconds キーの値を変更してください。serviceStopGracetimeInSeconds。

3.3 QVS 統計

[General] 統計情報 ページには、QlikView マネージメント コンソール (QMC) によって管理されているすべての QlikView Server に関するライブ統計が表示されます。次の各タブに分類されています。

- 開かれているドキュメント (Open Documents): 開かれているドキュメントの基本情報が示されます。
- アクティブなユーザー (Active Users): ユーザーと、ユーザーが現在開いたままにしているドキュメントの数が示されます。
- パフォーマンス (Performance): QlikView Server (QVS) システムのパフォーマンス パラメータが示されます。
- ドキュメントとユーザー (Documents and Users): 開かれているドキュメントと、それらを現在使用しているユーザーが示されます。

ドキュメントを開く

[General] ドキュメントを開くタブでは、任意の開かれているドキュメントへのパス、およびそれらに対するセッション数を確認できます。

パス (Path)

開かれているドキュメントのパス (サーバーのルートからの相対パス) およびファイル名のことです。

```
mydirectory/myfile.qvw
```

セッション (Sessions)

開かれているドキュメントに対するセッションの数のことです。

アクティブ ユーザー

[General] アクティブ ユーザー タブでは、ユーザーと、ユーザーが現在開いたままにしているドキュメントの数を確認できます。

名前

ユーザーのドメインおよび名前のことです。

COMPANY\user

ドキュメントの数 (Number of Documents)

開かれているドキュメントの数のことです。

パフォーマンス

このパフォーマンスタブでは、以下の QlikView Server システム パフォーマンス パラメータ(名前) およびそれらの値(値)を確認できます。

パフォーマンス パラメーター

[Name] (名前)	値
ExeType	QlikView Server ビルドの種類。
ExeVersion	QlikView Server のフル バージョン番号。
タイムスタンプ	ログ エントリが作成された日付および時刻。
DocSessions	セッション インターバルの終了時に存在している、ドキュメント セッションの総数 (1 ユーザー + 1 ドキュメント = 1 ドキュメント セッションとして計算)。
AnonymousDocSessions	セッション インターバルの終了時に存在している、匿名ユーザーによるドキュメント セッションの総数 (1 ユーザー + 1 ドキュメント = 1 ドキュメント セッションとして計算)。
TunneledDocSessions	セッション インターバルの終了時に存在している、トンネル接続によるドキュメント セッションの総数 (1 ユーザー + 1 ドキュメント = 1 ドキュメント セッションとして計算)。
DocSessionStartsSinceMidnight	午前 0 時 (サーバーのローカル タイム) 以降に開始された、ドキュメント セッションの総数 (1 ユーザー + 1 ドキュメント = 1 ドキュメント セッションとして計算)。
RefDocs	終了時にセッションが存在しているインターバルの、終了時にロードされていたドキュメントの数。
LoadedDocs	インターバルの終了時にロードされていた、ドキュメントの総数。
IpAddr	インターバルの終了時に接続されていた、異なる IP アドレスの総数。同一 IP アドレスに由来するトンネル セッションと複数のユーザーは、区別できないことに注意が必要。
Users	インターバルの終了時に接続されていた、異なる NT ユーザーの総数。この場合、匿名ユーザーは区別できないことに注意が必要。

3 [Status] (ステータス):

[Name] (名前)	値
CPUload	インターバル中の、QlikView Server からの平均 CPU ロード。
VMCommitted	インターバルの終了時に、QlikView Server に実際に使用されていた仮想メモリのサイズ (MB)。この数値は、VMAllocated(MB) の一部です。許容外の応答時間を回避するため、物理メモリのサイズを超過しないようにします。
VMAllocated	インターバルの終了時に、QlikView Server によって割り当てられていた仮想メモリのサイズ (MB) (VMAllocated(MB) + VMFree(MB) = QlikView Server プロセスで利用可能なすべての最大仮想メモリ空間、として計算)。
VMFree	QlikView Server で利用可能な、割り当てられていない仮想メモリのサイズ (MB) (VMAllocated(MB) + VMFree(MB) = QlikView Server プロセスで利用可能なすべての最大仮想メモリ空間、として計算)。
VMLargestFreeBlock	QlikView Server で利用可能な、割り当てられていない仮想メモリの最大連続ブロックのサイズ (MB)。この数値は、VMFree の一部です。
UsageCalBalance	利用可能なユーザー CAL の数量。「-1.00」は、Usage CAL が使用されていないことを示します。
TimeZoneBias	GMT と比較して得られた時間オフセット (単位:分)。
GBytesOfRamConfigured	QlikView Server 用に構成されている (および割り当てられている) RAM の最低量 (単位:GB)。
NumberOfCores	サーバーによって使用されているコアの数。
RecentCpuPercent	インターバル中の CPU ロード。
RecentRamOverload	構成されている制限を超えた RAM の使用。
OffDuty	QVS がオフデューティーかどうかを示唆 (QMC からアクセスできるが操作不能)。QVS がオフデューティーになる理由のひとつは、ライセンス認証ファイル (LEF) で指定された時間制限に達した場合です。
Unlicensed	QVS ライセンスが期限切れかどうかを示唆。
EntryType	エントリの種類。「Server starting」はスタートアップを、「Normal」は通常のインターバルのログ エントリを、「Server shutting down」はシャットダウンを、それぞれ表します。
ActiveDocSessions	インターバル中のアクティビティを示す、インターバルの終了時にまだ存在しているドキュメントセッションの数 (1 ユーザー + 1 ドキュメント = 1 ドキュメントセッションとして計算)。

3 [Status] (ステータス):

[Name] (名前)	値
ActiveAnonymousDocSessions	インターバル中のアクティビティを示す、インターバルの終了時にまだ存在している、匿名ユーザーによるドキュメントセッションの数 (1 ユーザー + 1 ドキュメント = 1 ドキュメントセッションとして計算)。
ActiveTunneledDocSessions	インターバル中のアクティビティを示す、インターバルの終了時にまだ存在している、トンネル接続によるドキュメントセッションの数 (1 ユーザー + 1 ドキュメント = 1 ドキュメントセッションとして計算)。
DocSessionStarts	インターバル中に開始された、ドキュメントセッションの数 (1 ユーザー + 1 ドキュメント = 1 ドキュメントセッションとして計算)。
ActiveDocs	ユーザー アクティビティが存在していたインターバルの、終了時にロードされていたドキュメントの数。
DocLoads	インターバル中にロードされた、新規ドキュメントの数。
DocLoadFails	インターバル中にロードに失敗した、ドキュメントの数。
Calls	インターバル中に実行された、QlikView Server に対するコールの総数。
選択	インターバル中に実行された、選択コールの数。
ActiveIpAddr	インターバル中にアクティブになったことがあり、インターバルの終了時にもまだ存在していた、異なる IP アドレスの数。同一 IP アドレスに由来するトンネルセッションと複数のユーザーは、区別できないことに注意が必要。
ActiveUsers	インターバル中にアクティブになったことがあり、インターバルの終了時にもまだ存在していた、異なる NT ユーザーの数。この場合、匿名ユーザーは区別できないことに注意が必要。

ドキュメントとユーザー

[General] ドキュメントとユーザー タブでは、開かれているドキュメントと、それらを現在使用しているユーザーを確認できます。

ドキュメント

開かれているドキュメントのファイル名のことです。

EXTENSION EXAMPLES.QVW

ユーザー

ユーザーのドメインおよび名前のことです。

COMPANY\user

4 ドキュメント

をドキュメントタブには、次のページが含まれます。

- ソース ドキュメント



このページは、有効な *QlikView Publisher (QVP)* ライセンスがインストールされている場合にのみ利用できます。

- ユーザー ドキュメント

これらのページでは、ソース ドキュメントおよびユーザー ドキュメントを管理することができます。

4.1 QlikView ドキュメントの種類と機能

QlikView マネージメントコンソール (QMC) 環境における「ドキュメント (Document)」とは「QlikView ドキュメント (QlikView Document)」、つまり拡張子が *.qvf* または *.qvw* で、QlikView Server (QVS) で開くことができ、以下の状態のいずれか1つであるファイルのことです。

- [Document] (ドキュメント)
- ソース ドキュメント (Source Document)
- ユーザー ドキュメント (User Document)

ソース ドキュメントが QlikView Publisher (QVP)、つまり QlikView Distribution Service (QDS) によって管理されるのに対して、ユーザー ドキュメントは QVS によって管理されます。管理されていないドキュメントも QlikView ドキュメントには違いありませんが、ドキュメントは QDS (QVS) によって管理されることによって、名称がソース ドキュメント (ユーザー ドキュメント) に変更されます。

分割機能を使用して、QDS によって管理されているソース ドキュメントからユーザー ドキュメントを作成し、配信機能を使用して、QVS にユーザー ドキュメントを管理させることができます。ユーザー ドキュメントは、QlikView Desktop で作成して、QVS フォルダに保存することも可能です。QDS によって配信されたユーザー ドキュメントに、スクリプトが含まれることはありません。

各ソース ドキュメントには、1つのスクリプトが含まれます。ソース ドキュメントのコンテンツは、同ソース ドキュメントから作成されるユーザー ドキュメントのコンテンツを常に無効化します。これは、ソース ドキュメントに加えられた任意の変更によって、タスクが実行されたときなどに、ユーザー ドキュメントのデータおよびメタデータが上書きされるということです。これを回避するには、ドキュメント名テンプレートを使用して、ユーザー ドキュメント名を変更します。

メール受信者、または QVS/QDS 環境以外のフォルダに配信されたソース ドキュメントは、管理の対象外です。

ユーザーがフロントエンド、つまり QlikView AccessPoint 経由でユーザー ドキュメントにアクセスするのに対して、管理者はバックエンド、つまり QDS 経由でソース ドキュメントにアクセスします。

ソース ドキュメントには、スクリプトとレイアウトが含まれます。このスクリプトがリロード時に実行されると、ユーザー ドキュメントが作成されます。このスクリプトおよびレイアウトを含むソース ドキュメントは、QlikView Developer によって作成されます。

4.2 QlikView における QVF サポート

QlikView ドキュメントを QVF ファイルとして保存し、QlikView QVF ファイルを Qlik Sense SaaS からエクスポートして、QlikView で開くことができます。

サポートされている機能

- QlikView ドキュメントを、QlikView Desktop から .qvf ファイルとして保存および再保存する。
- QlikView ドキュメントを、QlikView Desktop から .qvf ファイルとして作成する。
- QlikView .qvf ファイルとして保存された、または QlikView Desktop、Ajax クライアント、Plugin クライアント、Open in Server の Qlik Sense SaaS からエクスポートされた QlikView を開く。

QlikView QVF ファイルの制限事項

- Qlik Sense .qvf ファイルは QlikView で開くことができません。
- QlikView マクロはサポートされていません。

4.3 [Source Documents] (ソース ドキュメント)



このページは、有効な *QlikView Publisher (QVP)* ライセンスがインストールされている場合にのみ利用できます。

このソース ドキュメントページの左側パネルには、すべてのソース ドキュメントと、それらに割り当てられているすべてのタスクが、ツリー表示でリストされます。タスクはタスクが属しているソース ドキュメントの下でソートされます。何らかの理由でソース ドキュメントが利用できない場合、ソース ドキュメントに属するタスクは、孤立したタスクとしてフラグ付きとなり、<孤立>フォルダに保管されます。つまり、タスクが二度と実行されないことを示しています。不明だったソース ドキュメントが再び導入されると、孤立していたタスクは再び正規のタスクとなります。

ドキュメントに割り当てられているタスクの設定を右側パネルで表示または管理するには、ツリー表示の該当するドキュメントかタスクをクリックします。

1つのタスクが別のタスクをトリガーする、タスクチェーンを作成することが可能です。たとえば、'Document 1' が1時間ごとに再ロードされるよう設定し、'Document 2' を 'Document 1' の再ロードが正常に実行された場合に限り配信されるよう設定することができます。さらに、'Document 3' の配信を 'Document 2' が正常に配信された場合にのみ実行するよう設定することが可能です。



チェーン内のいずれかのタスクのトリガーを無効にすると、チェーンは中断されます。チェーン内のタスクの1つを無効にしてもチェーンは継続しますが、無効にされたタスクは実行されません。

関数

ドキュメントやタスク、テンプレートの検索

ドキュメントやタスク、テンプレートを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、

[Search] (検索) アイコン  をクリックします。

フィルター

ドキュメントおよびタスクのリストは、フィルタ処理が可能です。黒色の Filter by Documents With or Without Task (タスクを含む/含まないドキュメントでフィルタ処理) アイコン  で、[Name] (名前)] 列内) は、その列ではフィルターが使用されていないことを表します。青色の Filter Set (フィルタ設定済み) アイコン  で、[Name] (名前)] 列内) は、その列でフィルターが使用されていることを表します。タスクが割り当てられている/いないドキュメントをフィルタ処理するには、Filter by Documents With or Without Task (タスクを含む/含まないドキュメントでフィルタ処理) アイコン  で、[Name] (名前)] 列内) をクリックし、チェックボックスのオン/オフを切り替えて、ダイアログで該当の条件を選択します。フィルターをリセットする(つまり使用しない) 場合には、[Clear Filter] (フィルターをクリア) ボタンをクリックし、すべての条件(日付を入力した場合にはそれも含めて) を選択解除します。ダイアログで行った変更を確定させるには、OKボタンをクリックします。

次のオプションを使用できます。

- タスクを含むドキュメント (Document With Tasks)
- タスクを含まないドキュメント (Document Without Tasks)

ステータスの表示 (View Status)

ドキュメントのタスクの概要を右側パネルで確認するには、ツリー表示の該当するドキュメントをクリックします。表示されるステータス インジケータアイコンの種類は、次のとおりです。

- 、タスクが実行中であることを示します。
- 、タスクについて、警告が出されていることを示します。
- 、タスクの実行に失敗したことを示します。

タスクのステータスは、自動的にリフレッシュされます。

タスクの追加 (Add Task)

タスクを追加するには、Add Task Manually (タスクを手動で追加) icon,  , in the upper right corner of the right pane, or click on the Add Task (タスクの追加) icon,  , and select one of the following options in the drop-down list:

- Add Task Manually (タスクを手動で追加): タスクを手動で作成・追加します。タスクの設定は、該当するタスクに属する各タブごとに構成する必要があります。

- Add Task Using Wizard (タスクをウィザードで追加): タスクを、ウィザードガイドに示されている構成設定の基本的なサブセットによって作成・追加します。
- Add Task Using Template (テンプレートを使用してタスクを追加): タスクを、テンプレートの設定を使用して作成・追加します。

タスクの編集 (Edit Task)

タスクを構成するには、タスクの編集 (Edit Task) アイコン  をクリックするか、ツリー表示で該当するタスクをクリックします。右側パネルに、以下のタブが示されます。

- 基本設定
- リロード
- サイズ縮小や分割
- 配布
- ドキュメント情報
- トリガー (Trigger)
- サーバー

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

コンテキストメニュー (Context Menu)

タスクの管理に役立つコンテキストメニューを表示するには、ツリー表示の該当するタスクを右クリックします。複数のタスクを選択して (Control キー+ クリック)、それらをバッチ管理することができます。

タスクのコピー (Copy Task)

タスクをコピーするには、クリップボードにコピーアイコン  , or right-click on the task in the tree view and choose コピー.

タスクの貼り付け (Paste Task)

ドキュメントにタスクを貼り付けると、新しいタスクが作成されます。特定のドキュメントにタスクを貼り付けるには、該当するドキュメントをクリック (強調表示) して、タスクの貼り付け (Paste Task) アイコン  (右側パネル内、タスクの追加 (Add Task) icon, ), or right-click on the document and choose 貼り付け.

タスクを既存のタスクに貼り付けると、タスクがマージされ、貼り付け先のタスクの設定が上書きされます。To merge a copied task with another task, either click on (highlight) the document, in which the destination task resides, in the tree view, and click on the Paste Special... (特別な貼り付け...) アイコン  (右側パネル内、タスクを削除の下側 ) をクリックするか、ツリー表示の貼り付け先タスクをクリック (強調表示) して、Paste Special... (特別な貼り付け...). 貼り付け先タスクにタスクのどの部分 (コンポーネント) を貼り付けるか (複製するのか、それともマージするのか) を選択し、OKボタンをクリックします。選択対象となるタスクのコンポーネントは各タブと一致します。

コピーしたタスクは、ツリー表示で複数の貼り付け先タスクを選択することによって、同時にいくつかのタスクとマージさせることができます。

タスクのインポート (Import Task)

タスクを別の環境からインポートするには、ドキュメントを右クリックしてタスクのインポート (Import Task) を選択します。これにより、リモートシステムが表示されます。インポートするタスクを選択します。該当するドキュメントに同一名のタスクがすでに存在する場合、新しい名前が生成されます。

To import すべてtasks from a remote system, right-click on the [Distribution Service] (配布サービス) を右クリックして [Import Tasks] (タスクのインポート) を選択すると、インポートダイアログが開きます。インポートするリモートシステムから [Distribution Service] (配布サービス) を選択します。

タスクの実行 (Run Task)

タスクを開始するには、[Run this Task] (このタスクを実行) アイコン  をクリックします。

タスクの中断 (Abort Task)

タスクを中止するには、[Abort this Task] (このタスクを中断) アイコン  をクリックします。

タスクの削除

タスクを完全に削除するには、ツリー構造からタスクが存在するドキュメントをクリック(強調表示)して、右側のパネルにあるこのタスクの [タスクを削除] アイコン  をクリックするか、ツリー表示のタスクをクリック(強調表示)して、[削除]。

テンプレート

テストテンプレートフォルダでは、テンプレートの作成、保存、テンプレートを使用した新しいタスクおよびそれらのソースドキュメントへの割り当てを提供します。テンプレートに、ドキュメント設定が含まれることはありません。そのため、次に示す機能は適用外となります。

- サイズ縮小や分割
- ループと分割 (Loop and Distribute)
- ソースドキュメントからの PDF レポート (PDF Report from Source Document)

これは、タスクを新規または既存のテンプレートにコピーアンドペーストするとき、特定のドキュメント情報は含まれないことを意味します。また、テンプレートを実行することはできません。

テンプレートが、任意のソースドキュメントに割り当てられることはありません。ソースドキュメントにコピーされたテンプレートは、タスクになります。テンプレートを使用してタスクを追加する別の手段として、[Add Task Using Template] (テンプレートを使用してタスクを追加) オプションを選択します。

関数

ドキュメントやタスク、テンプレートの検索

ドキュメントやタスク、テンプレートを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、

[Search] (検索) アイコン  をクリックします。

表示

右側パネルですべてのテンプレートの概要を確認するには、ツリー表示のテンプレートフォルダーをクリックします。

テンプレートの追加 (Add Template)

テンプレートを追加するには、テンプレートの追加 (Add Template) アイコン  (右側パネルの右上隅) をクリックします。テンプレートが作成されたら、当該テンプレートに属する各タブで、設定を構成する必要があります。

テンプレートの編集 (Edit Template)

テンプレートを構成するには、テンプレートの編集アイコン  をクリックするか、ツリー表示でテンプレートをクリックします。右側パネルに、以下のタブが表示されます。

- 基本設定
- リロード
- 配布
- ドキュメント情報
- トリガー (Trigger)
- サーバー

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。



これらのタブにはタスク (task) の設定が示されていて、単に実行できないテンプレート (template) を作成します。これらの設定を使用するには、ドキュメントに実行可能なタスクを作成する必要があります。

コンテキストメニュー (Context Menu)

テンプレートの管理に役立つコンテキストメニューを表示するには、ツリー表示の該当するテンプレートを右クリックします。

テンプレートのコピー (Copy Template)

テンプレートをコピーするには、Copy this Template to Clipboard (このテンプレートをクリップボードにコピー) アイコン  をクリックするか、ツリー表示で該当するテンプレートを右クリックして、コピー。

テンプレートの貼り付け (Paste Template)

テンプレートをテンプレートフォルダに貼り付けると、新しいテンプレートが作成されます。テンプレートをテンプレートフォルダに貼り付けるには、該当するテンプレートフォルダをクリック (強調表示) して、テンプレートの貼り付け (Paste Template) アイコン  (右側パネル内、テンプレートの追加 (Add Template) アイコン  の左側)、またはテンプレートフォルダを右クリックして、貼り付け。

テンプレートを既存のテンプレートに貼り付けると、テンプレートがマージされ、貼り付け先のテンプレートの設定が上書きされます。コピーしたテンプレートと別のテンプレートを結合するには、ツリー表示で貼り付け先テンプレートが含まれているフォルダをクリック (強調表示) し、そのテンプレートの Paste Special... (特別な貼り付け...) アイコン  (右側パネル内、Delete this template (このテンプレートを削除) アイコン  の下) をクリックするか、ツリー表示で貼り付け先テンプレートをクリック (強調表示) し、Paste Special... (特別な貼り付け...)。貼り付け先テンプレートにテンプレートのどの部分 (コンポーネント) を貼り付けるか (複製するのか、それともマージするのか) を選択し、OKボタンをクリックします。

コピーしたテンプレートは、ツリー表示で複数の貼り付け先テンプレートを選択することによって、同時にいくつかのテンプレートとマージさせることができます。

テンプレートのインポート (Import Template)

テンプレートを別のインストールからインポートするには、テンプレートフォルダを右クリックして、テンプレートのインポート (Import Template)。これにより、リモートシステムが表示されます。インポートするテンプレートを選択します。該当するテンプレートフォルダに同一名のテンプレートがすでに存在する場合、新しい名前が生成されます。

すべてのテンプレートをリモートシステムからインポートするには、[Distribution Service] (配布サービス) を右クリックして [Import Template] (テンプレートのインポート) を選択すると、インポートダイアログが開きます。インポートするリモートシステムから [Distribution Service] (配布サービス) を選択します。

テンプレートの削除

テンプレートを完全に削除するには、ツリー構造からテンプレートが存在するテンプレートフォルダをクリック (強調表示) して、右側のパネルにあるこのテンプレートの Delete this template (このテンプレートを削除) アイコン  をクリックするか、ツリー表示のテンプレートをクリック (強調表示) して、[削除]。

ヘルプ

コンテキストに応じたヘルプ (この WebHelp) は、現在のページの内容に関する詳細な情報を提供するもので、ページ右上角にある ヘルプ をクリックすると表示されます。

移動ボタン

ウィザードでは、ページ間を移動するために次のボタンが利用できます。

- Previous:「ウィザードの前のページにもどる」を意味し、現在のウィザードページの設定が保存されます。次に進むには次へボタンをクリックします。
- 次へ:「ウィザードの次のページに進む」を意味します。



このボタンは現在のウィザードページで必要なデータを設定した場合にのみ利用可能です。

- Finish (終了):「このウィザードを終了」を意味し、設定した情報が適用されます。



このボタンは、ウィザードのすべてのページで設定を終えた場合にのみ利用可能です。

- キャンセルまたは  は、設定を使用したり保存せず、「このウィザードを中止する」を意味します。タスクは生成されません。

ウィザードのスタート ページ

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) [Wizard] (ウィザード) では、新しいタスク(配信、分割、トリガーを含む)の基本機能を構成することができます。

開始ページ (Start Page)

ウィザードのスタート (Start) page, the type of task that is to be configured for the 現在のドキュメント can be selected. タスク構成設定のサブセットが、ウィザードのガイドページに示されます。その内容は、以下に示す質問への回答によって異なります。

- 配信の受信者を、どのように選択しますか?
- ドキュメントを分割しますか?

タスクの設定は、ウィザードのガイドページで構成することができます。考えられる回答の組み合わせに応じて、以下のウィザードガイドページが提示されます。

タスクの構成

-	受信者を手動で入力する	ドキュメントの項目に基づいて受信者に配信する
いいえ。ドキュメント全体を配信する	<ul style="list-style-type: none"> • 基本設定 • 配布 (手動) • タスクのトリガー 	<ul style="list-style-type: none"> • 基本設定 • 配布 (ドキュメントのループ項目) • タスクのトリガー
はい。ドキュメントの一部のみを配信する	<ul style="list-style-type: none"> • 基本設定 • サイズ縮小や分割 • 配布 (手動) • タスクのトリガー 	<ul style="list-style-type: none"> • 基本設定 • サイズ縮小や分割 • 配布 (ドキュメントのループ項目) • タスクのトリガー

ヘルプ

コンテキストに応じたヘルプ (この WebHelp) は、現在のページの内容に関する詳細な情報を提供するもので、ページ右上角にあるヘルプをクリックすると表示されます。

移動ボタン

ウィザードでは、ページ間を移動するために次のボタンが利用できます。

- Previous:「ウィザードの前のページにもどる」を意味し、現在のウィザードページの設定が保存されません。次に進むには次へボタンをクリックします。
- 次へ:「ウィザードの次のページに進む」を意味します。



このボタンは現在のウィザードページで必要なデータを設定した場合にのみ利用可能です。

- Finish (終了):「このウィザードを終了」を意味し、設定した情報が適用されます。



このボタンは、ウィザードのすべてのページで設定を終えた場合にのみ利用可能です。

- キャンセルまたは は、設定を使用したり保存せず、「このウィザードを中止する」を意味します。タスクは生成されません。

General (基本設定)

[General] 基本設定 ウィザードガイドページ、新規タスクでは、新しいタスク(new task)のリロード、名前、カテゴリ、属性に関する構成を行うことができます。

基本設定

リロードの実行 (Perform Reload)

タスクが実行されるときにドキュメントがリロードされるようにするには、このチェックボックスをオンにしてこの機能を有効化します。この機能を無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

タスク名 (Task Name)

タスク名を編集するには、このテキストボックスに任意の名前を入力します。



Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) タスク名 (Task Name) は一意である必要があります、そうでない場合は、末尾に数字が追加されて一意の名前になります。たとえば、「MyTask」は「MyTask (2)」になります。

[Select Category] (カテゴリの選択)

ドキュメントにカテゴリを割り当てるには、ドロップダウンリストに表示されているカテゴリから1つを選択します。

既定のパス: 初期設定。

新しいカテゴリの入力 (Or Type a New Category)

カテゴリを作成するには、このテキストボックスに説明的な名前を入力します。新カテゴリがカテゴリの選択 (Select Category) ドロップダウンリストで使用可能になります。カテゴリは、QlikView AccessPoint に表示されます。



カテゴリの再割り当ては可能ですが、削除はできません。

最終更新時間が (分) よりも古い場合に警告を表示:

ドキュメントが指定された分数内に更新されなかった場合に、警告するように設定します。警告アイコンが、QlikView AccessPoint のドキュメントカードに表示されます。

ドキュメントの説明文 (Document Description)

QlikView AccessPoint のドキュメントの詳細に表示されるドキュメントの説明文を作成するには、このテキストボックスに説明を入力します。

属性 (Attribute)

メタデータ属性は作成可能であり、ドキュメントに割り当てることも可能です。こうした属性は名前と値という任意の組み合わせです。属性はドキュメントには保存されませんが、QlikView Server Document Metadata Service (DMS) 機能を有する QlikView Server のメタデータに保存されます。サードパーティ製のアプリケーションの場合は、qvxプロトコルを使ってデータベースから属性の読み取りや抽出ができます。QlikView AccessPoint の各属性は、正しいドキュメントを検索するために有用です。属性を作成し、値を割り当ててメタファイルに保存するには、パネルの右側にある [Add] (追加) アイコン、 をクリックし、以下の項目を構成します。

【Name】(名前)

このテキストボックスに説明的な名前を入力し、メタデータの属性名を設定します。

値

このテキストボックスに、【名前】項目のメタデータ属性名に割り当てる値を入力します。

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、【削除】アイコン  をクリックします。

ヘルプ

コンテキストに応じたヘルプ(この WebHelp) は、現在のページの内容に関する詳細な情報を提供するもので、ページ右上角にあるヘルプをクリックすると表示されます。

移動ボタン

ウィザードでは、ページ間を移動するために次のボタンが利用できます。

- Previous:「ウィザードの前のページにもどる」を意味し、現在のウィザードページの設定が保存されます。次に進むには次へボタンをクリックします。
- 次へ:「ウィザードの次のページに進む」を意味します。



このボタンは現在のウィザードページで必要なデータを設定した場合にのみ利用可能です。

- Finish (終了):「このウィザードを終了」を意味し、設定した情報が適用されます。



このボタンは、ウィザードのすべてのページで設定を終えた場合にのみ利用可能です。

- キャンセルまたは  は、設定を使用したり保存せず、「このウィザードを中止する」を意味します。タスクは生成されません。

サイズ縮小や分割

このサイズ縮小や分割ウィザードガイドページでは、新しいタスクを、そのオリジナルから複数のドキュメントへと分割するように構成できます。

データ分割を行い縮小されるドキュメントには、分割された情報のみが含まれます。セクションアクセス機能を使用するドキュメントには、すべての情報が含まれますが、一部は非表示になっています。



Section Access によるデータ分割は配信ドキュメントに予期せぬ結果を招く可能性があるため、注意して使用してください。



ウィザードガイドページでは、データ入力は必須です。

分割方法

分割の方法

次のオプションを1つ選択します。

- **項目値で分割 (Reduce by Field Value)**: 配信される項目およびそれらの値を選択することによって、1つの分割されたドキュメントが作成されます。
- **ブックマークで分割 (Reduce by Bookmark)**: 配信されるブックマークを選択することによって、1つの分割ドキュメントが作成されます。

また、項目の値をもとに、個別のドキュメントを複数作成することもできます。

ドキュメントを開く (Open Document)

ブックマークや項目、項目値を選択するためにドキュメントの内容を使用できるようにするには、このボタンをクリックしてドキュメントを開く必要があります。



この機能を使用するには、ドキュメントを開く (Open Document) ボタンあるいは利用可能であれば [...] ボタンをクリックします。時間がかかる場合がある為、これは暗示的なコマンドとして動作します。

項目値で分割 (Reduce by Field Value)

ドキュメントで使用できる項目 および 値 を示します。



最初の 1000 件のエントリのみが含まれます。ボックスで選択しなかったすべてのデータは、縮小されたドキュメントから削除されます。



このオプションは項目値で分割 (Reduce by Field Value) オプションが選択されている場合にのみ使用できます。

項目

配信のために、データを分割して縮小するドキュメントに含める項目を選択するには、このボックスを利用して選択を行います。

値

配信のために、データを分割して縮小するドキュメントに含める値を選択するには、このボックスを利用して選択を行います。

選択項目

選択済みの項目を表示します。

選択値 (Selected Values)

選択済みの値を表示します。

選択を解除 (Clear Selection)

選択したすべての項目および値を解除するには、選択を解除 (Clear Selection) アイコン  をクリックします。

ブックマークで分割 (Reduce by Bookmark)

ドキュメントで使用できるブックマークを示します。



ドロップダウン リストから選択しなかったすべてのデータは、分割ドキュメントから削除されます。

ブックマーク

ドロップダウン リストをスクロール ダウンして、配信するブックマークを選択します。

ループと分割

項目

選択した項目の値ごとに別個のドキュメントを複数作成するには、値をループさせる始点とする[項目]を選択します。



ドロップダウン リストから選択しなかったすべてのデータは、分割ドキュメントから削除されます。

ヘルプ

コンテキストに応じたヘルプ (この WebHelp) は、現在のページの内容に関する詳細な情報を提供するもので、ページ右上角にある ヘルプ をクリックすると表示されます。

移動ボタン

ウィザードでは、ページ間を移動するために次のボタンが利用できます。

- Previous:「ウィザードの前のページにもどる」を意味し、現在のウィザード ページの設定が保存されます。次に進むには 次へボタンをクリックします。
- 次へ:「ウィザードの次のページに進む」を意味します。



このボタンは現在のウィザード ページで必要なデータを設定した場合にのみ利用可能です。

- Finish (終了):「このウィザードを終了」を意味し、設定した情報が適用されます。



このボタンは、ウィザードのすべてのページで設定を終えた場合にのみ利用可能です。

- キャンセルまたは  は、設定を使用したり保存せず、「このウィザードを中止する」を意味します。タスクは生成されません。

配布 (手動)

この配布 (手動) ウィザードガイドページでは、新しいタスク can be configured regarding the distribution method of the 現在のドキュメント and the authorization of recipients.



ウィザードガイドページでは、データ入力 は必須です。

ドキュメントの配信先は QlikView Server、ユーザー (メールで直接配信)、特定のフォルダで、配信方法には以下があります。

- QlikView Server への配布
- メールで配信 (Distribute via E-mail)
- フォルダに配信 (Distribute to Folder)

配信方法の可能な組み合わせは、「なし」、「任意の1つ」、「任意の2つ」、「3つ全部」のいずれかです。



QlikView Server に PDF を配信することはできません。

QlikView Server に配信 (Distribute to QlikView Server)

特定のリソース エントリを配信先に追加するには、右側パネルの AllowAlternateAdmin=1 アイコン、 をクリックし、以下の項目を構成します。

サーバー

ドロップダウン リストから、任意のサーバーを選択します。

マウント (Mount)

ドロップダウン リストから、任意のマウントを選択します (適用可能な場合)。

ユーザーの種類

受信者の種類のことです。

ユーザーおよびグループ許可を管理するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つ選択します。

全ユーザー (All Users): 認証を受けた全ユーザー (ファイルへの匿名アクセスが許可されていることを意味します)。



匿名アクセスが許可されている場合、IQVS アカウントはファイル アクセスを制御します。つまり、正しいファイル アクセス権を IQVS アカウントに付与する必要があることを意味します。既定では、QlikView インストールのローカル アカウントとして、アカウントを作成します。クラスター環境では、全てのノードがアクセスできるように、ドメインのアカウントとして IQVS アカウントを作成する必要があります。

すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

受信者 (Recipients)

[User Type] (ユーザーの種類) 項目で [Named Users] (指定されたユーザー) が選択されている場合、以下を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search]

(検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

メールで配信 (Distribute via E-mail)

メール受信者の許可を管理するには、以下を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search]

(検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。

- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。



メールでユーザーのグループに配信するには、グループ自身のメールアドレスで、配布グループを作成します。DSC がグループ名で検索 (lookup) すると、グループのメールアドレスを返し、ドキュメントはそのメールアドレスに配信されます。

フォルダに配信 (Distribute to Folder)

パス (Path)

配信先のフォルダを選択するには、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログが開きます。

ユーザーの種類

ユーザーおよびグループの管理方法を選択するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

- すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。
- 項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーおよびグループの追加

[User Type] (ユーザーの種類) 項目で [Named Users] (指定されたユーザー) が選択されている場合、以下を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。

- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

ヘルプ

コンテキストに応じたヘルプ (この WebHelp) は、現在のページの内容に関する詳細な情報を提供するもので、ページ右上角にある ヘルプ をクリックすると表示されます。

移動ボタン

ウィザードでは、ページ間を移動するために次のボタンが利用できます。

- Previous:「ウィザードの前のページにもどる」を意味し、現在のウィザード ページの設定が保存されます。次に進むには 次へ ボタンをクリックします。
- 次へ:「ウィザードの次のページに進む」を意味します。



このボタンは現在のウィザード ページで必要なデータを設定した場合にのみ利用可能です。

- Finish (終了):「このウィザードを終了」を意味し、設定した情報が適用されます。



このボタンは、ウィザードのすべてのページで設定を終えた場合にのみ利用可能です。

- キャンセルまたは  は、設定を使用したり保存せず、「このウィザードを中止する」を意味します。タスクは生成されません。

配布 (ドキュメントのループ項目)

[General] 配布 (ドキュメントのループ項目) ウィザードガイド ページ、新規 タスクを構成して、QlikView Publisher (QVP) が配信できるようにします 現在のドキュメントにのみ有効です。



ウィザードガイド ページでは、データ入力 は必須です。

をドキュメントのループ項目 機能は、各ユーザーに応じてドキュメントの配信を行います。Combining the ループと分割 機能とループと分割 (Loop and Distribute) 機能を組み合わせると、各ユーザーには特定の関連する情報のみが配信されます。

たとえば、ひとつのドキュメントを特定の国の従業員全員に配信する必要がある場合、このドキュメントは QlikView Server に配信され、一意の名前が付けられます。ソリューションの説明は次の通りです。

1. 配信する必要がある情報を含むソース ドキュメントに各従業員のユーザー名を含む [従業員 (Employee)] 項目を追加します。この際、ユーザーの所属する国に関連付けることを忘れないようにします。
2. 設定 項目値で (By Field Value) 用 ループと分割 使用 国 項目に設定された書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。
3. 名前テンプレートを編集して 国 項目を含み、%SourceDocumentName%
%DocumentField, Country%。

4. テスト配信先情報を含む項目 (Field Containing Recipient Information) ドロップダウンリストで、[従業員 (Employee)] 項目を選択します。項目に設定された書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。
5. <appSettings> ユーザー ID の照合 (Check User Identity On) ドロップダウンリストで、SAMAccountName オプション。
6. <appSettings> ターゲットの種類 (Target Type) ドロップダウンリストで、[QlikView Server] オプションを選択します。

ループと分割 (Loop and Distribute)

ドキュメントを開く (Open Document)

ドキュメントを開くには、配信先に関する情報を含む項目を有効にし、このボタンをクリックします。



この機能を使用するには、ドキュメントを開く (Open Document) ボタンあるいは利用可能であれば [...] ボタンをクリックします。時間がかかる場合がある為、これは暗示的なコマンドとして動作します。

配信先情報を含む項目 (Field Containing Recipient Information)

配信先に関する必要な情報を含む項目を、ドロップダウンリストから選択します。

ユーザー ID の照合 (Check User Identity On)

ユーザー ID の照合の種類を、ドロップダウンリストから選択します。利用可能な Directory Service 属性は次の通りです。

- SecurityIdentifier
- DisplayName
- SAMAccountName
- EmailAddress
- UserPrincipalName

これらの属性名は、Microsoft Active Directory の属性に対応しています。次の説明をご覧ください。

- SecurityIdentifier: ユーザー アカウントやグループ アカウント、あるいは ACE 適用のログオンセッションを識別する際に使用される変数長の一意の値。
- DisplayName: オブジェクトの表示名で、ユーザーの名、ミドルネームのイニシャル、姓の組み合わせが一般的。
- SAMAccountName: Windows NT 4.0 や Windows 95、Windows 98、LAN Manager のような古いバージョンの OS を実行しているクライアントやサーバーをサポートするために使用されるログオン名。古いバージョンのクライアントをサポートするには、この属性は 20 文字以内である必要があります。
- E-mailAddress: 連絡先の電子メール アドレスのリスト。
- UserPrincipalName: UPN を含む属性で、インターネット標準 RFC 822 を基準とするインターネットスタイルのユーザー ログイン名。UPNは識別名より短く、覚えやすいものです。規則では、これはユーザーの電子メール名にマップされる必要があります。この属性に設定される値は、ユーザー ID およびドメイン名の長さと同じです。

別の Directory Service Provider (DSP) を使用している場合は、属性の名前は類似した機能を有する属性名に対応しています。

配信先 (Destination)

ターゲットの種類 (Target Type)

ドキュメントの配信方法を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにし、必要な項目を設定します。



配信先を設定していない場合は、ループ配信は実行されません。また、ループによって設定されているため受取人も指定されません。

QlikView Server

QlikView Server (QVS) に配信する場合は、このチェックボックスをオンにし、目的のサーバーおよびマウント (Mount) をドロップダウンリストから選択します。

電子メール (E-mail)

電子メールの受取人に配信する場合は、このチェックボックスをオンにします。

フォルダ

配信先のフォルダを選択するには、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。

ヘルプ

コンテキストに応じたヘルプ (この WebHelp) は、現在のページの内容に関する詳細な情報を提供するもので、ページ右上角にあるヘルプをクリックすると表示されます。

移動ボタン

ウィザードでは、ページ間を移動するために次のボタンが利用できます。

- Previous:「ウィザードの前のページにもどる」を意味し、現在のウィザードページの設定が保存されません。次に進むには次へボタンをクリックします。
- 次へ:「ウィザードの次のページに進む」を意味します。



このボタンは現在のウィザードページで必要なデータを設定した場合にのみ利用可能です。

- Finish (終了):「このウィザードを終了」を意味し、設定した情報が適用されます。



このボタンは、ウィザードのすべてのページで設定を終えた場合にのみ利用可能です。

- キャンセルまたは  は、設定を使用したり保存せず、「このウィザードを中止する」を意味します。タスクは生成されません。

タスクのトリガー

[General] タスクのトリガー ウィザードガイドページ、新規 タスクを構成して、トリガーにより開始することができます。1つのタスクには複数のトリガーを設定することができます、タスクのワークフローを作成できます。

このタスクの起動 トリガー (Triggers for Running this Task)

各行は個別のトリガーを表示します。この現在のタスクは、トリガーがリリースされると開始されます (OR 演算子)。複数のトリガー (複数条件) をリリースするには、現在のタスクを開始する前に複数 イベント完了時 (On Multiple Events Completed) 機能を使用する必要があります (AND 演算子)。

トリガーを作成するには、パネル内右側で [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

トリガー (Trigger)

トリガーの種類。可能な値は次の通りです。

- Once トリガー
- Task Finished トリガー
- External Event トリガー
- And トリガー

詳細 (Details)

The trigger condition settings, that is, a summary of when the trigger starts the 現在のタスク.

有効化 (Enabled)

トリガーの現在の状態。可能な値は次の通りです。

- 有効化 (Enabled)
- 無効化 (Disabled)

トリガーの編集 (Edit Trigger)

トリガーを構成するには、トリガーの編集 (Edit Trigger) アイコン  をクリックします。

【削除】

トリガーを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

トリガーの設定 (Configure Trigger) ダイアログ

タスクの開始

トリガーの種類を選択するには、ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックします。

- スケジュール設定 (On a Schedule)
- 他のタスク イベント (On Event from Another Task)
- 外部 イベント (On an External Event)
- 複数 イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

有効化 (Enabled)

タスク実行のトリガーを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。トリガーを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

スケジュール設定 (On a Schedule)

ここでスケジュール設定 (On a Schedule) trigger type was chosen, a trigger can be scheduled to start the 現在のタスク. 次の構成オプションが利用できます。

定期的 (Recurrence)

トリガーを開始するスケジュールは、次のオプションのいずれかをクリックして選択します。

- 一度 (Once)
- 時間ごと (Hourly)
- 日ごと (Daily)
- 週ごと (Weekly)
- 月ごと (Monthly)
- 連続 (Continuously)



時刻は、24 時間形式にする必要があります。

開始時刻 (Start at)

トリガーの開始日時を「yyyy-mm-dd hh:mm:ss」.

2011-12-31 23:59:59

一度 (Once)

これ以降の設定はありません。

時間ごと (Hourly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を、時間および分テキストボックスに入力します。

1 および 10: トリガーは 70 分ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)

- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、トリガーは毎日実行されます。

設定時間のみで実行 (Run Only Between)

このチェックボックスをオンにすると、1日のうちトリガーを開始する時間を制限できます。トリガーの開始を許可する、開始時間と停止時間を [start] (開始) および [stop] (停止) テキストボックスに、hh:mm (時間:分)、時間制限を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

日ごと (Daily)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を日 (Day) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

3: トリガーは 3 日ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

週ごと (Weekly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を [Weeks] (週ごと) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

2: トリガーは 2 週間ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、現在の曜日が選択されます。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

月ごと (Monthly)

月 (Months)

トリガーを開始する月を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 1 月 (January)
- 2 月 (February)
- 3 月 (March)
- 4 月 (April)
- 5 月
- 6 月 (June)
- 7 月 (July)
- 8 月 (August)
- 9 月 (September)
- 10 月 (October)
- 11 月 (November)
- 12 月 (December)



月を選択しないと、現在の月が選択されます。

すべて選択 (Check All)

すべての月を自動的に選択するには、このボタンをクリックします。

すべて解除 (Uncheck All)

すべての月の選択を自動的に解除するには、このボタンをクリックします。

開始のみ (Run Only)

トリガーを選択した月 (Months) 次のオプションを1つ選択します。

- [Days] (日)とトリガーを開始する日を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 - 1, 2, 3... 31(各値は月の第何日目かを表します)
 - 最後:月の末日を意味します。



日を選択しない場合は、トリガーは実行されません。

- オン (On) と月の日付を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

トリガーする日数

順序	週日 (Weekday)
First	月曜日 (Monday)
2 番目	火曜日 (Tuesday)
3 番目	水曜日 (Wednesday)
4 番目	木曜日 (Thursday)
最後	金曜日 (Friday)
	土曜日 (Saturday)
	日曜日 (Sunday)

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

連続 (Continuously)

これ以降の設定はありません。

他のタスクイベント(On Event from Another Task)

ここで他のタスク イベント(On Event from Another Task)トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon the event from another task. 次の構成オプションが利用できます。

開始 (Start on)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー イベントを選択します。

- Successful (成功): タスクが正常に実行されたことを意味します。
- 失敗 (Failed): タスクの実行に失敗したことを意味します。

完了 (Completion of)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー タスクを選択します。

外部イベント (On an External Event)

ここで外部イベント (On an External Event)トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon an external event, that is, an outside component, making a QlikView Management Service (QMS) API call. 次の構成オプションが利用できます。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

ここで複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed)トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクwhen other tasks have 実行された時にbeen completed in their execution within a certain time. 次の構成オプションが利用できます。

時間の制約 (Time Constraint)

すべてのタスクの実行が完了しなければならない時間的制約を、[分]テキストボックスに目的の数値を入力して設定します。

既定のパス: 360:6 時間に相当。

すべてのイベント完了後にタスクを実行 (Run task when all of these events completed)

外部イベント (External event)

トリガーを開始させるために完了する必要があるタスクリストに外部イベントを追加して、このチェックボックスをオンにします。リストから外部イベントを完全に削除するには、このチェックボックスをオフにします。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

タスク完了 (Task Completed)

タスクとトリガーを開始するために完了させておく必要があるイベントを追加するには、パネル内右側にある [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

イベント

ドロップダウン リストからタスク イベントを選択します。

タスク (Task)

Select the corresponding task, for which an event was selected in the イベント field, in the drop-down list.

ヘルプ

コンテキストに応じたヘルプ (この WebHelp) は、現在のページの内容に関する詳細な情報を提供するもので、ページ右上角にある ヘルプ をクリックすると表示されます。

移動 ボタン

ウィザードでは、ページ間を移動するために次のボタンが利用できます。

- Previous:「ウィザードの前のページにもどる」を意味し、現在のウィザード ページの設定が保存されます。次に進むには 次へ ボタンをクリックします。
- 次へ:「ウィザードの次のページに進む」を意味します。



このボタンは現在のウィザード ページで必要なデータを設定した場合にのみ利用可能です。

- Finish (終了):「このウィザードを終了」を意味し、設定した情報が適用されます。



このボタンは、ウィザードのすべてのページで設定を終えた場合にのみ利用可能です。

- キャンセルまたは  は、設定を使用したり保存せず、「このウィザードを中止する」を意味します。タスクは生成されません。

(基本設定)

この基本設定タブでは、現在のタスクの有効化と無効化が可能であり、そのステータスをチェックできます。

基本操作

有効化 (Enabled)

タスクを有効化するには、このチェックボックスをオンにします。タスクを無効化するには、このチェックボックスをオフにします。



無効化されたタスクによって作業が実行されることはありませんが、タスクそのものは実行されます。任意のタスクチェーンで、該当するタスクがスキップされるというのが正しい表現です。タスクを完全に無効化するには、すべてのトリガーを無効化します。これにより、タスクチェーン内の該当するタスクの後にあるすべてのタスクは、実行されなくなります。

タスク名 (Task Name)

タスク名を編集するには、このテキストボックスに任意の名前を入力します。



Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) タスク名 (Task Name) は一意である必要があります、そうでない場合は、末尾に数字が追加されて一意の名前になります。たとえば、「MyTask」は「MyTask (2)」になります。

Publisher グループ

専用タスクを作成するには、ドロップダウンリストから Publisher グループを選択します。

タスクの説明 (Task Description)

タスクの説明を編集するには、このテキストボックスに任意の説明を入力します。

概要

ドキュメントに設定されているタスクの概要のことで、受信者とトリガーが含まれます。

リロード

[General] リロード] タブで、現行タスクドキュメントをリロードするように構成できます。



異なるユーザードキュメント名を使用できるように、「分割 (Reduce)」で説明したドキュメント名テンプレートを使用して構成します。



危険なマクロはリロードタスクでは許可されていません。

リロードの実行 (Perform Reload)

有効化

タスクが実行されるときにドキュメントがリロードされるようにするには、このチェックボックスをオンにしてこの機能を有効化します。この機能を無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

データ保護

セクション アクセス

デフォルトでは、リロードは **QlikView Distribution Service (QDS)** が起動している場合にユーザーにより実行されます。このセクション アクセスの設定により、リロードが実行されている場合でも、他のユーザーによる使用を許可します。デフォルト設定をバイパスするには、このチェックボックスをオンにし、ユーザーおよびパスワードをそれぞれユーザー名およびパスワードテキストボックスに入力します。デフォルト設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。



デフォルト設定は定義しなおすことができます。

ユーザー名

ユーザー名を構成するには、任意の認証情報をこのテキストボックスに入力します。

パスワード

パスワードを構成するには、任意の認証情報をこのテキストボックスに入力します。

スクリプトのセットアップ (Script Setup)

パーシャル リロード

データの特定部分を、データの他の大部分よりも高い頻度で更新したい場合、パーシャル リロードがサポートされるようにスクリプトを記述することができます。これにより、通例 2 つのタスクが存在することになります。一方のタスクはフル リロードを低頻度で実行し、他方のタスクはパーシャル リロードを高頻度で実行することになります。パーシャル リロードを有効化するには、このチェックボックスをオンにします。フル リロードを有効化するには、このチェックボックスをオフにします。

スクリプトのパラメータ (Script Parameters)

値ごとに別々のドキュメントが作成されます。ドキュメントから項目を選択すると、該当する項目のすべての値が使用されます。

パラメータ名 (Parameter Name)

QlikView のスクリプトで定義される変数のことで、ドキュメントのスクリプトが実行されるときに使用されます。

パラメータ値 (Parameter Value)

の変数に割り当てられる値のことです。パラメータ名 (Parameter Name) 項目に表示されます。これらの値は、ドキュメントを作成する際に使用されます。一連のデータを使用するには、「-」(ダッシュ) で区切られた開始値と終了値を入力します。単一の値同士または一連の値同士を区切るには、「;」(セミコロン) を入力します。

または

ドキュメントの特定項目を選択し、その項目の各値ごとに別個のドキュメントを1つずつ作成するには、ドキュメントを開く (Open Document) ボタンをクリックして、任意のドキュメント項目を選択します。実行が開始された時点で存在していた値が使用されます。実行中に項目値が変更されても、それらの変更が新しいドキュメントに反映されることはありません。この項目を使用すると、パラメータ名 (Parameter Name) 項目に設定された書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。



この機能を使用するには、ドキュメントを開く (Open Document) ボタンあるいは利用可能であれば [...] ボタンをクリックします。時間がかかる場合がある為、これは暗示的なコマンドとして動作します。

サイズ縮小や分割

このサイズ縮小や分割タブでは、単一のドキュメントを元のドキュメントから複数の縮小されたコピーに分割するように構成できます。

データ分割を行い縮小されるドキュメントには、分割された情報のみが含まれます。セクションアクセス機能を使用するドキュメントには、すべての情報が含まれますが、一部は非表示になっています。



Section Access によるデータ分割は配信ドキュメントに予期せぬ結果を招く可能性があるため、注意して使用してください。

分割方法

次のオプションを1つ選択します。

- 項目値で分割 (Reduce by Field Value): 配信される項目およびそれらの値を選択することによって、1つの分割されたドキュメントが作成されます。
- ブックマークで分割 (Reduce by Bookmark): 配信されるブックマークを選択することによって、1つの分割ドキュメントが作成されます。

また、項目の値やブックマークをもとに、個別のドキュメントを複数作成することもできます。

ドキュメントを開く (Open Document)

ブックマークや項目、項目値を選択するためにドキュメントの内容を使用できるようにするには、このボタンをクリックしてドキュメントを開く必要があります。



この機能を使用するには、ドキュメントを開く (Open Document) ボタンあるいは利用可能であれば [...] ボタンをクリックします。時間がかかる場合がある為、これは暗示的なコマンドとして動作します。

分割ドキュメントの名前 (Reduced Document Name)

分割ドキュメントに次の名前を付けて保存 (Save the Reduced Document with the Following Name)

分割されたユーザードキュメントの名前テンプレート。

ドキュメントの名前テンプレートを作成するには、Edit NameTemplate (名前テンプレートを編集) アイコン  をクリックし、名前テンプレートダイアログの詳細を開いて構成するか、このテキスト項目で既定のドキュメントの名前テンプレートを編集します。



ドキュメントが上書きされないようにするため、必ず一意のドキュメント名を作成してください。

詳細な名前テンプレートダイアログに含まれる項目は、以下のとおりです。

- Publisher 要素 (Publisher Elements)
 - ソースドキュメント名 (Source Document Name)
 - タスク名 (Task Name)
 - Serial Number
 - スクリプト変数値 (Script Variable Value)
 - ドキュメント選択項目 (Select Document Field)
 - 「\」 (バックスラッシュ)、 「-」 (ダッシュ)、 「_」 (アンダースコア)、 「 」 (スペース)
- 日付と時刻
 - 年 - 2 桁 (Year - Two Digits)
 - 年 - 4 桁 (Year - Four Digits)
 - Month (月)
 - 月のテキスト (Month Text)
 - 日 (Day)
 - 年月日 (Year Month Day)
 - 時 (午前/午後) (Hour (AM/PM))
 - 時 (24 時間表示) (Hour (24h))
 - 時・分 (Hour Minute)
 - 年月日 - 時・分 (Year Month Day - Hour Minute)

ドキュメントの名前テンプレートを作成するには、ボタンをクリックし、 [Publisher Element] (Publisher 要素) および日付と時刻パネルから値を挿入します。作成されたテンプレートは [テンプレート] 項目に表示されます。これは、自由に編集することも可能です。テスト例項目には、適用可能な現在の値を使用して、作成されたドキュメント名が表示されます。

簡易分割 (Simple Reduce)

ドキュメントで使用できる項目 および 値 を示します。



最初の 1000 件のエントリのみが含まれます。ボックスで選択しなかったすべてのデータは、縮小されたドキュメントから削除されます。



このオプションは項目値で分割 (Reduce by Field Value) オプションが選択されている場合にのみ使用できます。

項目

配信のために、データを分割して縮小するドキュメントに含める項目を選択するには、このボックスを利用して選択を行います。

値

配信のために、データを分割して縮小するドキュメントに含める値を選択するには、このボックスを利用して選択を行います。

選択項目

選択済みの項目を表示します。

選択値 (Selected Values)

選択済みの値を表示します。

選択を解除 (Clear Selection)

選択したすべての項目および値を解除するには、選択を解除 (Clear Selection) アイコン  をクリックします。

ブックマークで分割 (Reduce by Bookmark)

ドキュメントで使用できるブックマークを示します。ドロップダウン リストをスクロール ダウンして、配信するブックマークを選択します。



ドロップダウン リストから選択しなかったすべてのデータは、分割ドキュメントから削除されます。



このオプションが有効になるのは、ブックマークで分割 (Reduce by Bookmark) が選択されている場合だけです。

ループと分割



QlikView は入力フィールドが含まれているテーブルでのループと分割をサポートしていません。各入力フィールドの元の値は、テーブルの行のインデックス値に置き換えられます。

項目値で (By Field Value)

選択した項目の値ごとに別個のドキュメントを複数作成するには、このオプションを選択します。その後で、値をループさせる [項目] を選択します。

ブックマークで (By Bookmark)

利用可能なブックマークごとに1つずつ別個のドキュメントを作成するには、このオプションを選択します。

配布

を配布タブには、次のページが含まれます。



Section Access によるデータ分割は配信ドキュメントに予期せぬ結果を招く可能性があるため、注意して使用してください。

- 手動
- ドキュメントのループ項目
- ファイルの種類
- 通知

これらのページでは、ユーザー ドキュメントになるソース ドキュメントの配信を管理することができます。

(手動)

この (手動) タブでは、ドキュメントの配信方法と受信者の許可を管理することができます。ドキュメントは、QlikView Server、ユーザー (メール経由)、および特定のフォルダに配信できます。このタブでは、QlikView ドキュメントの配信、およびクラウド展開への QlikView ドキュメントへのリンクを構成することもできます。

- [QlikView Server に配信 \(Distribute to QlikView Server\) \(page 51\)](#)
- [Cloud Native に配布 \(page 52\)](#)
- [メールで配信 \(Distribute via E-mail\) \(page 53\)](#)
- [フォルダに配信 \(Distribute to Folder\) \(page 54\)](#)

いずれの配信方法も組み合わせ可能です。

ドキュメントをフォルダーに配信する場合、カテゴリや属性などのドキュメント情報、メタデータは配信されません。ドキュメント情報も配信したい場合には、QlikView Server に配信する方法をとる必要があります。



QlikView Server に PDF を配信することはできません。

QlikView Server に配信 (Distribute to QlikView Server)

AllowAlternateAdmin=1

特定のリソース エントリを配信先に追加するには、右側パネルの AllowAlternateAdmin=1 アイコン、 をクリックし、以下の項目を構成します。

- サーバー
ドロップダウン リストから、任意のサーバーを選択します。
- マウント (Mount)
ドロップダウン リストから、任意のマウントを選択します (適用可能な場合)。
- ユーザーの種類
受信者の種類のことです。

ユーザーおよびグループ許可を管理するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つ選択します。

全ユーザー (All Users): 認証を受けた全ユーザー (ファイルへの匿名アクセスが許可されていることを意味します)。

 匿名アクセスが許可されている場合、IQVS アカウントはファイル アクセスを制御します。つまり、正しいファイル アクセス権を IQVS アカウントに付与する必要があることを意味します。既定では、QlikView インストールのローカル アカウントとして、アカウントを作成します。クラスター環境では、全てのノードがアクセスできるように、ドメインのアカウントとして IQVS アカウントを作成する必要があります。

すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

受信者 (Recipients)

[User Type] (ユーザーの種類) 項目で [Named Users] (指定されたユーザー) が選択されている場合、以下を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。

- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)]ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)]ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除]アイコン  をクリックします。

Cloud Native に配布

リンクの配布

Qlik Sense Enterprise SaaS または Kubernetes 上の Qlik Sense Enterprise 展開へのリンクの配布を有効にする場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、[展開] ドロップダウンメニューが使用可能になります。

ドキュメントの配布

Qlik Sense Enterprise SaaS または Kubernetes 上の Qlik Sense Enterprise 展開への QlikView ドキュメントの配布を有効にする場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、[展開] ドロップダウンメニューが使用可能になります。

配置

ドロップダウンメニューから、コンテンツを配布する Qlik Sense Enterprise SaaS または Kubernetes 上の Qlik Sense Enterprise 展開を選択します。

ユーザー (リンク配布)

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログアイコン  をクリックします。



ドキュメントの配布時には、[ユーザーの管理] 設定は使用できません。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウンリストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。

- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)]ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)]ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

グループ (リンク配布)

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。



ドキュメントの配布時には、[グループの管理] 設定は使用できません。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)]ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)]ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

メールで配信 (Distribute via E-mail)

ユーザーおよびグループの追加

メール受信者の許可を管理するには、以下を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。



メールでユーザーのグループに配信するには、グループ自身のメールアドレスで、配布グループを作成します。DSC がグループ名で検索 (lookup) すると、グループのメールアドレスを返し、ドキュメントはそのメールアドレスに配信されます。

フォルダに配信 (Distribute to Folder)

パス (Path)

配信先のフォルダを選択するには、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログが開きます。

[Named Users] (指定されたユーザー) が

ユーザーおよびグループの管理方法を選択するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

- すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。
- 項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ドキュメントのループ項目

[General] ドキュメントのループ項目 タブ、QlikView Publisher (QVP) を構成して現在のドキュメントにのみ有効です。

をドキュメントのループ項目 機能は、各ユーザーに応じてドキュメントの配信を行います。Combining the ループと分割 機能とループと分割 (Loop and Distribute) 機能を組み合わせると、各ユーザーには特定の関連する情報のみが配信されます。

たとえば、ひとつのドキュメントを特定の国の従業員全員に配信する必要がある場合、このドキュメントは QlikView Server に配信され、一意の名前が付けられます。ソリューションの説明は次の通りです。

1. 配信する必要がある情報を含むソース ドキュメントに各従業員のユーザー名を含む [従業員 (Employee)] 項目を追加します。この際、ユーザーの所属する国に関連付けることを忘れないようにします。
2. 設定項目値で (By Field Value) 用 ループと分割 使用 国 項目に設定された書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。
3. 名前テンプレートを編集して 国 項目を含み、%SourceDocumentName%
%DocumentField, Country%。
4. テスト配信先情報を含む項目 (Field Containing Recipient Information) ドロップダウンリストで、[従業員 (Employee)] 項目を選択します。項目に設定された書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。
5. <appSettings> ユーザー ID の照合 (Check User Identity On) ドロップダウンリストで、SAMAccountName オプション。
6. <appSettings> ターゲットの種類 (Target Type) ドロップダウンリストで、[QlikView Server] オプションを選択します。

ループと分割 (Loop and Distribute)

ドキュメントを開く (Open Document)

ドキュメントを開くには、配信先に関する情報を含む項目を有効にし、このボタンをクリックします。



この機能を使用するには、ドキュメントを開く (Open Document) ボタンあるいは利用可能であれば [...] ボタンをクリックします。時間がかかる場合がある為、これは暗示的なコマンドとして動作します。

配信先情報を含む項目 (Field Containing Recipient Information)

配信先に関する必要な情報を含む項目を、ドロップダウンリストから選択します。

ユーザー ID の照合 (Check User Identity On)

ユーザー ID の照合の種類を、ドロップダウンリストから選択します。利用可能な Directory Service 属性は次の通りです。

- SecurityIdentifier
- DisplayName
- SAMAccountName
- EmailAddress
- UserPrincipalName

これらの属性名は、Microsoft Active Directory の属性に対応しています。次の説明をご覧ください。

- SecurityIdentifier ユーザー アカウントやグループ アカウント、あるいは ACE 適用のログオンセッションを識別する際に使用される変数長の一意の値。

- DisplayNameオブジェクトの表示名で、ユーザーの名、ミドルネームのイニシャル、姓の組み合わせが一般的。
- SAMAccountName:Windows NT 4.0 や Windows 95、Windows 98、LAN Manager のような古いバージョンの OS を実行しているクライアントやサーバーをサポートするために使用されるログオン名。古いバージョンのクライアントをサポートするには、この属性は 20 文字以内である必要があります。
- E-mailAddress:連絡先の電子メールアドレスのリスト。
- UserPrincipalName:UPN を含む属性で、インターネット標準 RFC 822 を基準とするインターネットスタイルのユーザーログイン名。UPNは識別名より短く、覚えやすいものです。規則では、これはユーザーの電子メール名にマップされる必要があります。この属性に設定される値は、ユーザーID およびドメイン名の長さと同じです。

別の Directory Service Provider (DSP) を使用している場合は、属性の名前は類似した機能を有する属性名に対応しています。

配信先 (Destination)

ターゲットの種類 (Target Type)

ドキュメントの配信方法を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにし、必要な項目を設定します。



配信先を設定していない場合は、ループ配信は実行されません。また、ループによって設定されているため受取人も指定されません。

QlikView Server

QlikView Server (QVS) に配信する場合は、このチェックボックスをオンにし、目的のサーバーおよびマウント (Mount) をドロップダウンリストから選択します。

電子メール (E-mail)

電子メールの受取人に配信する場合は、このチェックボックスをオンにします。

フォルダ

配信先のフォルダを選択するには、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。

ファイルの種類

[General] ファイルの種類 タブ、現在配信されたドキュメントのタイプを構成できます。



QlikView Server に PDF を配信することはできません。

出力ドキュメントの種類 (Output Document Type)

次のオプションを1つ選択します。

- QlikView ドキュメント: 該当するドキュメントは、**QlikView** ドキュメントとして配信されます。
- ソース ドキュメントからの PDF レポート (PDF Report from Source Document): 該当するドキュメントは、ソース ドキュメントから PDF レポートとして配信されます。PDF レポートのベースとするレポートを指定するには、ドロップダウン リストで **QlikView** レポートを選択して、ドキュメントを開く (Open Document) ボタンをクリックします。このドロップダウン リストに、利用可能なレポートがデータとして投入されるのは、該当するドキュメントが開かれた後です。ドキュメントを PDF レポートとして配信するには、特別なライセンスが必要です。



この機能を使用するには、ドキュメントを開く (Open Document) ボタンあるいは利用可能であれば [...] ボタンをクリックします。時間がかかる場合がある為、これは暗示的なコマンドとして動作します。

通知

この通知 タブでは、配信受信者を通知メールの受信者に指定し、ドキュメントの更新を知らせることができます。各メールアドレスは、ユーザーが属するディレクトリサービスから取得されます。たとえば、**Windows** ユーザーのメールアドレスは、**Windows** アクティブ ディレクトリから取得されます。

通知メール (Notification E-mail)

通知メールを受信者に送信 (Send Notification E-mail To Recipients)

通知メールを、配信先のひとつである受信者全員に送信する場合、このオプションにチェックを入れます。



受信者がメール配信先の1つである場合は、ドキュメントを含むメールとは別に、通知メールを受け取ることはありません。

ドキュメント情報

[General] ドキュメント情報 タブ、現在のドキュメントにのカテゴリの割り当て、作成、編集、削除が可能です。カテゴリはドキュメントをコンテナにバンドルするために使用されるもので、エンドユーザーはこれによって分類を簡単に行うことができます。これらのカテゴリは、**QlikView AccessPoint** のエンドユーザーのみに表示されます。各ドキュメントは1つのカテゴリにのみ属することが可能です。

基本設定

[Select Category] (カテゴリの選択)

ドキュメントにカテゴリを割り当てするには、ドロップダウン リストに表示されているカテゴリから1つを選択します。

既定のパス: 初期設定。

新しいカテゴリの入力 (Or Type a New Category)

カテゴリを作成するには、このテキスト ボックスに説明的な名前を入力します。新しカテゴリが カテゴリの選択 (Select Category) ドロップダウン リストで使用可能になります。カテゴリは、**QlikView AccessPoint** に表示されます。



カテゴリの再割り当ては可能ですが、削除はできません。

最終更新時間が(分)よりも古い場合に警告を表示:

ドキュメントが指定された分数内に更新されなかった場合に、警告するように設定します。警告アイコンが、QlikView AccessPoint のドキュメントカードに表示されます。

ドキュメントの説明文 (Document Description)

QlikView AccessPoint のドキュメントの詳細に表示されるドキュメントの説明文を作成するには、このテキストボックスに説明を入力します。

属性 (Attribute)

メタデータ属性は作成可能であり、ドキュメントに割り当てることも可能です。こうした属性は名前と値という任意の組み合わせです。属性はドキュメントには保存されませんが、QlikView Server Document Metadata Service (DMS) 機能を有する QlikView Server のメタデータに保存されます。サードパーティ製のアプリケーションの場合は、qvxプロトコルを使ってデータベースから属性の読み取りや抽出ができます。QlikView AccessPoint の各属性は、正しいドキュメントを検索するために有用です。属性を作成し、値を割り当ててメタファイルに保存するには、パネルの右側にある [Add] (追加) アイコン、 をクリックし、以下の項目を構成します。

[Name] (名前)

このテキストボックスに説明的な名前を入力し、メタデータの属性名を設定します。

値

このテキストボックスに、[名前] 項目のメタデータ属性名に割り当てる値を入力します。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

[Trigger] (トリガー)

このトリガー (Trigger) タブでは、現在のタスクをトリガーによって開始されるように構成することができます。1 つのタスクには複数のトリガーを設定することができ、タスクのワークフローを作成できます。このタブには、以下の見出しが含まれます。

- 現在のトリガー (Current Triggers)
- タスクの依存関係 (Task Dependencies)
- タスク実行オプション (Task Execution Options)

現在のトリガー (Current Triggers)

各行は個別のトリガーを表示します。この現在のタスクは、トリガーがリリースされると開始されます (OR 演算子)。複数のトリガー (複数条件) をリリースするには、現在のタスクを開始する前に複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) 機能を使用する必要があります (AND 演算子)。

トリガーを作成するには、パネル内右側で [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

トリガー (Trigger)

トリガーの種類。可能な値は次の通りです。

- Once トリガー
- Task Finished トリガー
- External Event トリガー
- And トリガー

詳細 (Details)

The trigger condition settings, that is, a summary of when the trigger starts the 現在のタスク.

有効化 (Enabled)

トリガーの現在の状態。可能な値は次の通りです。

- 有効化 (Enabled)
- 無効化 (Disabled)

トリガーの編集 (Edit Trigger)

トリガーを構成するには、トリガーの編集 (Edit Trigger) アイコン  をクリックします。

[削除]

トリガーを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

トリガーの設定 (Configure Trigger) ダイアログ

タスクの開始

トリガーの種類を選択するには、ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックします。

- スケジュール設定 (On a Schedule)
- 他のタスクイベント(On Event from Another Task)
- 外部イベント (On an External Event)
- 複数 イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

有効化 (Enabled)

タスク実行のトリガーを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。トリガーを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

スケジュール設定 (On a Schedule)

ここで スケジュール設定 (On a Schedule) trigger type was chosen, a trigger can be scheduled to start the 現在のタスク. 次の構成オプションが利用できます。

定期的 (Recurrence)

トリガーを開始するスケジュールは、次のオプションのいずれかをクリックして選択します。

- 一度 (Once)
- 時間ごと (Hourly)
- 日ごと (Daily)
- 週ごと (Weekly)

- 月ごと (Monthly)
- 連続 (Continuously)



時刻は、24 時間形式にする必要があります。

開始時刻 (Start at)

トリガーの開始日時を「yyyy-mm-dd hh:mm:ss」.

2011-12-31 23:59:59

一度 (Once)

これ以降の設定はありません。

時間ごと (Hourly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を、時間および分テキストボックスに入力します。

1 および 10: トリガーは 70 分ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、トリガーは毎日実行されます。

設定時間のみで実行 (Run Only Between)

このチェックボックスをオンにすると、1 日のうちトリガーを開始する時間を制限できます。トリガーの開始を許可する、開始時間と停止時間を [start] (開始) および [stop] (停止) テキストボックスに、hh:mm (時間: 分). 時間制限を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

日ごと (Daily)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を日 (Day) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

3: トリガーは 3 日ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

週ごと (Weekly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を [Weeks] (週ごと) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

2: トリガーは 2 週間ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)

- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、現在の曜日が選択されます。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

月ごと (Monthly)

月 (Months)

トリガーを開始する月を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 1 月 (January)
- 2 月 (February)
- 3 月 (March)
- 4 月 (April)
- 5 月
- 6 月 (June)
- 7 月 (July)
- 8 月 (August)
- 9 月 (September)
- 10 月 (October)
- 11 月 (November)
- 12 月 (December)



月を選択しないと、現在の月が選択されます。

すべて選択 (Check All)

すべての月を自動的に選択するには、このボタンをクリックします。

すべて解除 (Uncheck All)

すべての月の選択を自動的に解除するには、このボタンをクリックします。

開始のみ (Run Only)

トリガーを選択した月 (Months) 次のオプションを1つ選択します。

- [Days] (日)とトリガーを開始する日を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 - 1, 2, 3... 31(各値は月の第何日目かを表します)
 - 最後:月の末日を意味します。



日を選択しない場合は、トリガーは実行されません。

- オン (On) と月の日付を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

トリガーする日数

順序	週日 (Weekday)
First	月曜日 (Monday)
2 番目	火曜日 (Tuesday)
3 番目	水曜日 (Wednesday)
4 番目	木曜日 (Thursday)
最後	金曜日 (Friday)
	土曜日 (Saturday)
	日曜日 (Sunday)

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ssの形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

連続 (Continuously)

これ以降の設定はありません。

他のタスク イベント(On Event from Another Task)

ここで他のタスク イベント(On Event from Another Task)トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon the event from another task. 次の構成オプションが利用できます。

開始 (Start on)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー イベントを選択します。

- Successful (成功): タスクが正常に実行されたことを意味します。
- 失敗 (Failed): タスクの実行に失敗したことを意味します。

完了 (Completion of)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー タスクを選択します。

外部 イベント (On an External Event)

ここで外部イベント (On an External Event) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon an external event, that is, an outside component, making a QlikView Management Service (QMS) API call. 次の構成オプションが利用できます。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

複数 イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

ここで複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクwhen other tasks have 実行された時にbeen completed in their execution within a certain time. 次の構成オプションが利用できます。

時間の制約 (Time Constraint)

すべてのタスクの実行が完了しなければならない時間的制約を、[分] テキストボックスに目的の数値を入力して設定します。

既定のパス: 360:6 時間に相当。

すべてのイベント完了後にタスクを実行 (Run task when all of these events completed)

外部 イベント (External event)

トリガーを開始させるために完了する必要があるタスクリストに外部イベントを追加して、このチェックボックスをオンにします。リストから外部イベントを完全に削除するには、このチェックボックスをオフにします。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

タスク完了 (Task Completed)

タスクとトリガーを開始するために完了させておく必要があるイベントを追加するには、パネル内右側にある [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

イベント

ドロップダウン リストからタスク イベントを選択します。

タスク (Task)

Select the corresponding task, for which an event was selected in the イベントfield, in the drop-down list.

タスクの依存関係 (Task Dependencies)

タスク依存関係は、現在のタスク現在のタスクが実行されるようにするための手段です。The task dependencies overrule any trigger, which means that a trigger might not be able to start the 現在のタスク, if a task dependency for the 現在のタスクis not fulfilled. To configure a dependency for the 現在のタスク, click on the [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

タスク (Task)

Select the task(s), which must have been successfully executed before the 現在のタスクcan be executed, in the drop-down list.

[削除]

タスクの依存関係を完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

タスク実行オプション (Task Execution Options)

トリガーは、期間中に現在のタスクを数回にわたって開始しようとすることを許可できます。

選択するには、

現在のタスクの開始試行回数を現在のタスクこのテキストボックスに任意の数値を入力します。

既定のパス: 1.

タイムアウト (単位: 分) (Timeout in Minutes)

To choose a time period for the 選択するには、このテキストボックスに数値を入力します。

既定のパス: 1440(24 時間に相当)

検索機能 (Search Function)

検索項目には、以下が適用されます。

- 検索は、左側のツリー表示にリストされているエントリについて実行されます。
- アスタリスク演算子 (「*」: 任意の文字 (列) を表す演算子) がサポートされます。
- 区切り演算子 (「;」 (セミコロン): 同時に複数の検索条件を設定できる演算子) がサポートされます。

`doc*;test*` は、`doc*` または `test*`。

- 大文字と小文字は、区別されません。それらは同一文字 (列) と見なされます。
- 検索語には、拡張子 `.qvw` および `.qvw` が自動的に付けられます。

`document;test` は、`document.qvw;test.qvw`; の検索、つまり `document.qvw` および `test.qvw` に一致します。

サーバー

をサーバー タブには、次のページが含まれます。

- サーバー オブジェクト
- 可用性 (Availability)
- パフォーマンス

これらのページでは、サーバー オブジェクトの承認と現在のドキュメントに のアクセス コントロールを管理 することができます。

サーバー オブジェクト

[General] サーバー オブジェクト タブ、ユーザーはサーバー オブジェクトを作成 することが承認 されます 現在のドキュメントにでのみ有効です。

サーバー オブジェクトの作成 を許可 (Allow Creation of Server Objects)

ユーザーがサーバー オブジェクトを作成 できるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。ユーザーにサーバー オブジェクトを作成 する許可 を付与 しない場合は、このチェック ボックスをオフにします。



チェックボックスのチェックを外すと、サーバー オブジェクトを作成 することはできません。サーバーのブックマークは、チェックボックスのチェックを外した場合にのみ、他のユーザーとのブックマークの共有に影響を及ぼす可能性があります。

ユーザーの種類

ユーザーおよびグループ認証を管理するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

すべての認証ユーザー (All Authenticated Users): 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーおよびグループの追加

[User Type] (ユーザーの種類) 項目 で [Named Users] (指定されたユーザー) が選択されている場合、以下を実行します。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択 ユーザーとグループが表示 されます。

- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

可用性 (Availability)

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) 可用性 (Availability) タブでは、現在のドキュメント(クライアントのアクセス、ダウンロードの制約、およびセッションのコラボレーションを含む)の制御を管理します。

アクセス方法

現行ドキュメントを開いてダウンロードするのに、どの QlikView クライアントを QlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、次のチェックボックスの1つにチェックマークを入れます。

- IE クライアント、つまり QlikView プラグイン クライアントです。
- Ajax クライアントおよび小型デバイス バージョン、つまり AJAX クライアントと小型デバイス用の AJAX です。
 - Ajax クライアント URL、AJAX ページを表示するためにデフォルトではなく他の HTML ページを使用するには、このテキストボックスに有効なパスを入力します。



小型デバイスの場合、常に次の URL を使用してください:
`/QvAJAXZfc/mobile/opendoc.htm`

ユーザー権限

ドキュメントのダウンロード (Download Document)



ユーザーにドキュメントのダウンロードを許可し、ドキュメントへのアクセス権を付与することは、セキュリティリスクの発生に繋がる恐れがあります。

ドキュメントのダウンロード権限を管理する、つまりユーザーが現行ドキュメントをダウンロードして QlikView Desktop で開けるようにするには、このチェックボックスにチェックマークを入れて、次の操作を実行します:

ユーザーの種類

ユーザーおよびグループの管理方法を選択するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

全ユーザー (All Users): 認証を受けた全ユーザー(ファイルへの匿名アクセスが許可されていることを意味します)。



匿名アクセスが許可されている場合、IQVS アカウントはファイル アクセスを制御します。つまり、正しいファイル アクセス権を IQVS アカウントに付与する必要があることを意味します。既定では、QlikView インストールのローカル アカウントとして、アカウントを作成します。クラスター環境では、全てのノードがアクセスできるように、ドメインのアカウントとして IQVS アカウントを作成する必要があります。

すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーおよびグループの追加

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

印刷および Excel へのエクスポート (Print and Export to Excel)



QlikView 11 では、タッチ式デバイスを使用しているクライアントは、ドキュメントを Microsoft Excel にエクスポートできません。

ドキュメントの印刷およびエクスポート権限を管理するには、このチェックボックスをオンにした後、次の手順に従います。

ユーザーの種類

ユーザーおよびグループの管理方法を選択するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

全ユーザー (All Users): 認証を受けた全ユーザー(ファイルへの匿名アクセスが許可されていることを意味します)。



匿名アクセスが許可されている場合、IQVS アカウントはファイル アクセスを制御します。つまり、正しいファイル アクセス権を IQVS アカウントに付与する必要があることを意味します。既定では、QlikView インストールのローカル アカウントとして、アカウントを作成します。クラスター環境では、全てのノードがアクセスできるように、ドメインのアカウントとして IQVS アカウントを作成する必要があります。

すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます(名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーおよびグループの追加

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

セッションの共有

で、ユーザーがセッションを共有できるようにするには QlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、このチェックボックスにチェックマークを入れます。

パフォーマンス

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) パフォーマンスタブでは、現在のドキュメント(負荷分散、事前ロード、同時セッションアクセス、および監査ログを含む)の制御を管理します。

セッション (Sessions)

同時セッション最大数

現在のドキュメントに対する同時セッション最大数を現在のドキュメントこのテキストボックスに数値を入力します。制限を指定しない場合は、空欄のまま残します。

最大アイドル時間 (Maximum Inactive Session Time)

指定された時間内にユーザーセッションに動作のない場合、QVSによって自動的に閉じるよう設定することができます。セッションのタイムアウトを設定するには、このテキストボックスに適切な値を入力します。



最大アイドル時間は、グローバルレベルで設定することもできます。セッション時間は設定されている最も短い値が優先されます。このテキストボックスに入力された時間がグローバルセッションの時間より短い場合は、グローバルセッションの時間が無視されます。

空白のままにするか、0に設定すると無制限になります。

ドキュメントタイムアウト (Document Timeout)

ドキュメントを開いておく貴重なシステムリソース(例えば割り当てられたメモリ量やRAM)を使うので、使用しないドキュメントは開いたままにしておくべきではありません。しかし、ドキュメントをあまりにも急速に閉じてしまうと、ユーザーが次回そのドキュメントにアクセスする際に、サーバーがそれを再度開くのに時間がかかるため、待ち時間が長くなる場合があります。この値は、QlikView Server (QVS) がドキュメントを閉じてリソースを解放するまでの、ドキュメントが使われていない状態を許可する時間を制御します。

監査ログを有効化 (Enable Audit Logging)

監査ログ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。監査ログ機能を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

ドキュメント管理 (Document Control)

サーバー

ドロップダウンリストでサーバーを選択します。

カスタマイズ (Customize)

複数のサーバーが存在する場合、およびカスタマイズオプション(開いているドキュメント (Document Available) 項目内)が選択されている場合は、以下を構成します。

開いているドキュメント (Document Available)

ロードバランス、つまり現在のドキュメントで利用可能なノードを設定するには、QlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、次のいずれかのオプションを選択します。

- すべてのノードを常にオン (Always on All Nodes): すべてのノードが利用可能です。
 - 事前ロード (Preload)
常時、現在のドキュメントに迅速にアクセス可能にするには、このチェックボックスをオンにして、サーバーのメインメモリにあらかじめロードしておきます。事前ロードを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。



事前ロードの機能を使用すると、ユーザーがドキュメントにアクセスしていない場合でもメモリリソースを消費します。

- カスタマイズ: ノードの利用設定はユーザーがカスタマイズ可能です。

カスタマイズ

もしカスタマイズ オプションが開いているドキュメント (Document Available) 項目で選択されている場合、次をカスタマイズします。

クラスター ノード (Cluster Node)

すべてのサーバーおよびクラスターのリストは自動的に表示され、これには配信用に選択されているクラスターノードもすべて含まれています。

開いているドキュメント (Document Available)

いつQlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、が使用可能になるかを構成するには、次のドロップダウン リスト オプションの1つを選択します。

- なし: 現在のドキュメントは QlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、ノードにロードできません。
- 常に表示: ドキュメントはノードに常にロード可能です。

事前ロード (Preload)

常時、現在のドキュメントに迅速にアクセス可能にするには、このチェックボックスをオンにして、サーバーのメインメモリにあらかじめロードしておきます。事前ロードを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。



事前ロードの機能を使用すると、ユーザーがドキュメントにアクセスしていない場合でもメモリリソースを消費します。



このオプションは常に表示 オプションが開いているドキュメント (Document Available) 項目で選択されている場合にのみ、使用できます。

4.4 [User Documents] (ユーザー ドキュメント)

このユーザー ドキュメント ページの左側 パネルには、QlikView Server (QVS) で利用可能なすべてのドキュメントが、ツリー表示でリストされます。ドキュメントの設定を右側 パネルで表示または管理するには、ツリー表示の該当するドキュメントをクリックします。



赤いアスタリスクは、ツリー表示でマウントされたフォルダを示すために使われます。ルートフォルダのアイコンには赤いアスタリスクは付いていません。



これらの設定は、*QlikView Publisher (QVP)* が該当するドキュメントを配信するようにセットアップされている場合、それらの *QVP* 設定によって無効化されてしまうため、変更しないでください。

ドキュメントの検索 (Search Document)

ドキュメントを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン



をクリックします。

ドキュメント設定の構成 (Configure Document Settings)

ドキュメントの設定を構成するには、ツリー表示の該当するドキュメントをクリックします。右側パネルに、以下のタブが表示されます。

- サーバー
- 許可 (Authorization)
- ドキュメント情報
- リロード
- Document CAL

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

サーバー

をサーバー タブには、次のページが含まれます。

- サーバー オブジェクト
- 可用性 (Availability)
- パフォーマンス

これらのページでは、サーバー オブジェクトの承認と現在のドキュメントにのアクセスコントロールを管理することができます。

サーバー オブジェクト

このサーバー オブジェクトtab, users are authorized to create server objects in the 現在のドキュメント.

サーバー オブジェクトの作成を許可 (Allow Creation of Server Objects)



QlikView のライセンスで共有が無効の場合 (ライセンスには、`DISABLE_COLLABORATION;YES;;`が含まれています)、サーバーのオブジェクトやサーバーのブックマークは許可されません。つまり、サーバー オブジェクトの作成を許可 (Allow Creation of Server Objects) チェックボックスは、何の影響も持たないことを意味します。

ユーザーがサーバー オブジェクトを作成できるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。ユーザーにサーバー オブジェクトを作成する許可を付与しない場合は、このチェック ボックスをオフにします。



チェックボックスのチェックを外すと、サーバー オブジェクトを作成することはできません。サーバーのブックマークは、チェックボックスのチェックを外した場合にのみ、他のユーザーとのブックマークの共有に影響を及ぼす可能性があります。

ユーザーの種類

ユーザーおよびグループ認証を管理するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

すべての認証ユーザー (All Authenticated Users): 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーおよびグループの追加

[User Type] (ユーザーの種類) 項目で [Named Users] (指定されたユーザー) が選択されている場合、以下を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、ユーザーの管理 (Manage User) ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

オブジェクト

ドキュメント内にあるすべてのサーバー オブジェクトは、次の情報項目とともに、リストで提示されます。

- ID
- タイプ
- サブ タイプ (Sub Type)
- 所有者

ユーザーおよびグループを管理するには、ユーザーの管理 (Manage User) ダイアログ アイコン  をクリックします。

- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- 置換 (Replace)>
Click this button to replace the user in the 選択済みユーザーbox with the user selected in the 検索結果 box.
- 選択済みユーザー
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。

割り当てられたドキュメントからサーバー オブジェクトを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

可用性 (Availability)

[General] 可用性 (Availability) タブ、現在のドキュメントにの管理 (例: クライアントアクセス、ダウンロード制限、セッション コラボレーションなど) が可能です。

アクセス方法

現行ドキュメントを開いてダウンロードするのに、どの QlikView クライアントを QlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、次のチェックボックスの1つにチェックマークを入れます。

- IE クライアント、つまり QlikView プラグイン クライアントです。
- Ajax クライアントおよび小型デバイス バージョン、つまり AJAX クライアントと小型デバイス用の AJAX です。
 - Ajax クライアント URL、AJAX ページを表示するためにデフォルトではなく他の HTML ページを使用するには、このテキストボックスに有効なパスを入力します。



小型デバイスの場合は、常に次の URL を使用してください:
い: /QvAJAZfc/mobile/opendoc.htm

ユーザー権限

ドキュメントのダウンロード (Download Document)



ユーザーにドキュメントのダウンロードを許可し、ドキュメントへのアクセス権を付与することは、セキュリティリスクの発生に繋がる恐れがあります。

ドキュメントのダウンロード権限を管理する、つまりユーザーが現行ドキュメントをダウンロードして QlikView Desktop で開けるようにするには、このチェックボックスにチェックマークを入れて、次の操作を実行します:

ユーザーの種類

ユーザーおよびグループの管理方法を選択するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

全ユーザー (All Users): 認証を受けた全ユーザー (ファイルへの匿名アクセスが許可されていることを意味します)。



匿名アクセスが許可されている場合、IQVS アカウントはファイル アクセスを制御します。つまり、正しいファイル アクセス権を IQVS アカウントに付与する必要があることを意味します。既定では、QlikView インストールのローカル アカウントとして、アカウントを作成します。クラスター環境では、全てのノードがアクセスできるように、ドメインのアカウントとして IQVS アカウントを作成する必要があります。

すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーおよびグループの追加

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果 ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。

- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

印刷および Excel へのエクスポート (Print and Export to Excel)



QlikView 11 では、タッチ式デバイスを使用しているクライアントは、ドキュメントを Microsoft Excel にエクスポートできません。

ドキュメントの印刷およびエクスポート権限を管理するには、このチェックボックスをオンにした後、次の手順に従います。

ユーザーの種類

ユーザーおよびグループの管理方法を選択するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

全ユーザー (All Users): 認証を受けた全ユーザー (ファイルへの匿名アクセスが許可されていることを意味します)。



匿名アクセスが許可されている場合、IQVS アカウントはファイル アクセスを制御します。つまり、正しいファイル アクセス権を IQVS アカウントに付与する必要があることを意味します。既定では、QlikView インストールのローカル アカウントとして、アカウントを作成します。クラスター環境では、全てのノードがアクセスできるように、ドメインのアカウントとして IQVS アカウントを作成する必要があります。

すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーおよびグループの追加

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。

- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)]ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

セッションの共有

で、ユーザーがセッションを共有できるようにするには QlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、このチェックボックスにチェックマークを入れます。

パフォーマンス

[General] パフォーマンスタブでは、現在のドキュメントの管理 (例: 負荷分散、事前ロード、同時セッション アクセス、監査ログなど) が可能です。

セッション (Sessions)

同時セッション最大数

現在のドキュメントに対する同時セッション最大数を現在のドキュメントこのテキストボックスに数値を入力します。制限を指定しない場合は、空欄のまま残します。

最大アイドル時間 (Maximum Inactive Session Time)

指定された時間内にユーザーセッションに動作のない場合、QVS によって自動的に閉じるよう設定することができます。セッションのタイムアウトを設定するには、このテキストボックスに適切な値を入力します。



最大アイドル時間は、グローバルレベルで設定することもできます。セッション時間は設定されている最も短い値が優先されます。このテキストボックスに入力された時間がグローバルセッションの時間より短い場合は、グローバルセッションの時間が無視されます。

空白のままにするか、0に設定すると無制限になります。

ドキュメントタイムアウト (Document Timeout)

ドキュメントを開いておく貴重なシステムリソース (例えば割り当てられたメモリ量や RAM) を使うので、使用しないドキュメントは開いたままにしておくべきではありません。しかし、ドキュメントをあまりにも急速に閉じてしまうと、ユーザーが次回そのドキュメントにアクセスする際に、サーバーがそれを再度開くのに時間がかかるため、待ち時間が長くなる場合があります。この値は、QlikView Server (QVS) がドキュメントを閉じてリソースを解放するまでの、ドキュメントが使われていない状態を許可する時間を制御します。

監査ログを有効化 (Enable Audit Logging)

監査ログ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。監査ログ機能を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

ドキュメント管理 (Document Control)

複数のサーバーが存在する場合、以下を構成します。

開いているドキュメント (Document Available)

ロードバランス、つまり現在のドキュメントで利用可能なノードを設定するには、QlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、次のいずれかのオプションを選択します。

- すべてのノードを常にオン (Always on All Nodes): すべてのノードが利用可能です。
 - 事前ロード (Preload)
常時、現在のドキュメントに迅速にアクセス可能にするには、このチェックボックスをオンにして、サーバーのメインメモリにあらかじめロードしておきます。事前ロードを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。



事前ロードの機能を使用すると、ユーザーがドキュメントにアクセスしていない場合でもメモリリソースを消費します。

- カスタマイズ: ノードの利用設定はユーザーがカスタマイズ可能です。

カスタマイズ

もしカスタマイズ オプションが開いているドキュメント (Document Available) 項目で選択されている場合、次をカスタマイズします。

クラスター ノード (Cluster Node)

すべてのサーバーおよびクラスターのリストは自動的に表示され、これには配信用に選択されているクラスターノードもすべて含まれています。

開いているドキュメント (Document Available)

いつQlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、が使用可能になるかを構成するには、次のドロップダウン リスト オプションの1つを選択します。

- なし: 現在のドキュメントは QlikView AccessPoint 経由で示すのを有効化するには、ノードにロードできません。
- 常に表示: ドキュメントはノードに常にロード可能です。

事前ロード (Preload)

常時、現在のドキュメントに迅速にアクセス可能にするには、このチェックボックスをオンにして、サーバーのメインメモリにあらかじめロードしておきます。事前ロードを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。



事前ロードの機能を使用すると、ユーザーがドキュメントにアクセスしていない場合でもメモリリソースを消費します。



このオプションは常に表示 オプションが開いているドキュメント (Document Available) 項目で選択されている場合にのみ、使用できます。

許可 (Authorization)

この許可 (Authorization) tab, the user and group access to the 現在のドキュメントへのユーザーおよびグループのアクセスを管理できます。Only specified users are allowed to access the 現在のドキュメント, utilizing the QlikView Server (QVS) Document Metadata Service (DMS) authorization.



This tab is only available if [DMS Authorization] (DMS 許可) was selected as the authorization method for this QVS.

ドキュメントへのアクセス権限があるユーザー (Users Authorized to Access Document)

To create an entry for managing the access of the 現在のドキュメント, click on the [Add] (追加) アイコン  をクリックします。以下に示す項目を構成します。

アクセス

To configure when the 現在のドキュメント is to be available, open the アクセス dialog by clicking on the 編集 icon, , and perform the configuration for one of the following options:

- 常に表示: 現在のドキュメントは常に利用可能になります。
- 制限: 現在のドキュメントは、構成内容 (以下参照) に応じて利用可能になります。

曜日 (Week Days)

ドキュメントが利用可能な曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日が選択されていないと、ドキュメントは利用できません。

最小

ドキュメントが利用可能になる時間を指定します。このパラメータを編集するには、テキストボックスに hh:mm で目的の値を入力します。

例: 09:00 でのみ有効です。

利用終了時間 (Until)

ドキュメントの利用可能時間の終了点を指定します。このパラメータを編集するには、テキストボックスに hh:mm で目的の値を入力します。

既定のパス: 23:59 でのみ有効です。

ユーザーの種類

現在のドキュメントのアクセスを現在のドキュメント以下を実行します。

ユーザーおよびグループ許可を管理するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つ選択します。

全ユーザー (All Users): 認証を受けた全ユーザー (ファイルへの匿名アクセスが許可されていることを意味します)。



匿名アクセスが許可されている場合、IQVS アカウントはファイル アクセスを制御します。つまり、正しいファイル アクセス権を IQVS アカウントに付与する必要があることを意味します。既定では、QlikView インストールのローカル アカウントとして、アカウントを作成します。クラスター環境では、全てのノードがアクセスできるように、ドメインのアカウントとして IQVS アカウントを作成する必要があります。

すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーとグループ (Users and Groups)



このオプションは、項目が選択されている場合にのみ利用できます。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果 ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。

- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。
- ユーザー名の手動入力 (Manual Input of User Names)
この項目は、指定したディレクトリに存在しないユーザー名を手動で入力する場合に使用します。入力したユーザー名がデフォルトの範囲 (Default Scope) ドロップダウンリストに存在する場合、次回ダイアログが起動される際、ユーザーは [選択済みユーザー (Selected Users)] に存在します。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

ドキュメント情報

[General] ドキュメント情報 タブ、現在のドキュメントに のカテゴリの割り当て、作成、編集、削除が可能です。カテゴリはドキュメントをコンテナにバンドルするために使用されるもので、エンドユーザーはこれによって分類を簡単に行うことができます。これらのカテゴリは、QlikView AccessPoint のエンドユーザーのみに表示されます。各ドキュメントは 1 つのカテゴリにのみ属することが可能です。

基本設定

[Select Category] (カテゴリの選択)

ドキュメントにカテゴリを割り当てるには、ドロップダウンリストに表示されているカテゴリから1つを選択します。

既定のパス: 初期設定。

新しいカテゴリの入力 (Or Type a New Category)

カテゴリを作成するには、このテキストボックスに説明的な名前を入力します。新カテゴリが カテゴリの選択 (Select Category) ドロップダウンリストで使用可能になります。カテゴリは、QlikView AccessPoint に表示されます。



カテゴリの再割り当ては可能ですが、削除はできません。

最終更新時間が (分) よりも古い場合に警告を表示:

ドキュメントが指定された分数内に更新されなかった場合に、警告するように設定します。警告アイコンが、QlikView AccessPoint のドキュメントカードに表示されます。

ソース ドキュメント (Source Document)

ソース ドキュメントの名前。ソース ドキュメントを選択するには、このテキストボックスにその名前を入力します。



QlikView Server をリロードすることによって、ソース ドキュメント名が変更されることはありません。

ドキュメントの説明文 (Document Description)

QlikView AccessPoint のドキュメントの詳細に表示されるドキュメントの説明文を作成するには、このテキストボックスに説明を入力します。

属性 (Attribute)

メタデータ属性は作成可能であり、ドキュメントに割り当てることも可能です。こうした属性は名前と値という任意の組み合わせです。属性はドキュメントには保存されませんが、QlikView Server Document Metadata Service (DMS) 機能を有する QlikView Server のメタデータに保存されます。サードパーティ製のアプリケーションの場合は、qvxプロトコルを使ってデータベースから属性の読み取りや抽出ができます。QlikView AccessPoint の各属性は、正しいドキュメントを検索するために有用です。属性を作成し、値を割り当ててメタファイルに保存するには、パネルの右側にある [Add] (追加) アイコン、 をクリックし、以下の項目を構成します。

[Name] (名前)

このテキストボックスに説明的な名前を入力し、メタデータの属性名を設定します。

値

このテキストボックスに、[名前] 項目のメタデータ属性名に割り当てる値を入力します。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

リロード

[General] リロード] タブで、現在のドキュメントにはリロードするようスケジュールできます。



このタブは QlikView Server が起動しているときにのみ利用可能で、QlikView Publisher (QVP) 起動時には利用できません。



危険なマクロはリロードタスクでは許可されていません。

リロード スケジュール

有効化 (Enabled)

リロード機能 (このタブで構成します) を有効化するには、このチェックボックスをオンにします。この機能を無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

定期的 (Recurrence)

以下のオプションの 1 つをクリックして、リロードのスケジュールを選択します。

- なし: リロードは実行されません。
- 時間ごと (Hourly)
- 日ごと (Daily)
- 週ごと (Weekly)
- 月ごと (Monthly)

- 連続 (Continuously): リロードは常時実行されます (開始されて実行状態に入ると再度開始される、など)。
- 他のタスクイベント(On Event from Another Task)
- 外部イベント (On an External Event)



時刻は、24 時間形式にする必要があります。

時間ごと(Hourly)

毎回 (Every)

リロードを実行させる時間間隔を指定するには、次に任意の数値を入力します。時間 および 分 テキストボックスに入力します。

スタート (Start)

次のフォーマットを使用して、このテキストボックスにリロード関数の初回開始日時を入力します。yyyy-mm-dd hh:mm:ssでのみ有効です。

2011/12/31 23:59:59

日ごと(Daily)

毎回 (Every)

リロードを実行させる時間間隔および初回開始時刻を指定するには、次に任意の数値を入力します。日 (Day) テキストボックス、および時刻 テキストボックスの時刻、次のフォーマットを使った後者: hh:mmでのみ有効です。

週ごと(Weekly)

リロード機能を開始する曜日を、ドロップダウン リストから選択します。

- 日曜日 (Sunday)
- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)

また、次に任意の数値を入力して、リロード関数を開始する時間間隔および初回開始時刻を選択します。時刻 テキストボックスの時刻、次のフォーマットを使用: hh:mmでのみ有効です。

月ごと(Monthly)

ドロップダウン リスト(下記参照) から、リロードを開始させる(当該日付が存在するすべての月の) 日付を選択します。

- 1、2、3... 31、末日(各値はすべての月の第何日目かを表します)。

また、次のフォーマットを使用して、このテキストボックスに、リロードを開始させる時刻を入力します。hh:mmでのみ有効です。

他のタスク イベント(On Event from Another Task)

リロードを、別のタスクからのイベントが発生した時点で開始されるように構成することができます。次の構成オプションが利用できます。

開始 (Start on)

ドロップダウン リスト(下記参照) で、オプションの1つをクリックして、開始イベントを選択します。

- Successful (成功): タスクが正常に実行されたことを意味します。
- 失敗 (Failed): タスクの実行に失敗したことを意味します。

完了 (Completion of)

ドロップダウン リストで、オプションの1つをクリックして、開始タスクを選択します。

外部 イベント (On an External Event)

リロードを、外部イベント(外部コンポーネント)が発生した時点で開始されるように構成することができます。このとき、QlikView Management Service (QMS) API がコールされます。次の構成オプションが利用できます。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

タイムアウト(単位:秒) (Timeout Seconds)

リロードの時間制限を指定するには、このテキストボックスに任意の数値を入力します。

既定のパス: 21600: 6 時間。



ドキュメントがこのタイムアウト内にリロードされない場合、プロセスは終了し、同ドキュメントには古いデータが残されたままになります。

依存関係 (Dependency)

依存関係を持つリロードが実行される際には、最初にこの依存関係のステータスがチェックされます。ステータスが「失敗 (failed)」だった場合、その時点のリロードは実行されません。ドロップダウン リストで依存関係を選択します。

データ保護

セクション アクセス

デフォルトでは、リロードは QlikView Distribution Service (QDS) が起動している場合にユーザーにより実行されます。をセクション アクセス設定により、リロードが実行されている場合でも、他のユーザーによる使用を許可

します。デフォルト設定を変更するには、このチェックボックスをオンにし、ユーザーおよびパスワードをそれぞれユーザー名 および パスワードテキストボックスに入力します。デフォルト設定を使用するには、このチェックボックスをオフにします。



デフォルト設定は定義しなおすことができます。

ユーザー名

ユーザー名を構成するには、任意の認証情報をこのテキストボックスに入力します。

パスワード

パスワードを構成するには、任意の認証情報をこのテキストボックスに入力します。

直ちにリロード (Reload Now)

リロードを即時に実行するには、このボタンをクリックします。

Document CAL

この Document CAL タブでは、ドキュメントのクライアントアクセス ライセンス (CAL) のユーザーへの割り当てを管理することができます。



このタブは、*Document CAL* が *QlikView Server* ライセンスに含まれている場合にのみ有効になります。



CAL を割り当てることと、ドキュメントにアクセスすることは同じではありません。

概要

以下の Document CAL 情報が提示されます。

- Document CALs Available on Server (サーバーで利用可能な Document CAL): 現在のライセンスに含まれている **Document CAL** の数を示します。
- Document CALs Not Allocated on Server (サーバーの割り当てられていない Document CAL): どのドキュメントにも割り当てられていない **Document CAL** の数を示します。
- Document CALs Allocated to this Document (この Document に割り当てられている Document CAL): 現在のドキュメントに割り当てられている **Document CAL** の数を示します。
- Document CALs Embedded in Document (ドキュメントに埋め込まれている Document CAL): 現在のドキュメントにすでに埋め込まれている **Document CAL** の数を示します。
- Document CALs Assigned to Users (ユーザーに割り当てられている Document CAL): 現在のドキュメント内にあり、ユーザーに割り当てられている **Document CAL** の数を示します。

Document CAL

このドキュメントに割り当てられている Document CAL の数 (Number of CALs Allocated to this Document)

現在のドキュメントに割り当てられている Document CAL の数のことです。デフォルトで、この値は「0」(ゼロ) に設定されています。値を変更するには、任意の値をこのテキストボックスに入力します。値を再度ゼロにリセットするには、テキストボックスに「0」(ゼロ) を入力します。

CAL の動的割り当てを許可 (Allow Dynamic CAL Assignment)

このオプションを使用すると、この QlikView Server に初めて接続するユーザーに、新しい Document CAL が自動的に付与されます。ただし、割り当てることができるドキュメント CAL が存在する必要があります。

QlikView Server に、当該ドキュメントを開く任意のユーザーに CAL を割り当てさせるには、このチェックボックスをオンにします。QlikView Server に、当該ドキュメントを開く任意のユーザーに CAL を割り当てさせないようにするには、このチェックボックスをオフにします。

割り当てられているユーザー (Assigned Users)

Document CAL のユーザーへの割り当てが、リストで提示されます。Document CAL は、自動的に (「CAL の動的割り当てを許可 (Allow Dynamic CAL Assignment)」参照)、または手動で、ユーザーに割り当てることができます。現在の Document CAL をユーザーに手動で割り当てするには、以下を実行します。

ユーザーを管理するには、検索フィールドで、ダイアログ アイコン  をクリックします。

- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- ユーザーの検索
ユーザーを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- 追加 >
ユーザーを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 選択済みユーザー
このボックスには選択済みのユーザーが表示されます。
- 削除
ユーザーの選択を解除するには、選択済みユーザーボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)

To deselect 実行された時に of the users from the 選択済みユーザーボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

- ユーザー名の手動入力 (Manual Input of User Names)

この項目は、指定したディレクトリに存在しないユーザー名を手動で入力する場合に使用します。入力したユーザー名がデフォルトの範囲 (Default Scope) ドロップダウンリストに存在する場合、次回ダイアログが起動される際、ユーザーは [選択済みユーザー (Selected Users)] に存在します。

名前

現在のドキュメントの、当該時点で Document CAL を保持しているすべてのユーザーの名前が、リストで提示されます。ユーザーは、認証されているユーザー名または マシン名。

最終アクセス日時 (Last Used) (UTC)

各ユーザーのサーバーへの最終アクセス日時 (UTC) です。

有効期限 (Quarantined Until) (UTC)

7日間 CAL とユーザーの関連付けが使用されていない場合は、直ちに削除されます。CAL とユーザーの関連付けが現在使用中であったり最近使用されていた場合は、削除のステータスが付けられ、この CAL を介した新しいユーザーによるアクセスセッションは許可されません。しかし、CAL とユーザーの関連付けは、有効期間が終了するまで、割り当てられた CAL を占領します。

元のサイズに戻す

CAL とユーザーの関連付けは、有効期限 (Quarantined Until) (UTC) 日時を超える前であれば、[元のサイズに戻す] アイコン  をクリックします。

【削除】

ここで有効期限 (Quarantined Until) (UTC) 日時を超えた場合、CAL とユーザーの関連付けは手動により削除できます。リストから CAL とユーザーの関連付けを完全に削除するには、まずドキュメント CAL を解放し、[削除] アイコン  をクリックします。



CAL とユーザーの関連付けは、期限が過ぎると正式に削除されます。



その CAL は 7日間利用できません。

4.5 QlikView ドキュメントへのリンクを Qlik Sense ハブで公開する

ファイルを電子メールで配布したり、特定のフォルダーの場所に配布したりする代わりに、Qlik Sense ハブの QlikView ドキュメントにリンクを公開することができます。この方法は、QlikView と Qlik Sense の両方で Active Directory ユーザーグループに属する特定のユーザーと QlikView ドキュメントを共有する場合に使用できます。

QlikView ドキュメント

共有するよう設定すると、該当の QlikView ドキュメントが Qlik Sense ハブに表示されます。ハブからドキュメントを開き、AJAX クライアントの機能を使用してインタラクティブに操作することができます。QlikView ドキュメントを Qlik Sense 内で表示する場合、変更は保存できません。



QlikView ドキュメントは、小型デバイス向けのモバイル表示では閲覧できません。

始める前に

QlikView ドキュメントへのリンクを Qlik Sense ハブ内で有効にするには、以下の条件を満たしていなければなりません。

- QlikView のバージョンが 12.00 SR3 以降である。
- QlikView のインストールに公開者のライセンスが含まれている。
- システム管理者によって、Qlik Sense Management Console からそれぞれの QlikView Distribution Service (QDS) マシンに異なる証明書 (client.pfx、server.pfx、root.cer) がエクスポートされている。
- Qlik Sense AccessPoint へのサーバー接続が、マシン名を使用するように構成されている。
- Qlik Sense が共有コンテンツを使用できるように構成されている。

QlikView 証明書の要件

QlikView の証明書セットを作成する場合、次の手順が必要です。

- 証明書は QDS マシンのドメインを含むフルネームを使用して作成する必要があります。
- 証明書はパスワードで保護する必要があります。
- 秘密キーペアの作成が必要です。



各 QlikView Distribution Service (QDS) マシンごとに、新しい証明書セットが必要です。

 [QMC を介した証明書のエクスポート](#)

共有コンテンツへのリンクの公開をユーザーに許可するための Qlik Sense の構成

Qlik Sense セキュリティルールを作成し、QlikView が Qlik Sense ハブでリンクを公開できるように Qlik Sense リポジトリを構成する必要があります。

共有コンテンツのセキュリティルールの追加

Qlik Sense Management Console で新しいセキュリティルールを作成することで、共有コンテンツを有効にします。

次の手順を実行します。

1. Qlik Sense Management Console で **[Security Rules]** (セキュリティルール) を開きます。
2. ページの下部で **[新規作成]** をクリックします。

3. **[ID]** セクションで、名前とルールの説明を追加します。以下のテーブルの提案を使用できます。

ルール識別プロパティ

項目	値
名前	<i>SharedContentCreate-AllUsersFromUserGroupName</i>
説明	<i>UserGroupName</i> ドメインのすべてのユーザーが共有コンテンツの作成を許可されます

4. **[Basic]** (基本設定) セクションで **[Create]** (作成) を選択します。
5. **[Read]** (読み取り) がオフになっていることを確認します。
6. 以下の図の値を使用してルール定義アクションを完了します。*UserGroupName* は、該当の認証ユーザーグループの名前と置き換えます。

7. **[Basic]** (基本設定) セクションで、**[Resource filter]** (リソース フィルター) として「*SharedContent_**」と入力します。
8. (オプション) すべての認証ユーザーに対して QlikView コンテンツの共有を許可する場合、**[Conditions]** (条件) ボックスに「*!user.IsAnonymous()*」と入力します。
9. **[適用]** をクリックします。
認証ユーザーに対するセキュリティルールが Qlik Sense Management Console に追加されます。

Qlik Sense 証明書を使用した QlikView Distribution Service の構成

Qlik Sense 証明書を使用して QlikView Distribution Service (QDS) を構成し、Qlik Sense ハブに公開される QlikView ドキュメントへのリンクを許可する必要があります。QDS を構成するには、*client.pfx*、*root.cer*、*server.pfx* の 3 種類の Qlik Sense 証明書をインポートする必要があります。

QDS マシンでの Qlik Sense 証明書のインポート

証明書は、ネイティブ Windows の証明書のインポートウィザードを使用してインポートできます。



root.cer 証明書は、他のすべての証明書よりも前にインポートする必要があります。

root.cer 証明書のインポート

1. 証明書をダブルクリックして開きます。
2. **[証明書のインストール]** をクリックします。
証明書のインポートウィザードが開始されます。
3. **[現在のユーザー]** を選択します。
4. **[証明書をすべて次のストアに配置する]** を選択します。
5. **[参照]** をクリックし、**[信頼されたルート証明機関]** フォルダーを選択します。

6. 証明書情報を確認し、[完了] をクリックします。
root.cer 証明書が QDS マシンでインポートされます。

client.pfx 証明書および server.pfx 証明書のインポート

1. 証明書をダブルクリックして開きます。
証明書のインポートウィザードが開始されます。
2. [現在のユーザー] を選択します。
3. [秘密キーの保護] 画面で、証明書のパスワードを入力します。
4. [証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する] を選択します。
5. 証明書情報を確認し、[完了] をクリックします。
証明書が QDS マシンでインポートされます。

Qlik Sense 証明書およびマシン情報を使用した QDS プロパティの構成

関連する証明書サムネイルと Qlik Sense および QDS のマシン情報を使用して、QDS 構成ファイルを各マシンで更新する必要があります。デフォルトでは、QDS の構成ファイル *QVDistributionService.exe.config* は *C:\Program Files\QlikView\Distribution Service* にあります。

1. テストセクションで、`<add key="QRSMachineName" value="MySenseMachine.domain.com" />` と入力します。**QlikSenseMachineName.domain.com** は Qlik Sense リポジトリを実行しているマシンの名前置き換えます。



マシン名は、ドメインを含んでおり Qlik Sense 証明書の作成時に使用した名前と一致していなければなりません。

2. 別の行で、`<add key="QVWSMachineName" value="QlikviewMachineName" />` と入力します。**QlikViewMachineName** は QlikView Web Server を実行しているマシンの名前置き換えます。



ドメインは必要ありません。

3. (オプション) 別の行で、`<add key="AjaxClientPath" value="/MyAjaxURL/opendoc.htm" />` と入力します。**MyAjaxURL** は使用している Ajax Client の URL で置き換えます。この構成オプションを追加しない場合、デフォルトの */QVAJAXZfc/opendoc.htm* が使用されます。
4. Windows の [Microsoft 管理 コンソール] を開きます。
5. [証明書 - 現在のユーザー] ドロップダウン矢印をクリックします。
6. [個人 > 証明書] フォルダーを開きます。
7. QlikClient 証明書をダブルクリックします。
証明書のプロパティが表示されます。
8. [詳細] タブで、拇印の値をコピーします。
9. *QVDistributionService.exe.config* ファイルの別の行で、`<add key="SenseClientCertificateThumbprint" value="ThumbprintID" />` と入力します。**ThumbprintID** は、証明書のプロパティに表示される拇印の値で置き換えます。
10. 変更内容を保存します。
QDSが、QlikSense ハブの QlikView ドキュメントへのリンクを公開できるように構成されます。

QlikView ドキュメントへのリンクを Qlik Sense ハブで公開するタスクの作成

Qlik 管理 コンソール を使用して、Qlik Sense ハブで QlikView ドキュメントへのリンクを作成できます。



Qlik Sense ハブの QlikView ドキュメントでは、Ajax クライアントを使用した操作のみがサポートされています。

始める前に

Qlik Sense の QlikView ドキュメントへのリンクを公開するには、Active Directory およびソース ドキュメントとの接続が設定されている QlikView Server が必要です。

QlikView Management Console の構成

QlikView Web Server Access Point を構成し、Qlik Sense マシンと接続できるようにする必要があります。

次の手順を実行します。

1. **[System]** (システム) タブをクリックします。
2. QlikView Web Server フォルダーで、現在の QlikView Web Server マシンを開きます。
3. **[アクセス ポイント]** タブで、**[サーバー接続]** をクリックします。
4. ドロップダウン メニューを使用して、QlikView Web Server の名前を *local* から該当のマシン名に変更します。

QlikView ドキュメントへのリンクの公開

QlikView Management Consoleで次のタスクを実行して、ドキュメントにリンクを公開します。

1. **[Documents]** タブをクリックします。
[Source Document] ページが開きます。



公開できるのは、ソース ドキュメントだけです。

2. QDS インスタンスを展開し、共有するドキュメントを見つけます。
3. をクリックし、新しいタスクを作成します。
4. **[配信]** タブで をクリックし、受信者を追加します。
5. **Named User** ユーザータイプを選択します。
6. をクリックし、ユーザーを追加します。



このユーザーは、QlikView および Qlik Sense で、Active Directory ユーザーグループのメンバーである必要があります。

7. **[ドキュメント情報]** タブで をクリックし、属性を追加します。

8. 「*ShowInSenseHub*」を **[Name]** (名前) 項目に、そして「*true*」を **[Value]** (値) 項目に入力します。
9. **[適用]** をクリックします。
タスクが起動し、Qlik Sense ハブに QlikView ドキュメントへのリンクが追加されます。

Qlik SenseハブでのQlikView ドキュメントの表示

次の手順を実行します。

1. QlikView ドキュメントを共有している特定のユーザーと同じ資格情報を使用して、Qlik Senseハブにログインします。
2. ハブで、**[QlikView ドキュメント]** をクリックします。
3. ドキュメントへのリンクをクリックして、QlikView AccessPointを新しいウィンドウで開きます。



Qlik SenseハブからQlikView ドキュメントを削除することはできません。

4.6 QlikView ドキュメントとリンクの Qlik Sense クラウドハブでの公開

クラウドハブで、QlikView ドキュメントとドキュメントへのリンクを公開できます。QlikView ドキュメントはクラウドハブで直接開きます。ユーザーは、公開されたドキュメントを開くために特別な権限を必要としません。クラウドハブで公開されているリンクは、ユーザーを QlikView Server インストールにリダイレクトします。ユーザーは QlikView Server にアクセスする必要があります。どちらの Qlik Sense Enterprise SaaS でもドキュメントとリンクを公開できます。



この機能は、Qlik Sense Business では利用できません。



QlikView April 2020 のリリースに伴い、Qlik Sense クラウドハブへのリンクの公開は QlikView April 2019 では利用できなくなります。

QlikView ドキュメントまたはリンクを Qlik Cloud ハブで公開するには、次のタスクを実行する必要があります。

- QlikView Server 展開を既存の Qlik Cloud 展開に接続します。
Qlik Sense Enterprise SaaS 展開への QlikView Server の接続 (page 93)
- 接続された Qlik Cloud 展開のクラウドハブで QlikView ドキュメントとリンクを公開するタスクを作成します。
QlikView ドキュメントを Qlik Sense クラウドハブで公開する (page 94)
QlikView ドキュメントへのリンクの Qlik Sense クラウドハブでの公開 (page 100)
- 必要に応じて、サーバーのブックマークをクラウドハブの管理されているスペースの QlikView ドキュメントに移行します。
ブックマークの QlikView から Qlik Sense SaaS テナントへの移行 (page 96)

ドキュメントとリンクのどちらを公開するかの選択

QlikView ドキュメントまたはドキュメントへのリンクを公開すると、Qlik Sense ユーザーは QlikView コンテンツを操作するためのさまざまな機能を利用できます。

QlikView ドキュメントを Qlik Sense クラウドハブで公開すると、ドキュメントへのアクセスと消費は Qlik Sense Enterprise SaaS クラウド環境で処理されます。アクセスは Qlik Sense Enterprise クラウド管理者によって管理されます。ユーザーはシートを開いてオブジェクトを選択できますが、新しいシートやオブジェクトを作成することはできません。

Qlik Sense クラウドハブでリンクを公開すると、ドキュメントは QlikView Server 環境の QVS サービスによって処理されます。ユーザーがリンクをクリックすると、ドキュメントが QlikView Server 環境で開きます。QlikView Server にアクセスできるユーザーのみが、公開されたリンクからドキュメントを開くことができます。アクセスは QlikView 管理者によって管理されます。

Qlik Sense Enterprise SaaS 展開 への QlikView Server の接続

QlikView のドキュメントまたはリンクを公開する前に、まず QlikView Server のインストールを Qlik Sense Enterprise SaaS 展開に接続する必要があります。

前提条件

QlikView ドキュメントまたは QlikView ドキュメントへのリンクを公開するには、以下が必要です。

- QlikView Server April 2020 以降のバージョン。
- 有効な Publisher ライセンス。
- 構成済みの Qlik Sense Enterprise SaaS クラウドインストール。



クラウドハブの公開リンクから QlikView ドキュメントにアクセスするには、リンクの配布元である QlikView サーバーにアクセスする必要があります。

Qlik Sense Enterprise クラウド展開 への QlikView Server の接続

次の手順を実行します。

1. QlikView 管理 コンソールで、[システム] タブに移動し、[設定] セクションを開き、[Cloud Deployments] フォルダーを選択します。
2. [追加] ボタンを選択して、新しいクラウド展開接続を作成します。
3. [サービス URL] 項目に、<tenant_name>.<region>.qlikcloud.com/ などのクラウドテナント URL の最初の部分を入力します。
[適用] を選択して接続を作成します。Cloud Deployments の下に、作成した接続が表示されます。
4. 接続を選択してから、[一般] タブを選択します。
 - a. [展開名] 項目にクラウド展開名を入力します。
 - b. [API エンドポイント] 項目に、公開先の Qlik Sense Enterprise クラウド展開の URL を入力します。

- c. **[Web サーバー]** ドロップダウン メニューから Web サーバーを選択します。
- d. **[配布設定]** で、リンク、ドキュメント、またはその両方の配布を無効にできます。
5. **[Issuer configuration]** (発行者構成) セクションで、**[Generate configuration]** (構成の生成) をクリックしてローカル ベアラー トークンを生成します。
 - Qlik Sense Enterprise SaaS 展開に接続するには、**[Qlik Cloud フォーマット]** を選択します。
6. ローカル ベアラー トークンをコピーして適切な場所に保存します。QlikView Server 展開との接続を完了するには、Qlik Sense Enterprise クラウド展開に追加することが必要になります。
ベアラー トークンを *Qlik Sense Enterprise* クラウドハブに追加 (page 94)
7. **[適用]** を選択して構成を確認します。

ベアラー トークンを Qlik Sense Enterprise クラウド ハブに追加

QlikView Server と Qlik Sense Enterprise クラウドハブ間に安全な接続を作成するために、QlikView Distribution Service (QDS) はベアラー トークンを生成し、これを Qlik Sense Enterprise 展開に追加します。ベアラー トークンには、クラウドハブと QlikView Server の間のすべての API コールで使用される署名付きキーがあります。

Qlik Sense Enterprise SaaS の場合

Qlik Sense Enterprise SaaS にベアラー トークンを追加するには:

1. マネージメント コンソールで、**[ID プロバイダー]** に移動し、**[新規作成]** に移動します。
2. ドロップダウン メニューから **[マルチクラウド]** を選択します。
3. この ID プロバイダーの説明を追加します。
4. **[ローカル ベアラー トークン]** セクションで、QlikView 管理 コンソール で生成したベアラー トークンを貼り付けます。
5. **[作成]** をクリックして、ID プロバイダーの設定を完了します。



Qlik Sense Enterprise クラウドハブテナントを初めて設定する場合は、[\[ローカル ベアラー トークンでの設定\]](#) を参照してください。

QlikView Server と Qlik Sense SaaS のクラウド展開間の接続が完了したら、接続された QlikView ドキュメントまたはリンクを配布するタスクを作成できます。

QlikView ドキュメントへのリンクの *Qlik Sense* クラウドハブでの公開 (page 100)

QlikView ドキュメントを Qlik Sense クラウド ハブで公開する

QlikView ドキュメントをクラウドハブで公開することができます。公開された QlikView ドキュメントは、Qlik Sense クラウドハブから直接利用できます。

QlikView ドキュメントを Qlik Sense クラウドハブで公開するには、まず QlikView Server を Qlik Sense Enterprise SaaS 展開に接続する必要があります。QlikView 管理 コンソール でタスクを作成してドキュメントを公開します。クラウドハブで公開されると、QlikView ドキュメントのアクセスと使用はクラウド環境で完全に処理されます。サーバーブックマークは公開されたアプリには含まれないため、公開後に移行する必要があります。詳細については、「[ブックマークの QlikView から Qlik Sense SaaS テナントへの移行 \(page 96\)](#)」を参照してください。



この機能は、*Qlik Sense Business* では利用できません。

QlikView ドキュメントを公開するタスクを作成する

同じタスクを使用して、**QlikView** ドキュメントとそのリンクの両方を配布できます。同じ設定が両方の配布に適用されます。ただし、最適なパフォーマンスを得るには、**QlikView** ドキュメントまたはそのリンクをクラウドハブに配布するときに専用設定を適用する場合は、**QlikView** リンクとドキュメントを公開するために個別のタスクを使用する必要があります。



分布タスクを作成する前に、**QlikView Server** を **Qlik Cloud 展開** に接続していることを確認してください。

Qlik Sense Enterprise SaaS 展開 への **QlikView Server** の接続 (page 93)

次の手順を実行します。

1. **QlikView** 管理 コンソール で、**[ドキュメント]** タブに移動し、**[ソース ドキュメント]** セクションを開きます。



[Distribution Services] の下にリストされているソース ドキュメントフォルダからのみドキュメントを公開できます。デフォルトのパスは **C:\ProgramData\QlikTech\SourceDocuments** です。

2. **Qlik Cloud** に公開するソース ドキュメントを選択します。
3. **[追加]** ボタンを選択して、新しいドキュメントタスクを作成します。 **[タスクの編集]** ボタンを選択して、既存のタスクを編集します。

- 4.



タスクの詳細については、「**ソースドキュメント**」を参照してください。

5. ドキュメント配布を構成します。
 - a. **[配布]** タブに移動し、**[手動]** セクションを開きます。
 - b. **[Cloud Native に配布]** セクションに移動します。
 - c. **[ドキュメントの配布]** を選択します。これにより、ドキュメントを **Qlik Sense** クラウドハブに配布できます。
 - d. **[展開]** セクションのドロップダウンメニューから、ドキュメントを公開する **Qlik Sense Enterprise SaaS 展開** を選択します。



クラウド展開は 1 つだけ選択できます。複数のクラウド展開に配布するには、クラウド展開ごとに別々の配信タスクを作成します。

6. 1 つ以上のタグを展開に追加します。タグの追加はオプションです。タグは **QlikView** ドキュメントとともにクラウドハブに表示され、クラウドハブのコンテンツをフィルタリングするために使用されます。

7. **[適用]** を選択してタスクを作成します。タスクは、**[ステータス]** タブの **[タスク]** セクションに表示されます。
8. タスクを右クリックして **[実行]** を選択し、ドキュメントを Qlik Sense クラウドハブに配布します。



ドキュメントは、ステージングされたアプリとして Qlik Sense クラウドハブに配布されます。

セキュリティに関する考慮事項

QlikView ドキュメントまたは QlikView ドキュメントへのリンクを公開する場合、それらは既存のセキュリティルールで公開されません。公開された QlikView ドキュメントを管理されているスペースに追加するのは Qlik Cloud 管理者の責任です。管理スペースは、アプリとアプリデータの両方に対する厳格なアクセス制御により、アプリへのアクセスを管理するために使用します。管理スペースでは、スペースの所有者とターゲットアプリの使用者のみがアプリを開くことができます。他のユーザーは、権限が与えられていない限り、管理スペースでアプリを開くことができません。管理スペースの詳細については、[\[管理スペースで作業する\]](#) を参照してください。

トラブルシューティング

タスクが失敗した場合は、QlikView Server ログを使用して問題を特定してください。このセクションでは、失敗したタスクの考えられる解決策を示します。

考えられる原因

ドキュメントソースデータにアクセスできず、既定のデータリロードによりタスクが失敗します。

新しいタスクを作成すると、データのリロードが既定で有効になります。これは、タスクがドキュメントまたはリンクを公開する前にデータのリロードを試みることを意味します。ソースデータにアクセスできない場合、例えば QlikView ドキュメントファイルをソースドキュメントフォルダにコピーした場合、タスクは失敗します。

提案されたアクション

タスク設定でデータのリロードを無効にします。

次の手順を実行します。

1. QlikView 管理コンソールで、**[ドキュメント]** に移動し、**[ソースドキュメント]** セクションを開きます。
2. 失敗しているタスクを選択します。
3. 開いたタスク設定メニューで、**[リロード]** タブを開きます。
4. **[リロードの実行]** セクションで、**[有効化]** の選択を解除します。
5. 下部にある **[適用]** をクリックします。
6. タスクを再度実行します。

ブックマークの QlikView から Qlik Sense SaaS テナントへの移行

QlikView Object Migration for Cloud は、Qlik Sense SaaS テナントの管理スペースにある QlikView アプリに、サーバーブックマークを移行するためのツールです。

サーバーブックマークは、Qlik Sense テナントに QlikView ドキュメントを追加する際には含まれません。

QlikView は、QlikView Server の Active Directory ユーザーと Qlik Sense テナントのユーザー間でブックマークの所有権を割り当てることができます。QlikView Object Migration for Cloud は、これらのユーザーをマッピングして、ユーザーがサーバーブックマークを割り当てることができるようにします。移行処理中、QlikView Object

Migration for Cloud はご使用の Active Directory サービスに問い合わせ、ユーザーの ID とメールアドレス情報を取得し、メールアドレスにより Qlik Sense テナントでこれらの情報をユーザーにリンクします。ユーザーを手動でマッピングして、異なるユーザーをブックマークの所有者にすることもできます。ブックマークは QMT ファイルに格納されており、その後、Qlik Sense テナントのアプリに移行されます。

QlikView Object Migration for Cloud を実行すると、

1. 共有ファイル (.TShared または .Shared) とブックマークが、作業フォルダにコピーされます。
2. ファイル名とメタデータが、作業フォルダにロードされます。
3. 共有ファイルを 1 つ選択し、ファイル内にあるブックマークすべてか、サブセットのどちらかを選択します。これらは新しい共有ファイルにエクスポートされます。
4. 選択した共有ファイルを Qlik Sense テナントの QlikView アプリにアップロードします。

ブックマークは、QlikView ドキュメント、QlikView Object Migration for Cloud に含まれている *CloudMigrationApp* を使用して移行できます。*CloudMigrationApp* は、ブックマークを移行するためのスクリプト、ファイル、およびコマンドを管理します。ブックマークは、コマンドプロンプトで QlikView Object Migration for Cloud ファイルを実行することでも移行できます。

QlikView Object Migration for Cloud は  [製品](#) のダウンロード から入手可能です。

始める前に

QlikView Object Migration for Cloud をダウンロードして実行する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

- QlikView Desktop がインストールされていること。
- Qlik Sense テナントへの共有サーバーブックマークを追加する QlikView ドキュメントが追加されていること。
QlikView ドキュメントを *Qlik Sense* クラウドハブで公開する (page 94)
- お使いのテナントへのプロフェッショナル アクセス権が必要です。
- Qlik Sense テナントで Management Console アクセスがあります。
- QlikView Object Migration for Cloud で使用するには、Qlik Sense テナントで API キーを生成する必要があります。
- 次に挙げる権限の 1 つが対象先の管理スペースで必要です。
 - 所有者
 - 表示可能
 - 貢献可能
 - 管理可能
- ブックマークの対象先 QlikView アプリのアプリ ID が必要です。アプリ ID は、アプリ URL にある [document=] に続く文字列から取得できます。
たとえば、QlikView アプリ URL が `https://example.qlik.com/opendoc.htm?document=e74ebae5-5659-4211-a4de-add8e49768f6` の場合は、`e74ebae5-5659-4211-a4de-add8e49768f6` がアプリ ID です。アプリ ID の形式は、クラウドハブに公開されたか、クラウドハブに直接アップロードされたかによって若干異なります。
- QlikView Object Migration for Cloud には、Windows Active Directory Module が必要です。インストールされていない場合は、QlikView Object Migration for Cloud が自動的にインストールします。

QlikView Object Migration for Cloud のダウンロードと設定

次の手順を実行します。

1.  [製品](#)のダウンロードから QlikView Object Migration for Cloud をダウンロードします。
詳細については、「[インストールファイルのダウンロード](#)」を参照してください。
詳細については、「[インストールファイルのダウンロード](#)」を参照してください。
2. %ProgramData%\QlikTech に移動します。
3. QlikViewMigrationTool という名前のフォルダを作成し、QlikView Object Migration for Cloud ファイルをそのフォルダにコピーします。
4. オプションで、フォルダを作成し、テナントに移行するブックマークが含まれている共有ファイルを追加します。

CloudMigrationApp を使用した、ブックマークの QlikView アプリへの移行



ロードスクリプトは、CloudMigrationApp で変更しないでください。

次の手順を実行します。

1. 解凍した QlikView Object Migration for Cloud フォルダに移動し、QlikView Desktop で CloudMigrationApp ドキュメントを開きます。
2. QlikView Object Migration for Cloud の利用規約を読んで、同意します。
3. [設定] > [ユーザープロパティ] の順にクリックします。
4. [保存] タブで、[リロード前に自動保存する] を選択します。これにより、入力データがリロード後に QlikView によってクリアされることを防止します。
5. [セキュリティ] タブで、次の設定を選択し、[OK] をクリックします。
 - スクリプト (データベースへの書き込みとステートメントの実行の許可)
6. 各シートに対する QlikView ドキュメントの指示に従います。
 - a. **1. 初期化** で、共有ファイルを格納したフォルダと、フォルダのコピーを出力してテナントにアップロードするためのフォルダを選択します。
 - b. **2. ユーザーデータの取得** で、共有ブックマークの所有者と Qlik Sense Enterprise SaaS テナントのユーザーで一致する必要があるパラメーターを設定します。
 - c. **3. ユーザー マッピング ファイルの表示** で、マッピングを確認します。
オプションで、ファイル OnPremToCloudMap.csv 内のマッピングを編集します。QlikView ユーザーを Qlik Sense ユーザーにマッピングするには、Qlik Sense SaaS 管理コンソールからのユーザーの [ユーザー ID] 値と [IdP 件名] 値を QlikView ユーザー エントリに追加します。完了したら、シートで [リロード] をクリックします。
 - d. **4. 概要** で、正しいファイルがロードされていることを確認します。
 - e. **5. メタデータのフィルター** で、オプションとしてフィルターを使用し、テナントに移行する共有ブックマークの範囲を絞り込みます。
 - f. **6. クラウド用の新しい共有ファイルの準備** で、ブックマークを移行するアプリから共有ファイルを選択します。オプションで、含めるブックマークの ID を選択します。選択しない場合は、利用できるすべてのブックマークが含まれます。

- g. **[7. クラウドへのアップロード**で、テナントにある対象先 アプリを設定し、ブックマークをアップロードします。
7. 手順 **5** を繰り返します。メタデータ、**6** をフィルターします。クラウドおよび **7** 用の新しい共有ファイルを準備します。ブックマークを移行する追加のアプリごとに、クラウドにアップロードします。
8. 保存し、*CloudMigrationApp* を閉じます。
CloudMigrationApp は、アプリの保存時にアプリに追加した入力を保持します。

コマンドプロンプトから、ブックマークの QlikView アプリへの移行
次の手順を実行します。

1. コマンドプロンプトを管理者として開きます。
2. QlikView Object Migration for Cloud フォルダに移動します。
3. 次のコマンドを入力して、共有ファイルとメタデータを出力フォルダにコピーします。`QMTMetaInfo.exe -InputFolder $(vInputFolder) -OutputFolder $(vOutputFolder)`
変数を置き換えます。
 - `$(vInputFolder)`: QlikView ドキュメントフォルダへのファイルパス。
 - `$(vOutputFolder)`: 移行するファイルを格納するフォルダへのファイルパス。
4. Active Directory からユーザーデータを取得するために入力するコマンド: `QMTGetADUser.exe "$(vDCServer)" "$(vADOutputfile)"`。
次の変数を置き換えます。
 - `$(vDCServer)`: ドメインコントローラーサーバー URL。
 - `$(vADOutputfile)`: ファイル名と.csv を含む、QlikView Server ユーザーのリストを格納するフォルダへのファイルパス。
5. Qlik Sense テナントからユーザーデータを取得するために入力するコマンド: `QMTGetUserInfo.exe "$(vCloudURL)/api/v1/users" "$(vApiKey)" "$(vUserIdMapLocation)"`。
次の変数を置き換えます。
 - `$(vCloudURL)`: Qlik Sense テナントの URL。
 - `$(vApiKey)`でのみ有効です。Qlik Sense テナントからの API キー。
 - `$(vUserIdMapLocation)`: ファイル名と.csv を含む、テナントユーザーのリストを格納するフォルダへのファイルパス。
6. 次の列がある、*OnPremToCloudMap.csv* という名前の CSV ファイルを作成します。
 - *Owner*
 - *subject*
 - *id*
7. *OnPremToCloudMap.csv* に、ステップ 4 で作成した CSV の *Owner* 列からの値と、ステップ 5 で作成した.csv から、対応する [*件名*] 値と [*ID*] 値を追加します。
8. CSV ファイルを作成し、Qlik Sense テナントに移行する共有ファイルから、ブックマーク ID のコンマ区切りされたリストを追加します。
9. コマンドプロンプトで、テナントにアップロードするブックマークを含んだ QMT ファイルを作成するために入力するコマンド: `QMTFilter.exe "$(OldSharedFile)" "$(csvFile)" "$(OnPremToCloudMap.csv)" "$(Updated)"`。
次の変数を置き換えます。

- `$(OldSharedFile)`: 共有ファイルがある場所へのフルパス (ファイル名を含む)。
- `$(csvFile)`: ブックマークIDを含んだCSVファイルへのフルパス (ファイル名を含む)。
- `$(OnPremToCloudMap.csv)`: `OnPremToCloudMap.csv` へのフルパス (ファイル名を含む)。
- `$(Updated)`: QMT が格納されるフォルダへのパス。

10. 変数を置き換えるために実行するコマンド: `qlik_qv_export.exe -mode=migrate -cloudUrl="$(vCloudURL)" -appId="$(vAppId)" -api_key="$(vApiKey)" -uploadpath="$(vSharedFileToUpload)" -handledDirectory="$(vHandledDirectory)"`。
次の変数を置き換えます。

- `$(vCloudURL)`: Qlik Sense Enterprise SaaS テナントの URL。
- `$(vAppId)`: ブックマークの移行先アプリのアプリID。
- `$(vApiKey)`: Qlik Sense Enterprise SaaS テナントからの API キー。
- `$(vSharedFileToUpload)`: ブックマークを含んでいる QMT ファイル。
- `$(vHandledDirectory)`: クラウドへの移行後に QMT ファイルが格納されるフォルダへのフルパス。

制限

QlikView Object Migration for Cloud には、次の制限があります。

- QlikView Object Migration for Cloud は、個人スペースにある QlikView アプリへのブックマークの移行をサポートしていません。共有スペースにある QlikView アプリにはブックマークを移行できますが、ユーザーは共有スペースを利用できません。
- 入出力フォルダのための UNC パスは、サポートされていません。ローカルドライブにマッピングされた共有フォルダは、サポートされます。
- シート 4 上の **XLSX ファイルの数。概要**は、フォルダ内の実際のファイル数とは異なる場合があります。これは、アプリでは空のメタデータが表示されないためです。
- すでにブックマークを共有ファイルから移行している場合は、その共有ファイルから再びファイルをコピーする前に、処理済みディレクトリから以前に生成されたファイルを削除する必要があります。

QlikView ドキュメントへのリンクの Qlik Sense クラウドハブでの公開

クラウドハブで QlikView ドキュメントへのリンクを公開できます。ユーザーはクラウドハブからリンクにアクセスし、QlikView Server 環境でドキュメントを開きます。

Qlik Sense クラウドハブで QlikView ドキュメントへのリンクを公開するには、最初に QlikView Server を Qlik Sense Enterprise SaaS クラウド展開に接続する必要があります。QlikView 管理コンソールでタスクを作成して、リンクを公開します。クラウドハブで公開されると、リンクはクラウドハブからアクセスできます。QlikView ドキュメントは QlikView Server で開かれます。



この機能は、*Qlik Sense Business* では利用できません。

QlikView ドキュメントへのリンクを公開するタスクの作成

同じタスクを使用して、QlikView ドキュメントとそのリンクの両方を配布できます。同じ設定が両方の配布に適用されます。ただし、最適なパフォーマンスを得るには、QlikView ドキュメントまたはそのリンクをクラウドハブに配布するときに専用設定を適用する場合は、QlikView リンクとドキュメントを公開するために個別のタスクを使用する必要があります。



分布タスクを作成する前に、QlikView Server を Qlik Cloud 展開に接続していることを確認してください。

[Qlik Sense Enterprise SaaS 展開への QlikView Server の接続 \(page 93\)](#)

次の手順を実行します。

1. QlikView 管理 コンソール で、[ドキュメント] タブに移動し、[ソース ドキュメント] セクションを開きます。



[Distribution Services] の下にリストされているソース ドキュメントフォルダからのみドキュメントを公開できます。デフォルトのパスは C:\ProgramData\QlikTech\SourceDocuments です。

2. Qlik Cloud に公開するソース ドキュメントを選択します。
3. [追加] ボタンを選択して、新しいドキュメントタスクを作成します。 [タスクの編集] ボタンを選択して、既存のタスクを編集します。

- 4.



タスクの詳細については、[ソース ドキュメント](#)を参照してください。

5. リンク配布を構成します。
 - a. [配布] タブに移動し、[手動] セクションを開きます。
 - b. [QlikView Server への配布] セクションで、 [受信者を追加] ボタンを選択します。
 - c. 現在表示されているドロップダウン メニューから、サーバーとユーザー タイプを選択します。
 - d. [クラウド ネイティブへの配布] セクションで、[リンクの配布] を選択して、Qlik Sense クラウド ハブへのリンクの配布を有効にします。
 - e. [クラウド展開] ドロップダウン メニューで、リンクを配布する Qlik Sense Enterprise SaaS 展開を選択します。



クラウド展開は 1 つだけ選択できます。複数のクラウド展開に配布するには、クラウド展開ごとに別々の配信タスクを作成します。

6. 展開に 1 つ以上のタグを追加します。タグの追加はオプションです。タグは、QlikView ドキュメントリンクとともにクラウドハブに表示され、クラウドハブのコンテンツをフィルタリングするために使用されます。
7. [適用] を選択してタスクを作成します。タスクは、[ステータス] タブの [タスク] セクションに表示されます。
8. タスクを右クリックし、[実行] を選択して、ドキュメントリンクを Qlik Sense クラウド ハブに配布します。

セキュリティに関する考慮事項

QlikView ドキュメントまたは QlikView ドキュメントへのリンクを公開する場合、それらは既存のセキュリティルールで公開されません。公開された QlikView ドキュメントを管理されているスペースに追加するのは Qlik Cloud 管理者の責任です。管理スペースは、アプリとアプリデータの両方に対する厳格なアクセス制御により、アプリへ

のアクセスを管理するために使用します。管理スペースでは、スペースの所有者とターゲットアプリの使用者のみがアプリを開くことができます。他のユーザーは、権限が与えられていない限り、管理スペースでアプリを開くことができません。管理スペースの詳細については、[\[管理スペースで作業する\]](#)を参照してください。

トラブルシューティング

タスクが失敗した場合は、QlikView Server ログを使用して問題を特定してください。このセクションでは、失敗したタスクの考えられる解決策を示します。

考えられる原因

ドキュメントソースデータにアクセスできず、既定のデータリロードによりタスクが失敗します。

新しいタスクを作成すると、データのリロードが既定で有効になります。これは、タスクがドキュメントまたはリンクを公開する前にデータのリロードを試みることを意味します。ソースデータにアクセスできない場合、例えば QlikView ドキュメントファイルをソースドキュメントフォルダにコピーした場合、タスクは失敗します。

提案されたアクション

タスク設定でデータのリロードを無効にします。

次の手順を実行します。

1. QlikView 管理コンソールで、[ドキュメント] に移動し、[ソースドキュメント] セクションを開きます。
2. 失敗しているタスクを選択します。
3. 開いたタスク設定メニューで、[リロード] タブを開きます。
4. [リロードの実行] セクションで、[有効化] の選択を解除します。
5. 下部にある [適用] をクリックします。
6. タスクを再度実行します。

5 ユーザー

をユーザー タブには、次のページが含まれます。

- **ユーザー管理 (User Management):** ユーザーの CAL およびサーバー オブジェクト、グループ、ドキュメント、配信を管理できます。
- **セクションアクセス管理 (Section Access Management):** セクション アクセスに使用するテーブルを設定できます。

をユーザー および システム タブは、QlikView Administrators のみが利用できるもので、QlikView Publisher ドキュメント管理者権限では使用できません。

5.1 ユーザー管理

[General] ユーザー管理 ページでは、QlikView Server (QVS) および QlikView Publisher (QVP) システムのすべてのユーザーを、以下に示すタブのオブジェクトについて表示および管理できます。

- CAL
- サーバー オブジェクト
- グループ (Groups)
- ドキュメント
- 配布

ユーザーの検索

ユーザーを検索するには、次の手順を実行します。

- **User**
このテキストボックスにユーザー名を検索するために有用な検索用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックして検索を開始します。
- **検索を行う項目**
絞り込んだユーザー検索を行うために、ディレクトリをひとつ選択するか、ドロップダウン リストから [All Directories] (すべてのディレクトリ) を選択します。
- **検索結果**
左側パネルに検索結果として、ユーザーの名前、User、および場所、パス (Path), of the user(s)。

ユーザーの表示と管理

ユーザー設定の表示と管理を行うには、タブのいずれかで左側パネルのユーザーをクリックします。

CAL

この CAL タブでは、サーバーまたはユーザー ドキュメントで、クライアントアクセス ライセンス (CAL) に割り当てられているユーザーに関する情報を表示および削除できます。CAL とユーザーのすべての関連付けがリストに表示されます。



このタブはドキュメント CAL が現在のユーザーに割り当てられている場合にのみ利用可能です。



このタブに表示される情報は、左側のパネルの選択に応じて異なります。

関数

ユーザー名

パスを含む、現在のユーザー名が表示されます。ユーザーとは、認証されているユーザー名またはマシン名です。

タイプ

現在のユーザーの CAL の種類が表示されます。可能な値は次の通りです。

- Document CAL
- Named CAL

最終アクセス日時 (Last Used) (UTC)

現在のユーザーが最後にサーバー アクティビティを行ったタイム スタンプ (UTC: 協定世界時) です。

有効期限 (UTC) (Expiration (UTC))

7 日間 CAL とユーザーの関連付けが使用されていない場合は、直ちに削除されます。CAL とユーザーの関連付けが現在使用中であったり最近使用されていた場合は、削除のステータスが付けられ、この CAL を介した新しいユーザーによるアクセスセッションは許可されません。しかし、CAL とユーザーの関連付けは、有効期間が終了するまで、割り当てられた CAL を占領します。

ソース

CAL が割り当てられているサーバーまたはユーザー ドキュメントの名前が表示されます。

【削除】

ここで有効期限 (Quarantined Until) (UTC) 日時を超えた場合、CAL とユーザーの関連付けは手動により削除できます。リストから CAL とユーザーの関連付けを完全に削除するには、まずドキュメント CAL を解放し、[削除] アイコン  をクリックします。



CAL とユーザーの関連付けは、期限が過ぎると正式に削除されます。



その CAL は 7 日間利用できません。

削除を元に戻す (Undo Delete)

Before the 有効期限 (Quarantined Until) (UTC) 日時を超える前であれば、削除を元に戻す (Undo Delete) アイコン  をクリックします。

サーバー オブジェクト

このサーバー オブジェクトタブでは、ユーザーが所有しているすべてのサーバー オブジェクトを、表示および削除できます。



このタブはドキュメント CAL が現在のユーザーに割り当てられている場合にのみ利用可能です。



このタブに表示される情報は、左側のパネルの選択に応じて異なります。

ID

サーバー オブジェクトの ID です。

オブジェクトの種類 (Object Type)

サーバー オブジェクトの種類です。

共有 (Shared)

サーバー オブジェクトが共有されているかどうかが表示されます。

ドキュメント名 (Document Name)

サーバー オブジェクトが存在しているドキュメントの名前が表示されます。

所有者

サーバー オブジェクトの所有者名です。ユーザーとは、認証されているユーザー名またはマシン名です。

ユーザーの管理 (Manage User)

サーバー オブジェクトの所有者を再度割り当てるには、このテキストフィールドに該当するユーザーの名前とパスを入力するか、または以下を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、ユーザーの管理 (Manage User) ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。

- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

削除を元に戻す (Undo Delete)

最大 undelete a previously deleted server object, click on the 削除を元に戻す (Undo Delete) アイコン  をクリックします。

入力数

現在のセクションアクセステーブルに設定済みの入力数が表示されます。各ページごとに表示する入力数を、ドロップダウン リストから選択します。

- 10 per page (1 ページに 20)
- 20 per page (1 ページに 20)
- 50 per page (1 ページに 20)
- 100 per page (1 ページに 20)

グループ (Groups)

[General] グループ (Groups) タブには、ユーザーがメンバーとなっているすべてのグループが表示されます。



このタブに表示される情報は、左側のパネルの選択に応じて異なります。

グループ名

左側パネルには、現行ユーザーがメンバーとなっているディレクトリグループ名が表示されます。

グループ名

右側パネルには、既存の QlikView グループ名が表示されます。グループ名にチェック  が付いていると、現在のユーザーはこのグループのメンバーであるという意味です。

ドキュメント

[General] ドキュメント タブには、ユーザーがアクセスできるすべてのユーザー ドキュメントおよびソース ドキュメントが表示されます。



このタブに表示される情報は、左側のパネルの選択に応じて異なります。

ユーザー ドキュメント名 (User Document Name)

左側パネルには、現在のユーザーがアクセス可能なユーザー ドキュメントの名前が表示されます。

ソース ドキュメント名 (Source Document Name)

右側パネルには、現在のユーザーがアクセス可能なソース ドキュメントの名前が表示されます。

配布

[General] 配布 タブには、現在のユーザーが受信者となっているすべての配信が表示されます。また、タスクの設定も編集できます。



このタブに表示される情報は、左側のパネルの選択に応じて異なります。

タスク名 (Task Name)

タスクを編集するには、タスク名をクリックします。

一致 (Match)

現在のユーザーをフィルタリングして配信リストを作成するための、一致条件が表示されます。可能な値は次の通りです。

全ユーザー (All Users): 認証を受けた全ユーザー (ファイルへの匿名アクセスが許可されていることを意味します)。



匿名アクセスが許可されている場合、IQVS アカウントはファイル アクセスを制御します。つまり、正しいファイル アクセス権を IQVS アカウントに付与する必要があることを意味します。既定では、QlikView インストールのローカル アカウントとして、アカウントを作成します。クラスター環境では、全てのノードがアクセスできるように、ドメインのアカウントとして IQVS アカウントを作成する必要があります。

すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。

項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

配布

ドキュメントの配信に利用可能なサーバーが表示されます。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。



設定済みのエントリを削除できるのは、配信の受信者であることが明らかなユーザーのみですが、受信者として設定されているグループに属しているユーザーの場合、削除はできません。

ユーザー管理検索機能

In the search field of the 検索フィールドで、dialog, the following apply:

- Searches in the Microsoft Active Directory are performed on the account names, sAMAccountName(ログイン名) とname(the entire account name), only.

sAMAccountName

カスタム ユーザー

name

John Smith

- アスタリスク演算子 (「*」: 任意の文字 (列) を表す演算子) がサポートされます。
- 区切り演算子 (「;」 (セミコロン): 同時に複数の検索条件を設定できる演算子) がサポートされます。

jsmith*;wjones*は、ローカルまたは wjones*.

- 大文字と小文字は、区別されません。それらは同一文字 (列) と見なされます。
- 限定詞を付けることによって、特定のディレクトリサービスプロバイダ内に検索を限定することができます。

Example 1:

<domain_name>\jsmith*は、ローカルin the directory <domain_name>, only.

Example 2:

<computer_name>\jsmith*will search for local account names matching ローカルon the local ComputerName, only.

Example 3:

custom\jsmithは、カスタム ユーザーin カスタム ユーザー (Custom Users), only.

Example 4:

ローカルは、ローカルに一致するアカウント名が検索されます。

5.2 (セクション アクセス管理)

この (セクション アクセス管理) ページでは、セクション アクセスに利用可能なすべてのテーブルが、左側パネルのツリー構造にリストされます。これらのテーブルには、QlikView ドキュメントで使用されるセクション アクセス テーブルのセントラル レポジトリとしての役割があります。テーブルの実際の使用については、該当するドキュメントのロードスクリプトで定義されています。

セクション アクセスは「分割」に類似していますが、ユーザーがドキュメントにアクセスする際に、QlikView Server によって実行される点が異なります。セクション アクセスを選択するか、それとも静的な分割を選択するかは、パフォーマンスとメモリー使用量の問題です。QlikView Publisherがセクション アクセスの保護されたQlikView ファイルを開くと、分割値に基づいてファイルが分割されます。



Section Access によるデータ分割は配信ドキュメントに予期せぬ結果を招く可能性があるため、注意して使用してください。

セクション アクセス テーブル (Section Access Table)

セクション アクセス テーブルの URL (Section Access Table URL)

定義されているすべてのセクション アクセス テーブルを使用するには、QlikView スクリプト エディターで、ロードスクリプトに表示されるパス (URL) を追加します。

[Add] (追加)

テーブル エントリを作成するには、右側パネルの [Add] (追加) アイコン  をクリックし、新しいテキストボックスに記述名を入力します。新しいテーブルが、左側パネルのツリー構造で利用可能になります。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

セクション アクセス テーブルの管理 (Manage Section Access Table)

既存のセクション アクセス テーブルの設定を右側パネルで表示および管理するには、左側パネルのツリー構造に表示された該当するテーブルをクリックします。たとえば、「default」という名前が付いた、すでに定義されているテーブルをクリックします。

許可されたユーザー...

現在のセクション アクセス テーブル URL は、特定のユーザーのみがそれらを使用できるように設定できます。



管理者グループのメンバーは常にセクション アクセス テーブルにアクセスできます。

ユーザーおよびグループを管理するには、このボタンをクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

ユーザー検索の場所 (Search for Users in)

ドロップダウンリストで、[Allowed Users...] (許可されたユーザー...) 機能を使用してユーザーやグループを検索する場所であるディレクトリサービス コネクタを選択します。これは下記のセクション アクセス テーブルにも該当します (ユーザーの管理を表示するクリック可能アイコンを持つ列ユーザー)。

列の編集 (Edit Columns...)

<appSettings> [Edit Table Columns] (テーブル列の編集) ダイアログでは、現在の section access テーブルへの列の追加や既存列の削除が可能です。使用できるテーブル列はテーブル列に一覧表示されます。

このボタンをクリックすると、ダイアログが開きます。

- QlikView 列 (QlikView Column)
このリストにはすべての予約済みの (reserved) 列が含まれています。列をクリックすると、その説明が表示されます。説明は、左側の利用可能な列リストと右側の選択された列リストに表示されます。
- 列の追加 (上) (Add Column (upper))
現在のセクション アクセス テーブルに [予約済み列を追加するには、列をクリックして、次にこのボタンをクリックします。列は、左側の利用可能な列リストから右側の選択された列リストに表示されます。
- 列の入力 (Type Column)
現在のセクション アクセス テーブルに [カスタム列を追加するには、このテキストボックスに名前を入力し、列の追加 (下) (Add Column (lower)) ボタンをクリックします。
- 列の追加 (下) (Add Column (lower))
現在のセクション アクセス テーブルに カスタム列を追加するには、このボタンをクリックします。新しい列は、右側の [選択された列リスト] に表示されます。

- 上へ
現在のセクション アクセス テーブル内の列を左側に移動させるには、右側の選択された列リストにある列をクリックし、上へアイコン  をクリックします。必要に応じて、この操作を繰り返します。列は右側の選択された列リストの上部に移り、現在の section access テーブル内の左側に移動します。
- 下へ
現在の section access テーブル内の列を右側に移動させるには、右側の選択された列リストにある列をクリックし、下へアイコン  をクリックします。必要に応じて、この操作を繰り返します。列は右側の選択された列リストの下部に移り、現在の section access テーブル内の右側に移動します。
- 列の削除 (Remove Column)
現在の section access テーブルから完全に列を削除するには、列をクリックして、次にこのボタンをクリックします。予約済みの列は右側の選択された列リストから左側の利用可能な列リストに移動し、同時にカスタム列は削除されます。

テーブル列

次のテーブル列が利用可能です。

- ACCESS: 対応するユーザーに与えられるアクセス権限を定義する項目。ドロップダウン リストで使用できるオプションは次の通りです。
 - ADMIN
 - USER
- NTNAME: Windows NT のドメイン ユーザー名またはグループ名に対応する文字列を含む項目。この項目では、ユーザーやグループにセクション アクセス機能によって配信されるドキュメントへのアクセス権の付与を指定します。QlikView Server が OS からログオン情報を取得し、それをこの項目の値と比較します。ユーザーやグループを管理するには、この項目に有効な文字列を入力するか、以下の手順を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、
[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果 ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。

- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。
- NTSID: Windows NT の SID を含む項目。QlikView Server が OS からログオン情報を取得し、それをこの項目の値と比較します。

S-1-5-21-125976590-467238106-1092489882-1378

- NTDOMAINSID: Windows NT ドメインの SID に対応する文字列を含む項目。
- SERIAL: QlikView のシリアル番号に対応する番号を含む項目。QlikView Server がユーザーのシリアル番号を確認し、それをこの項目の値と比較します。

4900 2394 7113 7304

- USERID: 許可されるユーザー ID を含む項目。QlikView Server がユーザー ID の入力を要求し、この項目の値と比較します。このユーザー ID は、Windows のユーザー ID と同じではありません。
- PASSWORD: 許可されるパスワードを含む項目。QlikView Server がパスワードの入力を要求し、この項目の値と比較します。このパスワードは、Windows のパスワードと同じではありません。
- OMIT: この特定のユーザーに対して省略する項目を含む項目。ワイルドカードを使用したり、項目を空にしたりすることもできます。これを手軽に行うには、サブフィールドを使用します。



キー項目に **OMIT** を適用しないでください。基底のデータ構造を変更してしまい、論理的なアイランドを作成し、計算上の矛盾を引き起こす場合があるからです。

- カスタム: 必要に応じて定義されるカスタム項目。

テーブルデータのインポート (Import Table Data...)

タブ区切りのファイルの内容は、現在の **section access** テーブルに貼り付けできます。To open the インポートダイアログを開くには、このボタンをクリックします。

- 下のタブ区切りファイルの貼り付け (Paste Tab Separated File Below):
タブ区切りファイルの内容をこのテキストボックスに入力します。
- 最初の行を列名にする (Treat First Row as Column Names)
タブ区切りファイルの最初の行を列名に指定すると、この行はインポートされません。最初の行をインポートから除外するには、このチェックボックスをオンにします。最初の行もインポートするには、このチェックボックスをオフにします。
- テーブルデータのクリア (Clear Table Data)
インポート済みのデータを現在の **section access** テーブル上の既存データと置き換えるには、このチェックボックスをオンにします。インポート済みのデータが現在の **section access** テーブルにすでに表示されている場合は、このチェックボックスをオフにします。

検索

現在のセクション アクセス テーブルのエントリリストをフィルタリングするには、すべての列で検索する語句をこのテキストフィールドに入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックして検索とフィルター処理を開始します。

[Add] (追加)

現在のテーブルのテーブル行 エントリを新たに作成するには、テーブル ヘッダーの左側にある [Add] (追加) アイコン  をクリックします。新しいエントリが、テーブルの最後に追加されます。

コピーと貼り付け (Copy and Paste)

現在のテーブルのテーブル行 エントリをコピーするには、コピーするテーブル行の [Add Row] (行の追加) アイコン  をクリックします。新しいエントリが、テーブルのコピー済みエントリの直下に追加されます。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

入力数

現在のセクション アクセス テーブルに設定済みの入力数が表示されます。各ページごとに表示する入力数を、ドロップダウン リストから選択します。

- 10 per page (1 ページに 20)
- 20 per page (1 ページに 20)
- 50 per page (1 ページに 20)
- 100 per page (1 ページに 20)

6 システム

をシステム タブには、次のページが含まれます。

- 設定
- ライセンス
- バージョン情報
- サポートタスク
- ログ収集

これらのページでは、QlikView Server (QVS) および QlikView Publisher (QVP) の様々なサービスに関するすべての設定を管理することができます。

をユーザー および システム タブは、QlikView Administrators のみが利用できるもので、QlikView Publisher ドキュメント管理者権限では使用できません。

6.1 設定

を設定ページには以下のフォルダが含まれています。

- Management Service では、全サービスと通信し、QMC Graphical User Interface (GUI) をホストしている QlikView Management Service を表示し、管理します。
- QlikView Servers では、ユーザー ドキュメントのホストを管理します。
- Distribution Services では、QlikView Distribution Service (QDS) 設定を管理します。
- Directory Service Connectors では、さまざまなソースからのユーザー情報を監視します。
- Directory Service Providers では、ディレクトリサービスの構成を管理します。
- QlikView Web Servers では、AJAX ウェブページのウェブサーバー、QlikView AccessPoint のホスト、QlikView Server のロードバランスを管理します。
- Remote Management Services では、リモートサーバー管理サービスからタスクをインポートできます。
- Mail Server では、アラートメールやメール配信サービスを管理します。
- License Service では、License Service の情報を表示できます。
- クラウド展開

詳細を確認するには、各フォルダのラベルをクリックしてください。

管理サービス

<appSettings> 管理サービスフォルダでは、QlikView Publisher (QVP) の重要な調整コンポーネントを管理します。Management Service は QlikView Publisher Repository (QVPR) の保守を行う以外に、さまざまなコンポーネントを追跡し、すべてのサービスと通信し、QMC Graphical User Interface (GUI) をホストします。QVP でインストールされる Management Service は 1 つだけです。

を管理サービスフォルダには、次のタブが含まれています。

- サマリー (Summary): Management Service のアドレスが表示されます。
- 基本設定 (General): Management Service のログインレベルを管理します。

- リポジトリ(Repository): QlikView Publisher Repository (QVPR)、つまり、タスク情報を含むデータベースを管理します。
- 監査 (Auditing): システムのタスクや設定の変化のユーザー追跡が表示されます。

概要

[General] 概要 タブには、管理サービスの API に接続するために使用されたアドレスが表示されます。

リンクをクリックすると、API の Web サービス記述言語 (WSDL) が表示されます。

General (基本設定)

[General] 基本設定 タブでは、Management Service のログ レベルを管理します。

場所

[URL]

管理サービスの [URL] を示します。

http://<mycomputer>:4799/QMS

ログ レベル (Logging Level)

サービスのログ レベル。次のオプションを1つ選択します。

- ログなし (No Logging)
- 標準 ログ (Normal Logging)
- デバッグ ログ (Debug Logging)



デバッグ ログレベルは、システム負荷が高くなるので注意が必要です。

リポジトリ

[General] リポジトリタブでは、QlikView Publisher (QVP) のリポジトリとして使用するデータベースの名前を設定できます。データベースが存在しない場合は、作成されます。QlikView Publisher Repository (QVPR) は QVP タスクに関する情報を含むデータベースです。リポジトリは XML ベースであるか、あるいは Microsoft SQL Server 上に保存されます。



このタブは、有効な QlikView Publisher (QVP) ライセンスがインストールされている場合にのみ利用できます。

リポジトリタイプの選択 (Choice of Repository Type)

次のオプションのいずれかを選択します。

- XML リポジトリ (XML Repository)
- Microsoft SQL Server

選択したリポジトリタイプに応じて、リポジトリタブの設定も変更されます。

XML リポジトリの設定 (Settings for XML Repository)

データベース

XML リポジトリの名前です。

オプションのベースパス (Optional Base Path)

XML リポジトリが作成されるフォルダへのパスです。



このパスが同じ名前のデータベースを含む場合、データは上書きされます。

現在のリポジトリからデータを移行 (Migrate Data From Current Repository)

データベースを作成する場合、例えば、会社のデータベースから新しいデータベースへデータを移行する可能性があります。現在の QVPR リポジトリから新しいパスへデータを移行するには、このチェックボックスをオンにします。データを移行しない場合は、オフにします。



移動先リポジトリにデータが含まれている場合は、上書きされます。継続する前にバックアップを作成してください。データベースを作成する場合、古いデータベースを移行することができます。移行しない場合、最初はデータベースにはデータがありません。

バックアップ設定 (Backup Settings)

スケジュール (Schedule)

リポジトリのバックアップを定期的に行うように設定できます。次のオプションのいずれかを選択します。

- なし: バックアップは実施されません。
- 毎日: バックアップは毎日所定の時刻に実施されます。
- 毎回 (Every): バックアップは一定の間隔 (設定分毎) で実施されます。

バックアップは .zip ファイルとして保存され、ファイル作成時のタイムスタンプを使用して名前が付けられます。

オプションのバックアップパス (Optional Backup Path)

バックアップの .zip ファイルへのパスを変更するには、有効なパスを入力します。デフォルトでは、.zip ファイルが保存されるパスはリポジトリと同じです。

今すぐバックアップ (Backup Now)

今すぐバックアップを作成するには、今すぐバックアップ (Backup Now) ボタンをクリックします。

Microsoft SQL Server リポジトリの設定 (Settings for Microsoft SQL Server Repository)

サーバーを選択 (Get Servers)

ネットワーク上で使用できる Microsoft SQL Server のリストからサーバーを選択するには、このボタンをクリックします。

サーバー

選択された Microsoft SQL Server の名前。

ポート

通信のポート番号。

接続モデル (Connection Model)

Microsoft SQL Server との通信に使用するプロトコル。

接続方法 (Connect Using)

認証方法を選択します。次のオプションのいずれかを選択します。

- 管理サービス ユーザー (Windows 認証): サービスを実行している Windows ユーザーが使用されます。
- SQL Server 認証 (SQL Server Authentication)

データベース

Microsoft SQL Server 上のデータベースの名前。既存の QVP データベースの名前に設定すると、既存のデータベースのデータが更新されます。

現在のリポジトリからデータを移行 (Migrate Data From Current Repository)

データベースを作成する場合、例えば、会社のデータベースから新しいデータベースへデータを移行する可能性があります。現在の QVPR リポジトリから新しいパスへデータを移行する場合、このチェックボックスをオンにします。データを移行しない場合は、オフにします。



移動先 リポジトリにデータが含まれている場合は、上書きされます。継続する前にバックアップを作成してください。データベースを作成する場合、古いデータベースを移行することができます。移行しない場合、最初はデータベースにはデータがありません。

監査

[General] 監査 タブでは、システムでユーザーが行ったタスクや設定の変更の追跡の設定を管理できます。監査ログには、ユーザー、変更、タイムスタンプなどの情報が記録されます。

有効化 (Enabled)

このチェックボックスは、監査ログのオン (選択) またはオフ (非選択) を示します。



このタブで監査ログを有効にすることはできません。監査は、Management Service 構成ファイルの QVManagementService.exe.config (C:\Program Files\QlikView\Management Service ディレクトリ内) を有効にする必要があります。パラメータの値を変更するには、QlikView Management Service (QMS) を再起動する必要があります。

監査ファイル (Audit Files)

フォルダ

監査ログの完全な絶対パスです。

監査ログの保存日数 (Days to Keep Audit Logs)

ログが保存される日数です。この設定値よりも古いログは新しいログによって上書きされます。

QlikView Servers

<appSettings> QlikView Servers フォルダでは、ユーザー ドキュメントをホストしている QlikView Server (QVS) クラスターを表示、追加、編集、削除します。



クラスターは 1 つまたは複数のノードを含む場合があります。

関数

追加

QlikView DSC クラスター エントリを作成するには、パネル右側の [Add] (追加) アイコン、 をクリックして、新しいテキストボックスに URL を入力します。新しいエントリが、左側パネルのツリー表示で利用可能になります。

```
qvp://<mycomputer>/
```



QVP リンクは *QlikView Desktop* でのみ開くことができます。

編集

QlikView Server クラスター エントリを作成するには、編集 アイコン、 をクリックするか、ツリー表示でエントリをクリックします。右側パネルに、以下のタブが表示されます。

- 基本設定
- フォルダ
- ドキュメント
- パフォーマンス
- ログ
- セキュリティ
- フォルダ アクセス (Folder Access)
- Login (ログイン)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

[Apply] (適用)

角の丸みには [Apply] (適用) 変更を確認するため。

キャンセル

角の丸みには キャンセル変更を元に戻すため。

表示

QlikView Server クラスターの設定を右側パネルで表示または構成するには、ツリー表示の該当するエントリをクリックします。各エントリには、以下のタブが含まれます。

- 基本設定
- フォルダ
- ドキュメント
- パフォーマンス
- ログ
- セキュリティ
- フォルダ アクセス (Folder Access)
- Login (ログイン)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

(基本設定)

この基本設定タブでは、QlikView Server (QVS) の現在のクラスターを管理します。

クラスター

名前

QlikView Server クラスターの名前です。編集するには、このテキストボックスに特定の名前を入力します。

Serial Number

QlikView Server ソフトウェア ライセンスのシリアル番号が表示されます。

制御番号 (Control)

QlikView Server クラスターを設定するには、QlikView Server ソフトウェア ライセンスのコントロール番号を入力します。

AllowAlternateAdmin=1

クラスター ノードエントリを追加するには、右側パネル右上の AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下の新しいテキストボックスを構成します。

- URL
このテキストボックスに QlikView Server へのパスを入力します。

```
qvp://<mycomputer>/
```



QVP リンクは QlikView Desktop でのみ開くことができます。

- リンク マシン名 (Link Machine Name)

QlikView Server クラスターが内部で使用されている名前と同じ名前が外部に公開されていない場合、外部の名前を入力します。これによって、QlikView プラグインで QlikView ドキュメントが有効になります。バージョン 8.5 の動作を模倣するために、(FromRequest) (カッコを含みます) と入力することが可能です。外部に公開された名前は、クライアントが QlikView AccessPoint に接続するために使用する URL と同じになり、設定は、クライアントからのリクエストから取得されます。



このボックスに何も入力しないと、クライアントに公開される名前は、QlikView Server のコンピュータ名になります。

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

フォルダ

このフォルダ タブでは、クラスタリングおよびロード バランスのドキュメントおよび一時 ファイルへのパスを管理します。



QlikView Server (QVS) のユーザー ドキュメント用のルート フォルダと QlikView Distribution Service (QDS) のソース フォルダが、同じパスを利用することはできません。

ドキュメント フォルダ (Document Folders)



QlikView Server (QVS) または QlikView Publisher (QVP) で管理されているフォルダ内のドキュメントを操作しないでください。

ルート フォルダ (Root Folder)

QlikView Server からアクセスするドキュメントへのパスを設定します。このパスは一般的に、デフォルトのドキュメントの場所を表します。ドキュメントは、このフォルダのサブフォルダに含まれる場合もあります。Microsoft Windows ファイル セキュリティは、QlikView Server Document Metadata Service (DMS) 許可モードを使用していない場合は、ドキュメント フォルダおよびファイルへのユーザー アクセスすべてに適用されます。

インストール後の初期位置は、OS によって異なる可能性があります。

既定のパス: C:\ProgramData\QlikTech\Documents.

フォルダを選択するには、有効な絶対パスをこのテキストボックスに入力するか、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。



赤い アスタリスクの付いた値は入力必須で、入力しないとエラー メッセージが表示されます。

マウントされたフォルダ (Mounted Folders)

また、マウントされたフォルダ (Mounted Folders) を指定することもできます。フォルダには、サブフォルダが含まれている場合があります。

AllowAlternateAdmin=1

マウントされたフォルダを追加するには、AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- [Name] (名前)
フォルダの名前を入力します。
- パス (Path)
フォルダを選択するには、有効な絶対パスをこのテキストボックスに入力するか、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。

赤いアスタリスクの付いた値は入力必須で、入力しないとエラーメッセージが表示されます。
- 参照可能 (Browsable)
フォルダとコンテンツを、QlikViewデスクトップの [サーバーから開く] ダイアログから参照できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。参照機能を無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

システム フォルダ (System Folders)

代替の一時ファイル フォルダ パス (Alternate Temporary Files Folder Path)

QlikView Server でクラスタリングまたはロードバランシングを使用している場合、一時ファイルへの代替パスを設定する必要があります。このパスは、クラスタのすべての QlikView Server からアクセス可能であることが必要です。

フォルダを選択するには、有効な絶対パスをこのテキストボックスに入力するか、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。

代替の拡張パス (Alternate Extensions Path)

QlikView 拡張機能が存在するディレクトリのパスまたは参照を入力します。

ドキュメント

[General] ドキュメントタブでは、ドキュメント管理の設定を管理できます。

サーバー

ドキュメントタイムアウト (Document Timeout)

ドキュメントを開いておく貴重なシステム リソース (例えば割り当てられたメモリ量や RAM) を使うので、使用しないドキュメントは開いたままにしておくべきではありません。しかし、ドキュメントをあまりにも急速に閉じると、ユーザーが次回そのドキュメントにアクセスする際に、サーバーがそれを再度開くのに時間がかかるため、待ち時間が長くなる場合があります。この値は、QlikView Server (QVS) がドキュメントを閉じてリソースを解放するまでの、ドキュメントが使われていない状態を許可する時間を制御します。

既定のパス: 480 分

ドキュメントのダウンロードを許可 (Allow Document Download)



ユーザーにドキュメントのダウンロードを許可し、ドキュメントへのアクセス権を付与することは、セキュリティリスクの発生に繋がる恐れがあります。

ドキュメントは QlikView AccessPoint からクライアントにダウンロードできるように設定できます。ドキュメントのダウンロードを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。ドキュメントのダウンロードを無効にするには、オフにします。

ドキュメントのアップロードを許可 (Allow Document Upload)

新しいドキュメントまたは更新されたドキュメントは、QlikView Publisher (QVP) の QlikView Distribution Service (QDS) から QlikView Server にアップロードできるように設定可能です。このアップロード機能を有効にするには、QlikView Server を QVP のリソースとして定義することが必要です。すると、QVP を使用する場合、このアップロード機能が有効になります。QDS から QlikView Server へのドキュメントのアップロードを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。QDS から QlikView Server へのドキュメントのアップロードを無効にするには、オフにします。



ドキュメントのアップロードをできないようにすると、設定しているすべての配信が停止します。

メモリ内のドキュメントのコピーを1つに限定 (Allow Only One Copy of Document in Memory)

ドキュメントに変更があった場合 (例えば、リロードやレイアウトの変更)、QVS は次のいずれかを実行するように設定します。

- セッション中にドキュメントをただちに更新し、ドキュメントのバージョンが1つだけになるようにします。この設定は、QVS のメモリリソースを節約します。
- 新しいセッションを待ってから、ユーザーのドキュメントを更新します。メモリには、バージョンの異なるドキュメントのコピーが同時にいくつか存在する可能性があります。

メモリにドキュメントのバージョンを1つだけ許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。メモリにドキュメントのバージョンを複数許可する場合は、オフにします。

印刷および Excel へのエクスポートを許可 (Allow Print and Export to Excel)

ドキュメントは、印刷や Microsoft Excel へのエクスポートが可能です。ドキュメントの印刷やエクスポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。ドキュメントの印刷やエクスポートを無効にするには、このチェックボックスの選択を解除します。

行と列数のデフォルト制限

Excel エクスポートファイルの行と列のデフォルトの最大数は:

- シート当たり1048566行です。ピボットテーブルの場合: 1048566列の軸。エクスポート後に10行を追加できます。
- シート当たり16384列です。列数が制限を超えると、エクスポートされたファイルは切り捨てられ、警告メッセージが送信されます。



Excel へのエクスポートに 3 分 (180 秒) 以上かかった場合、QlikView Server がプロセスを終了し、エラー メッセージが表示されます。

サーバー注釈を許可 (Allow Server Annotations)

サーバー注釈を可能にするには、つまり、ドキュメントのシートオブジェクトに注釈をクライアントに示し、ユーザーが注釈を表示、書き込み、編集、削除できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。サーバー注釈を無効化するには、オフにします。

セッション共有を許可 (Allow Session Collaboration)

ユーザーがドキュメントのセッションを共有できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザーがドキュメントのセッションを共有できないようにするには、オフにします。

サーバーオブジェクトを許可 (Allow Server Objects)



QlikView のライセンスで共有が無効の場合 (ライセンスには、`DISABLE_COLLABORATION;YES;;`が含まれています)、サーバーのオブジェクトやサーバーのブックマークは許可されません。つまり、サーバーオブジェクトを許可 (Allow Server Objects) および匿名サーバーブックマークを許可 (Allow Anonymous Server Bookmarks) チェックボックスは、コラボレーションが無効な場合、オンにできません。

ユーザーがサーバーオブジェクトを作成できるようにするには、シートオブジェクトおよびレポート、このチェックボックスにチェックマークを入れます。ユーザーがサーバーオブジェクトを作成できないようにするには、オフにします。



チェックボックスのチェックを外すと、サーバーオブジェクトを作成することはできません。サーバーのブックマークは、チェックボックスのチェックを外した場合にのみ、他のユーザーとのブックマークの共有に影響を及ぼす可能性があります。

- 匿名サーバーブックマークを許可 (Allow Anonymous Server Bookmarks)

匿名ユーザーがブックマークを作成できるように設定できます。ユーザークライアントのマシン ID がオーナーシップに使用され、ユーザークライアントは永続的なクッキーの作成が許可されていることが必要です。匿名ユーザーがブックマークを作成できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。匿名ユーザーがブックマークを作成できないようにするには、オフにします。

セッション復元を許可 (Allow Session Recovery)

セッション復元では、セッション終了時の各ユーザーの最新の選択状態が保存されます。その後、同じユーザーが次回、同じドキュメントに再接続すると、選択状態が再度適用されます。



セッション復元は、すべてのユーザーとサーバー上のドキュメントに影響します。

セッション復元を許可するには、このチェックボックスをオンにします。セッション復元を禁止するには、オフにします。

オブジェクト

オブジェクトの移動およびサイズ変更を許可 (Allow Moving and Sizing Objects)

ユーザー全員がさまざまなクライアントで QlikView オブジェクトの移動およびサイズ変更をできるように設定できます。ユーザー全員が QlikView オブジェクトの移動およびサイズ変更をできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザー全員が QlikView オブジェクトの移動およびサイズ変更をできないようにするには、オフにします。

「合計」のデフォルト ラベル (Default label for “Total”)

棒グラフ、ピボットテーブル、およびストレートテーブルの合計のデフォルトラベルを設定できます。以下のデフォルトラベルを編集するには、合計、このテキストボックスに説明的な名前を入力します。

既定のパス: 合計でのみ有効です。

「その他」のデフォルト ラベル(Default label for “Others”)

棒グラフおよび円グラフのその他 のデフォルトラベルを設定できます。以下のデフォルトラベルを編集するには、その他、このテキストボックスに説明的な名前を入力します。

既定のパス: その他でのみ有効です。

パフォーマンス

[General] パフォーマンス タブでは、CPU、セッション、メモリ (RAM)、ドキュメント処理のパフォーマンス チューニングを管理します。

リロード制限 (Reload Limits)



このオプションは QlikView Server が起動しているときにのみ利用可能で、QlikView Publisher (QVP) 起動時には利用できません。

最大同時リロード (Max Concurrent Reloads)

同時にリロードできるドキュメントの数を設定します。



コンピュータの全体的なパフォーマンスに影響するため、同時に多数のリロードを設定をしないように注意してください。

CPU

CPU 関係 (CPU Affinity)

デフォルトでは QlikView Server (QVS) はホストコンピュータ上で使用するプロセッサを自動的に選択します。特定のプロセッサの使用、不使用を設定することができます。CPU の使用を解除するには、対応するチェックボックスをオフにします。CPU を使用するには、対応するチェックボックスをオンにします。



この機能はデフォルト設定 (すべての CPU を使用) を上書きする場合にのみ使用してください。

CPU スロットル (CPU Throttle)

デフォルトでは QlikView Server (QVS) は 100% の CPU 容量を使用するように設定されており、スロットルは使用されません。QVS プロセスの優先度は、プロセスが使用している CPU 容量に応じて増減することが可能です。これにより CPU 容量が解放されて、別のアプリケーションが使用できるようになり、サーバー全体のパフォーマンスが向上します。しきい値を設定するには、テキストボックスに適切な数値を入力します。



サーバーが QlikView Server 専用の場合は、この機能は使用しないでください。



QlikView Server プロセスの CPU 使用量がこのしきい値を超えるのは、リソースが十分にあると Windows が判断する場合があります。

既定のパス: 0 % (0 スロットルなし)。

セッション (Sessions)

同時セッション最大数

ユーザーが QVS 上でドキュメントを開くたびに、新しいユーザーセッションが生成されます。QVS 上で可能な最大の同時ユーザーセッションを設定することができます。同時ユーザーセッションの最大数を設定するには、このテキストボックスに適切な数値を入力します。



サーバーが QlikView Server 専用の場合は、この機能は使用しないでください。



この設定は Client Access License (CAL) には関係ありません。

既定のパス: 5000 (制限を指定しない場合は、空欄のまま残します)。

最大アイドル時間 (Maximum Inactive Session Time)

指定された時間内にユーザーセッションに動作のない場合、QVS によって自動的に閉じるよう設定することができます。セッションのタイムアウトを設定するには、このテキストボックスに適切な値を入力します。



最大アイドル時間はドキュメントごとに設定することができます。セッション時間は設定されている最も短い値が優先されます。このテキストボックスに入力された時間がドキュメントタイムアウトより短い場合、ドキュメントタイムアウトの設定は無視されます。

既定のパス: 1800 秒数 (0 は入力できません。何も入力しない場合は制限なしになります)。

セッションタイムアウトを許可 (Possible Session Timeout)

指定された時間内にユーザーセッションに動作がない場合、必要に応じて QVS によって自動的に閉じるよう設定することができます。セッションのタイムアウトを設定するには、このテキストボックスに適切な値を入力します。



QlikView Server は非アクティブなセッションを閉じ、必要に応じてその他のユーザーにスロットを再利用させることができます。

既定のパス: 1800 秒数 (0 は入力できません。何も入力しない場合は制限なしになります)。

最大合計セッション時間 (Maximum Total Session Time)

すべてのユーザーセッションは、その状態にかかわらず、一定時間後に QVS が終了するように設定できます。セッションのタイムアウトを設定するには、このテキストボックスに適切な値を入力します。

デフォルト値: 制限なし (0 は入力できません。何も入力しない場合は制限なしになります)。

ワーキングセット (Working Set)

アプリケーションまたはプロセスに割り当てられ、使用される RAM の物理的な最小値と最大値を設定します。このようにして、アプリケーションが物理メモリにスワップするかどうかを制御できます。



ただし、ここに設定したメモリ量でプロセスをホストできるという保証はありません。



設定値が高すぎると、サーバー上のその他のプロセスのパフォーマンスが低下する場合があります。しかし、サーバーが QlikView Server 専用の場合、そのような設定が望ましい場合もあります。



物理的メモリは上限である低 (Low) まで、QlikView Server に予約されていると仮定されます。



これらの設定は、Windows 仮想メモリマネージャについて十分な知識や経験がない場合は、変更しないようにしてください。ワーキングセットの詳細については Microsoft Windows ドキュメントでお読みください。

低 (Low)

アプリケーションが使用可能な RAM の物理的な最小値をパーセントで示します。メモリの最小値を設定するには、このテキストボックスに適切な数値を入力します。



RAM の使用量がこの制限を超える場合、Windows は QlikView Server が使用しているメモリをディスクにスワップできます。

既定のパス: 70 %.

高 (High)

アプリケーションが使用可能な RAM の物理的な最大値をパーセントで示します。メモリの最大値を設定するには、このテキストボックスに適切な数値を入力します。



RAM の使用量がこの制限を超える場合、Windows は QlikView Server が使用しているメモリをディスクにスワップできます。

既定のパス: 90 %.

ドキュメント

オブジェクト演算時間限界 (Object Calculation Time Limit)

QlikView Server がチャートオブジェクトを演算する最大時間を設定します。時間は CPU 時間の合計を秒で設定します。最大時間を設定するには、このテキストボックスに適切な数値を入力します。



並行処理技術のコンピュータでは、CPU 時間の合計は実際の経過時間とは異なります。

既定のパス: 60 秒 (CPU 時間合計内)。

チャートのマーカー最大表示数

チャートに表示されるマーカーの最大数を設定できます。マーカーの最大値を設定するには、このテキストボックスに適切な数値を入力します。

既定のパス: 100でのみ有効です。

ドキュメントの自動ロードを許可 (Allow Document Auto Load)

ドキュメントが自動的にロードおよびアンロードされるように設定できます。ドキュメントの自動ロードおよびアンロードを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。ドキュメントの自動ロードおよびアンロードを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

ログ

[General] ログ タブでは、セッション、パフォーマンス、イベント、監査ログの設定を管理できます。

ログ

セッション ログを有効化 (Enable Session Logging)

QlikView Server の詳細セッション ログを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。ログ ファイルは、*Session-Stats.log* という名前で保存されます。

パフォーマンス ログを有効化(時間設定) (Enable Performance Logging Every)

QlikView Server のパフォーマンス ログを有効にするには、このチェックボックスをオンにし、1分から1440分(24時間)の間で適切なログ間隔を入力します。ログ ファイルは、*Performance.log* という名前で保存されます。

既定のパス: 5 分

イベント ログを有効化 (Enable Event Logging)

QlikView Server のイベント ログを Windows の イベント ログに反映するには、このチェックボックスをオンにします。ログ ファイルは、*Events.log* という名前で保存されます。

監査 ログを有効化 (Enable Audit Logging)

ユーザー選択、選択のクリア、シートのアクティブ化、ブックマークの適用、レポートアクセス、オブジェクトの最大化のログを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。ログ ファイルは「ログ フォルダ (Log Folder)」に説明されている名前で保存されます。

ログを有効にしてさらなる詳細を含めるには (ブックマークに付随するすべての選択など)、このチェックボックスをオンにします。

- 監査詳細 ログを有効化 (Enable Extensive Audit Logging)

ログ フォルダ (Log Folder)

QlikView Server がログ ファイルを保存するフォルダを設定できます。フォルダを選択するには、有効な絶対パスをこのテキストボックスに入力するか、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。

既定のパス: C:\ProgramData\QlikTech\QlikViewServer

イベント ログ レベル (Event Log Verbosity)

この設定では、イベント ログ ファイルに記録されるログの詳細レベルを調整します。レベルを設定するには、次のオプションの1つを選択します。

- 低 (Low)
- 中 (Medium)
- 高 (High)



ログレベルを高に設定すると、システムに負荷がかかる場合があります。

ファイルの分割 (Split Files)

この設定では、ログ ファイルが大きくなりすぎないように、ファイルを分割、つまり新しいファイルを作成する頻度を管理します。この設定を使用すると、すべてのログ ファイルがイベント ログ、セッション ログ、パフォーマンス ログ、サーバー側拡張子 (SSE) ログ、および監査ログに分割されます。ファイルを分割するタイミングを設定するには、次のオプションの1つを選択します。

- なし: イベント ログ ファイルを分割しません。必ず同じファイルを使用します。
- 日ごと (Daily): 各イベント ログ ファイルには、1日の情報が含まれます。
- 週ごと (Weekly): 各イベント ログ ファイルには、1週間の情報が含まれます。
- 月ごと (Monthly): 各イベント ログ ファイルには、1ヵ月間の情報が含まれます。
- 年単位: 各イベント ログ ファイルには、1年間の情報が含まれます。



[ファイルの分割] 設定の変更を有効にするには、QlikView Server (QVS) を再起動する必要があります。

セキュリティ

このセキュリティタブでは、認証、許可、通信、クラスター ライセンスの設定を管理できます。

認証

クライアント

QlikView Server (QVS) が Windows 認証を使用するかどうかを選択できます。認証の種類を構成するには、次のオプションの1つを選択します。

- Always Anonymous (常に匿名): 必ず匿名通信を利用します。
- 匿名を許可 (Allow Anonymous): 可能であれば認証を実施します (デフォルト)。

- 匿名を禁止 (Prohibit Anonymous): 必ず認証を実施します。



この設定が Web サーバーの仮想ディレクトリで指定されるセキュリティ設定と矛盾の無いことを確認してください。たとえば、Microsoft IIS が匿名通信を許可しても QlikView Server が許可しない場合、仮想ディレクトリからアプリケーションを開こうとするとクライアントユーザーにエラーメッセージが表示されます。

匿名アカウント (Anonymous Account)

デフォルトでは、QVS はローカルマシン上に匿名アカウントを作成します。クラスターを使用する場合は、クラスターのサーバーがアカウントを共有できるように、匿名アカウントをドメインアカウントに変更する必要があります。この設定は、サーバーが NTFS モードで稼働している場合にのみ適用されます。アカウントのタイプを設定するには、次のオプションの 1 つを選択します。

- ドメイン上 (On Domain)
- ローカルコンピュータ上 (On Local Computer)

許可 (Authorization)

ドキュメントへのアクセスを許可する場合に QVS が使用するモードを設定します。通常既定では、QVS は NTFS 許可 (NTFS Authorization) モードを使用し、Windows オペレーティングシステムが NTFS セキュリティ設定からユーザーおよびグループのファイル (ドキュメント) アクセスを制御します。Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) [DMS Authorization] (DMS 許可) モードは QVS Document Metadata Service (DMS) 機能を使用して、ユーザーおよびグループのファイル (ドキュメント) アクセスを許可します。このモードが使用される場合、QlikView Publisher (QVP) ディレクトリサービスコネクタ (DSC) はグループのメンバーを確認するためにアクセス可能でなくてはなりません。To select which Directory Service Connector to use, select one of the following options:

- NTFS 許可 (NTFS Authorization): Windows オペレーティングシステムがファイルアクセスを制御します。
- DMS 許可 (DMS Authorization): QlikView Server DMS がファイルアクセスを制御します。

その他 (Miscellaneous)

動的データ更新を許可 (Allow Dynamic Data Update)

マクロまたは外部プロセスを有効にしてデータの一部をセミリアルタイムで更新するには、このチェックボックスをオンにします。

この機能を使用すると、現在、ロードされているドキュメントでデータの動的更新が可能になります。これにより、QlikView 管理者はドキュメントのリロードを実行しなくても、単一のソースから限定的な量のデータを QlikView ドキュメントにフィードできるようになります。



アップロードされた情報は RAM でのみ保存されるため、ドキュメントのリロードを行うと、[動的データ更新を許可 (Allow Dynamic Data Update)] 機能を使用して追加または更新されたデータは失われます。



[動的データ更新を許可 (Allow Dynamic Data Update)] 機能は時間がかかる可能性があるため、無効にしておくようお勧めします。



[動的データ更新を許可 (Allow Dynamic Data Update)] 機能は、クラスター化された QlikView Server (QVS) 環境ではサポートされません。

既定のパス: 無効化 (Disabled) (チェックボックスをオフにする)

サーバー上でマクロ実行を許可 (Allow Macro Execution on Server)

QVS 上でマクロの実行を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

この機能は AJAX クライアントに適用されます。これは、AJAX を使用して、QlikView Desktop または QlikView プラグインをクライアント内で使用する時に、QVS でマクロが実行されるためです。

無効にすると、AJAX を使用するマクロはブロックされます。

既定のパス: 有効化 (Enabled) (チェックボックスをオンにする)

サーバー上で危険なマクロ実行を許可 (Allow Unsafe Macro Execution on Server)

QVS 上で危険なマクロの実行を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。



危険なマクロはリロードタスクでは許可されていません。

既定のパス: 無効化 (Disabled) (チェックボックスをオフにする)

名前とパスワードを使用して管理者を許可 (Allow Admin Using Name and Password)

QVP が別の Windows アクティブディレクトリで稼動している場合、QVS サービスへの接続を可能にするには、この設定を有効にする必要があります。また、接続に使用するアカウントは、QlikView Administrators group 別の Windows アクティブディレクトリのサポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。



この設定を QMC から有効にできない場合は、QlikView 設定ファイル、Settings.ini (C:\ProgramData\QlikTech\QlikViewServer\ 内) に追加することができます。[Add] (追加)
AllowAlternateAdmin=1 in the [Settings 7] Section

HTTP トンネルからのサーバープッシュを有効化 (Enable Server Push Over HTTP Tunnels)

HTTP トンネルを介したドキュメントの更新を有効にする場合には、このチェックボックスをオンにします。



[HTTP トンネルからのサーバープッシュを有効化 (Enable Server Push Over HTTP Tunnels)] 機能は、a) QlikView Desktop または QlikView プラグインを使用している場合、および b) 通信がトンネル接続の場合にのみ適用されます。

これを有効にすると、クライアントは帯域幅を消費する更新を利用できるかどうか QVS に確認し続けます。

これを無効にすると、ユーザーは他の操作を積極的に行っていない限り、利用可能な更新について通知されません。

既定のパス: 無効化 (Disabled) (チェックボックスをオフにする)

ネットワークトラフィックを圧縮 (Compress Network Traffic)

クライアントとQlikView Server の間の通信で大容量のパッケージを圧縮するには、このチェックボックスをオンにします。



[ネットワークトラフィックを圧縮 (Compress Network Traffic)] 機能は常に有効にしておく必要があります。

既定のパス: 有効化 (Enabled) (チェックボックスをオンにする)

拡張子を許可 (Allow Extensions)

ドキュメントへの QlikView 拡張子の追加を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

有効にすると、適切な *Extensions* フォルダに含まれている拡張子 (標準またはドキュメント) を利用できます。

無効の場合、QVS は拡張子をチェックせず、使用することはありません。

既定のパス: 有効化 (Enabled) (チェックボックスをオンにする)

クラスター ライセンス (Cluster License)

クラスターの QVS はすべてビルド番号が同じで、同じドキュメントルートを共有しなくてはなりません。QlikView の新しいバージョンにアップグレードする際、すべてのサーバーを停止させてアップグレードし、再起動するのであれば、通常、問題になりません。ただし、すべてのサーバーを同時にアップグレードする場合は、ビルド番号とドキュメントルートを考慮に入れなくてはなりません。すべてのサーバーが QlikView の新しいバージョンにアップグレードされるまで、ある QlikView はアップグレード前のバージョン、別のサーバーは新しい QlikView のバージョンとなりえます。アップグレード中に元のバージョンと新しいバージョンが混在しないようにしてください。どちらのクラスターも、すべての CAL 情報を含む既存のクラスター ライセンスを共有します。

クラスター環境で単一のサーバーを QlikView の新しいバージョンにアップグレードするプロセスは以下のとおりです。

1. クラスターの任意のサーバーで QlikView Management Console (QMC) を開きます。
2. **Fill in the** 代替ビルド番号 (Alternate Build Number) および代替ドキュメント ルート (Alternate Document Root) 項目に入力します (詳細は下記を参照)。入力された値は、クラスターのすべてのサーバーで自動的に反映されます。
3. アップグレードするサーバーを停止します。
4. 停止したサーバーに QlikView の新しいバージョンをインストールします。
5. QlikView の新バージョンがインストールされたサーバーで *Settings.ini* ファイルを開きます (通常は *C:\ProgramData\QlikTech\QlikViewServer* フォルダにあります)。
6. ルートフォルダ ("DocumentDirectory") へのパスを編集し、QMC の代替ドキュメント ルート (Alternate Document Root) 項目と同じフォルダに変更します。
7. アップグレードされたサーバーを起動します。

代替ビルド番号 (Alternate Build Number)

このテキストボックスでは、アップグレードされたクラスターのサーバーにインストールされている QlikView の新バージョンのビルド番号を入力します。

ビルド番号は、QlikView バージョン番号に含まれています。QlikView バージョン番号の形式は、以下のようになっています。

<メジャー リリース バージョン>.<サービス リリース バージョン>.<ビルド番号>.0

- 12: メジャー リリース バージョン (このケースでは、QlikView 12)
- 0: サービス リリース バージョン (このケースでは、QlikView 12.0)
- 11154: ビルド番号
- 0: 常にゼロ

代替ドキュメントルート (Alternate Document Root)

このテキストボックスには、QlikView の新バージョンにアップグレードしたクラスターのサーバーで使用するドキュメントルートを入力します。



QlikView の新バージョンを実行するサブクラスターのドキュメントルートは、QlikView の元のバージョンで実設定しているクラスターのドキュメントルートとは異なっていないなりません (サブクラスターは同じドキュメントルートを設定できません)。

フォルダ アクセス (Folder Access)

この フォルダ アクセス (Folder Access) タブでは、スーパーバイザーおよび QlikView Publisher (QVP) ドキュメント管理者の設定を管理できます。



ドキュメント管理者およびスーパーバイザーは、[システム (System)] タブを利用できません。これは、サポートタスクにアクセスできないことを意味します。

スーパーバイザーおよびドキュメント管理者の管理 (Manage Supervisors and Document Administrators)

サーバー全体 (ルートフォルダおよびマウントされたフォルダを含む、QlikView Server 上のすべてのフォルダ) へのユーザーアクセスを管理できます。

ユーザーアクセスの管理や、スーパーバイザーまたは QlikView Publisher (QVP) ドキュメント管理者の追加や削除を実行する場合、以下の操作を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。

- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。



特別に定義されたフォルダは「フォルダ (Folders)」で設定されます。

デフォルト値:

デフォルト値

[Name] (名前)	パス (Path)
サーバー全体 (Whole server)	N/A
ルート フォルダ (Root Folder)	C:\ProgramData\QlikTech\Documents

アラート

このアラートタブでは、ドキュメントのリロードに失敗した場合に警告されるメール受信者を追加、削除できます。



このタブは *QlikView Server* が起動しているときにのみ利用可能で、*QlikView Publisher (QVP)* 起動時には利用できません。



コマンドラインステートメントによるリロードの実行中には、アラートはトリガーされません。

アドレス

リロードの失敗時に警告を受信するメール受信者を追加するには、AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックし、このテキストボックスにメール アドレスを入力します。

受信者を削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

Login (ログイン)

サーバー ログイン

通常、リモートシステムには、この管理サービスを実行しているサービス アカウントからアクセスできます。たとえば、リモートシステムが別の **Windows Active Directory** にあって実行不可な場合などは、有効なリモート ユーザー用のユーザー名とパスワードを入力することが可能です。リモートサーバーにインストールされているサービスの管理を有効にするには、次のテキストボックスを設定します。

- ユーザー名

Enter the name a of a user that is member of the QlikView Administrators group on the remote server.

- パスワード

Enter the password for the entered ユーザー名.

配布 サービス

<appSettings> 配布 サービスフォルダでは、QlikView Distribution Service (QDS) クラスター、つまり QlikView ドキュメントの作成、配信するコンポーネントを表示、編集できます。QlikView Publisher の設定には、異なるマシンに配置された多数の QDS を組み込むことができます。したがって、これらのコンポーネントも追加、削除することが可能です。



クラスターは 1 つまたは複数のノードを含む場合があります。

関数

追加

QDS エントリを作成するには、右側 パネルの [Add] (追加) アイコン、 をクリックして、新しいテキストボックスに URL を入力します。新しいエントリが、左側 パネルのツリー表示で利用可能になります。

`http://<mycomputer>:4720/qtxs.asmx`

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

[Apply] (適用)

角の丸みには [Apply] (適用) 変更を確認するため。

キャンセル

角の丸みには キャンセル変更を元に戻すため。

表示

QDS の設定を右側パネルで表示または管理するには、ツリー表示の該当するエントリをクリックします。各エントリには、以下のタブが含まれます。

- 概要
- 基本設定
- アラートメール
- 電子メールテンプレート
- 詳細設定
- Login (ログイン)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

概要

[General] 概要 タブには、現在の QlikView Distribution Service (QDS) のアドレスが表示されます。

(基本設定)

この (基本設定) タブでは、ホスト名、ポート番号、ログレベル、Directory Service Connector (DSC)、および QlikView Distribution Service (QDS) のソースフォルダ設定を管理できます。

クラスター

名前

QlikView Distribution Service (QDS) クラスターの名前です。編集するには、このテキストボックスに特定の名前を入力します。

AllowAlternateAdmin=1

QDS ノードを追加するには、右側パネルの AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下の新しいテキストボックスを構成します。

- URL
このテキストボックスに QDS へのパスを入力します。

`http://<mycomputer>:4720/qtxs.asmx`

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

QDS の設定 (Settings for QDS)

Directory Service Connector

ドロップダウンリストの中から、接続する DSC を選択します。

Application Data Folder

QDS のデータが保存されているフォルダへのパスです。QDS がクラスターの一部である場合、このパスを変更する必要があります。インストール後の初期位置は、OS によって異なる可能性があります。

既定のパス: C:\ProgramData\QlikTech\DistributionService.

フォルダを選択するには、有効な絶対パスをこのテキストボックスに入力するか、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。

ログ レベル (Logging Level)

サービスのログ レベル。次のオプションを1つ選択します。

- ログなし (No Logging)
- 標準 ログ (Normal Logging)
- デバッグ ログ (Debug Logging)



デバッグ ログレベルは、システム負荷が高くなるので注意が必要です。

セキュリティ

QDS のセキュアなソケットレイヤー通信を有効化するには、[Use SSL for Distribution Service Communication] (配信サービス通信に SSL を使用) チェックボックスをオンにします。

ソース フォルダ (Source Folders)



QlikView Server (QVS) のユーザー ドキュメント用のルートフォルダと QlikView Distribution Service (QDS) のソース フォルダが、同じパスを利用することはできません。

ドキュメント管理者のタスクトリガーの無効化 (Disable Task Triggers for Document Administrators)

QlikView Publisher (QVP) のすべてのドキュメント管理者が、タスクやトリガーの作成または編集時にトリガーを有効化できないようにするには、このチェックボックスをオンにします。すべてのドキュメント管理者がトリガーを有効化できるようにするには、このチェックボックスをオフにします。

AllowAlternateAdmin=1

[Source Documents] (ソース ドキュメント) とは、配信された [User Documents] (ユーザー ドキュメント)。[Source Folders] (ソース フォルダ) とは、[Source Documents] (ソース ドキュメント) を含むフォルダで、パスやアクセス権限を設定できます。

ソース フォルダを追加するには、右側パネルの AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下の新しいテキストボックスを構成します。

- パス (Path)
フォルダを選択するには、有効な絶対パスをこのテキストボックスに入力するか、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。

インストール後の初期位置は、OS によって異なる可能性があります。

既定のパス: C:\ProgramData\QlikTech\SourceDocuments.

- ユーザーとグループ (Users and Groups)

それぞれ定義されたソース フォルダへのアクセス権を QlikView Publisher (QVP) ドキュメント管理者に与えるには、次のようにユーザーを追加または削除します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)

ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、

[Search] (検索) アイコン  をクリックします。

- デフォルトの範囲 (Default Scope)

ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。

- 検索結果

検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。

- [選択済みユーザー (Selected Users)]

このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。

- 追加 >

ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果 ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。

- 削除

ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。

- << すべてを削除 (<< Delete All)

To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

- アラート メール

設定されたドキュメント管理者にアラートメールを送信するには、チェックボックスをオンにします。

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。



QDS のエントリを停止するには、QlikView Management Console の QDS 停止 ボタンを使用します。これにより、猶予時間の間にタスクの実行を完了させてからサービスを停止できるようになり、QDS はより管理された形でシャットダウンします。参照先 サービス (page 12)

アラート メール

[General] アラート メール タブでは、QlikView Distribution Service (QDS) アラートのメール受信者を追加および削除できます。

アラート メール受信者 (区切り文字: セミコロン)(Alert E-mail Recipients (separated by semicolon))

QDS アラートのメール受信者を追加するには、このテキストボックスにメールアドレスを入力します。

セキュリティグループに QDS アラートも送信できるようになりました。セキュリティグループ名には、SG-QlikAdmins などの SG プレフィックスが必要です。セキュリティグループを QDS アラートの受信者として追加するには、このテキストボックスにセキュリティグループ名を入力します。

受信者を追加する場合は、区切り文字の ; (セミコロン) を使用します。セキュリティグループとメールアドレスを同時に追加できます。受信者を削除するには、このテキストボックスを編集します。

警告で終了したタスクを含めることもできます。これを行うには、**[警告を含める]** を選択します。

電子 メール テンプレート

[General] [電子 メール テンプレート] タブでは、QlikView Publisher (QVP) に送信するメッセージのメールテンプレートを管理できます。メッセージには以下が含まれます。

- 添付ファイル (HTML) (Attachment (HTML))
- 添付ファイル (テキスト) (Attachment (Plain))
- 通知 (HTML) (Notify (HTML))
- 通知 (テキスト) (Notify (Plain))
- アラート (HTML) (Alert (HTML))
- アラート (テキスト) (Alert (Plain))

テンプレートの内容は、html を使用して編集できます。以下は、電子メールテンプレートの編集に使用できる変数のリストです。すべての変数がすべての電子メールテンプレートでサポートされているわけではありません。以下に示すように、変数は角括弧の中になければなりません。

- [DocTitle]: ドキュメントのタイトル
- [DateTime]: 現在の日時
- [Location]: ドキュメントが配信された QlikView Server フォルダ
- [ResourceName]: ドキュメントが配布された QVP リソース
- [TaskName] または [JobName]: タスクの名前
- [Log]: タスクのログ

添付ファイル (HTML) (Attachment (HTML))

このテンプレートは、ドキュメントが配信される場合に使用されます。

件名 (Subject)

既定のパス: QlikView Publisher: [DocTitle] がこのメッセージに追加されます。

本文 (Body)

既定のパス: Your document "[DocTitle]" has been distributed by QlikView Publisher. (ドキュメント「[DocTitle]」は QlikView Publisher から配信されています。) このメッセージにはドキュメントが添付されています。(The document is attached to this message.)

時刻: [DateTime]

添付ファイル (テキスト) (Attachment (Plain))

このテンプレートは、ドキュメントが配信される場合に使用されます。

件名 (Subject)

既定のパス: QlikView Publisher: [DocTitle] がこのメッセージに追加されます。

本文 (Body)

既定のパス: Your document "[DocTitle]" has been distributed by QlikView Publisher. (ドキュメント「[DocTitle]」は QlikView Publisher から配信されています。) このメッセージにはドキュメントが添付されています。(The document is attached to this message.) 時刻: [DateTime]

通知 (HTML) (Notify (HTML))

このテンプレートは、ドキュメントが配信される場合に使用されます。

件名 (Subject)

値: QlikView Publisher の概要



通知メールの件名を編集できます。

本文 (Body)

既定のパス: Your document "[DocTitle]" has been distributed by QlikView Publisher. (ドキュメント「[DocTitle]」は QlikView Publisher から配信されています。)

場所: [Location]
Time: [DateTime]

通知 (テキスト) (Notify (Plain))

このテンプレートは、ドキュメントが配信される場合に使用されます。

件名 (Subject)

値: QlikView Publisher の概要



通知メールの件名を編集できます。

本文 (Body)

既定のパス: Your document "[DocTitle]" has been distributed by QlikView Publisher. (ドキュメント「[DocTitle]」は QlikView Publisher から配信されています。) このメッセージにはドキュメントが添付されています。(The document is attached to this message.)

時刻: [DateTime]

アラート (HTML) (Alert (HTML))

このテンプレートは、「アラートメール (Alert E-mail)」で定義されるメールが送信される場合に使用されます。

件名 (Subject)

既定のパス: QlikView Publisher: タスク「[TaskName]」が失敗しました。

本文 (Body)

既定のパス: タスク「[TaskName]」が失敗しました

アラート (テキスト) (Alert (Plain))

このテンプレートは、「アラート メール (Alert E-mail)」で定義されるメールが送信される場合に使用されます。

件名 (Subject)

既定のパス: QlikView Publisher: タスク「[TaskName]」が失敗しました。

本文 (Body)

既定のパス: タスク「[TaskName]」が失敗しました

(詳細設定)

この (詳細設定) タブでは、QlikView エンジン (QVB.exe) を処理する QlikView Distribution Service (QDS) を管理できます。

QlikView エンジン (QlikView Engine)

配布グループがアクティブでない場合、既定ではこのセクションと次の設定が使用できます。

- *Max number of simultaneous engines for distribution* (配布用の最大同時使用 QlikView エンジン数) - QlikView Batch インスタンスの同時最大数 (既定値は 4)。
- *Max number of simultaneous QlikView engines for administration* (管理用の最大同時使用エンジン数) - QlikView Batch インスタンスの同時最大数 (既定値は 20)。

配布グループがアクティブな場合、このセクションは クラスター ノード設定 (page 141) により置き換えられます。

Cloud Deployment (クラウド展開)

クラウド展開へのドキュメントの最大同時配布数を定義します。

同時クラウド配布の最大数

クラウド展開へのドキュメントの最大同時配布数。既定値は 5。

クラウドへのドキュメント配布数が、*同時クラウド配布の最大数* で定義された値を超えると、クラウド配布タスクは、キューに登録済みステートになります。他の配布、ドキュメントが含まれないクラウド配布は、通常どおり実行されます。

セクション アクセス

ドキュメントでセクションアクセスが定義されている場合、タスクの進行を妨げないよう QDS に特定のエントリーを設定する必要がある場合があります。初期設定では、QDS はサービスを実行している Windows ユーザーに関連するセクションアクセスを適用します。この設定は、それぞれのタスクで上書きすることが可能です。初期設定の上書きが必要な場合、以下のテキストボックスにログイン情報を設定することで定義できます。

ユーザー名

ユーザー名を構成するには、任意の認証情報をこのテキストボックスに入力します。

パスワード

パスワードを構成するには、任意の認証情報をこのテキストボックスに入力します。

ワークオーダー (Work Order)

指定の QDS にワークオーダーを送信するには、[Send Work Order] (ワークオーダーを送信) ボタンをクリックします。

事前ロードソースドキュメント管理者

ドキュメント管理者として割り当てられたユーザーとユーザーグループのために、キャッシュを生成することを許可します。キャッシュの生成は、スケジュール設定または手動でトリガーできます。

スケジュール設定:

- *Never* (実行なし):
- *Daily at* (毎日)、形式 *HH:MM* で定義した特定の時刻。



毎日の実行が完了した後時刻を変更すると、変更は翌日以降に適用されます。

- *Every # hours* (#時間ごと)

[Load Doc Admins] ボタンをクリックして、キャッシュを手動で生成します。

ドキュメント管理者として少なくとも1つの AD グループを追加している場合、**[Load Doc Admins]** ボタンをクリックするとキャッシュは保持され、ディスクの次のパスに保存されます:
`C:\ProgramData\QlikTech\ManagementService\DocAdmins.db`。

クラスター ノード設定

配布グループがアクティブ化されると、このセクションには QlikView Distribution Service (QDS) の URL と、*DistributionGroupDefinition.xml* ファイルで定義された構成のリストが表示されます。

Publisher グループの各 QDS について次の構成を行います。

- *Max Simultaneous Engines (For Dist)* (最大同時使用エンジン数 (配布用)) - QlikView Batch インスタンスの同時最大数 (既定値は 4)。
- *Max Simultaneous Engines (For Admin)* (最大同時使用エンジン数 (管理用)) - QlikView Batch インスタンスの同時最大数 (既定値は 20)。
- *Number of Dedicated Engines* (専用エンジン数) - 専用の QlikView Batch インスタンス数 (既定値は 0)。
- *Run Dedicated Tasks Alone* (専用タスクの単独実行) - 専用タスクを単独で実行するか否か (既定値は false)。
- *Dedicated Task Grace Time* (専用タスクの猶予時間) - *Run Dedicated Tasks Alone* (専用タスクの単独実行) が Yes に設定されている場合、次の専用タスクが始まるまでの待ち時間として設定されている時間枠に入ると、QDS 内で通常タスクを起動できないこととなります (既定値は 0)。
- *Distribution Groups* (配布グループ) - 利用できる配布グループのリスト

配布グループ

配布グループがアクティブ化されると、このセクションには QDS の URL と、この QDS ノードが属しているグループの一覧が表示されます。

Login (ログイン)

サーバー ログイン

通常、リモートシステムには、この管理 サービスを実行しているサービス アカウントからアクセスできます。たとえば、リモートシステムが別の **Windows Active Directory** にあつて実行不可な場合などは、有効なリモート ユーザー用のユーザー名とパスワードを入力することが可能です。リモートサーバーにインストールされているサービスの管理を有効にするには、次のテキストボックスを設定します。

- ユーザー名

Enter the name a of a user that is member of the QlikView Administrators group on the remote server.

- パスワード

Enter the password for the entered ユーザー名.

ディレクトリサービス コネクタ (Directory Service Connector)

<appSettings> ディレクトリ サービス コネクタ (Directory Service Connector) (DSC) フォルダー、各ディレクトリサービスとの通信を担当する関数 ディレクトリ サービスQlikView 環境のすべてのユーザーとグループを追跡し、管理できます。

関数

追加

QlikView DSC クラスター エントリを作成するには、右側パネルの [Add] (追加) アイコン、 をクリックして、新しいテキストボックスに URL を入力します。新しいエントリが、左側パネルのツリー表示で利用可能になります。

`http://<mycomputer>:4730/qtds.asmx`



クラスターは 1 つまたは複数のノードを含む場合があります。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

[Apply] (適用)

角の丸みには [Apply] (適用) 変更を確認するため。

キャンセル

角の丸みには キャンセル変更を元に戻すため。

表示

DSC の設定を右側パネルで表示または管理するには、ツリー表示の該当するエントリをクリックします。各エントリには、以下のタブが含まれます。

- 概要
- 基本設定
- Login (ログイン)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

ディレクトリサービスプロバイダ (DSP) の設定を右側パネルで表示または管理するには、ツリー表示の該当するエントリをクリックします。

概要

概要 タブには、現在の QlikView Directory Services Connector (DSC) のアドレスが表示されます。

(基本設定)

この基本設定タブでは、ホスト名、ポート番号、ログレベル、QlikView Directory Service Connector (DSC) のクラスタリング設定を管理できます。

クラスター

名前

DSC クラスターの名前。編集するには、このテキストボックスに特定の名前を入力します。

AllowAlternateAdmin=1

DSC クラスター ノードエントリを追加するには、右側パネルの AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下の新しいテキストボックスを構成します。

- URL
このテキストボックスに DSC へのパスを入力します。
デフォルト値: `http://<mycomputer>:4730/qtds.asmx`

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

ログレベル (Logging Level)

サービスのログレベル。次のオプションを1つ選択します。

- ログなし (No Logging)
- 標準ログ (Normal Logging)
- デバッグ ログ (Debug Logging)



デバッグ ログレベルは、システム負荷が高くなるので注意が必要です。

Login (ログイン)

サーバー ログイン

通常、リモートシステムには、この管理サービスを実行しているサービス アカウントからアクセスできます。たとえば、リモートシステムが別の **Windows Active Directory** にあって実行不可な場合などは、有効なリモートユーザー用のユーザー名とパスワードを入力することが可能です。リモートサーバーにインストールされているサービスの管理を有効にするには、次のテキストボックスを設定します。

- ユーザー名
Enter the name a of a user that is member of the QlikView Administrators group on the remote server.
- パスワード
Enter the password for the entered ユーザー名.

ディレクトリサービスプロバイダ (Directory Service Provider)

<appSettings> ディレクトリ サービス プロバイダ (Directory Service Provider) (DSP) フォルダには、以下の DSP の構成が含まれています。

- アクティブディレクトリ
- カスタム ディレクトリ
- 構成可能な ODBC
- 構成可能な LDAP
- ローカル ディレクトリ
- Windows NT

詳細を確認するには、各フォルダのラベルをクリックしてください。

アクティブディレクトリ

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) アクティブ ディレクトリサービスプロバイダは、基底の Windows オペレーティング システムを通じてアクティブディレクトリに接続できます。このフォルダに含まれるのは、基本設定 タブのみです。

Directory Service

AllowAlternateAdmin=1

Windows アクティブディレクトリエントリを追加するには、右側パネルの AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- パス (Path)

ディレクトリサービスへのパスを構成するには、[Get Default] (既定値を取得) アイコン  をクリックして、既定のパスを使用するか、またはこのテキストボックスに有効なパスを入力します。

既定のパス: LDAP://qliktech.com.

- ユーザー名
ディレクトリサービスへのアクセスに使用するユーザー名を構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。
- パスワード
ディレクトリサービスへのアクセスに使用するパスワードを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。
- 設定
ディレクトリサービスプロバイダ(DSP)設定を構成するには、**open the dialog by clicking on the 編集アイコン ** をクリックして開き、次のテキストボックスに適切な値を入力します。
 - キャッシュ有効時間 (分) (Cache Expiry in Minutes)
ディレクトリサービスへのクエリがキャッシュされる時間を設定します。
既定のパス: 60(分)。
 - サービス タイムアウト (秒) (Service Timeout in Seconds)
ディレクトリサービスへの接続がタイムアウトする時間を設定します。
既定のパス: 30(秒)。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除]アイコン  をクリックします。

カスタム ディレクトリ

カスタム ディレクトリサービスプロバイダは、ユーザーまたはグループの外部のシステムには依存していません。すべてのデータは、QlikView Publisher Repository (QVPR) 内に保存されます。その他のディレクトリサービスプロバイダ (Directory Service Providers, DSP) とは異なり、カスタム ディレクトリは QlikView AccessPoint による認証をサポートするため、ユーザーおよびパスワードが必要です。デフォルトでは、カスタム ディレクトリはインストールされていません。カスタム ユーザーを使用するには、まずカスタム ユーザーの DSP を追加する必要があります。[カスタム ディレクトリ (Custom Directory)] フォルダには、次のタブが含まれています。

- [基本設定 (General)]: カスタム ディレクトリサービス設定を管理します。
- [ユーザー (Users)]: ユーザーおよびグループの設定を管理します。

カスタム ディレクトリのユーザーとグループの移行

必要に応じて、カスタム ディレクトリのユーザーとグループをあるマシンから別のマシンに移行できます。

このセクションでは、2つのマシンを次のように参照します。

- マシン1: 移行するカスタム ディレクトリユーザーとグループが含まれるマシン
- マシン2: カスタム ディレクトリのユーザーとグループの移行先のマシン

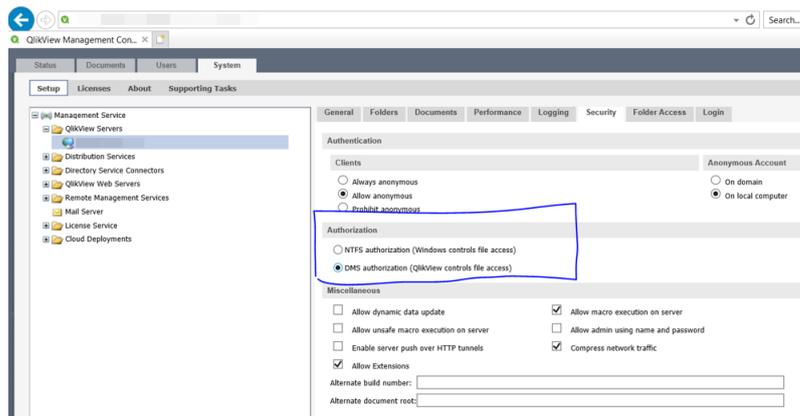
マシン1の準備

次の手順は、移行するカスタムディレクトリユーザーおよびグループが含まれるマシン上で実行する必要があります。

次の手順を実行します。

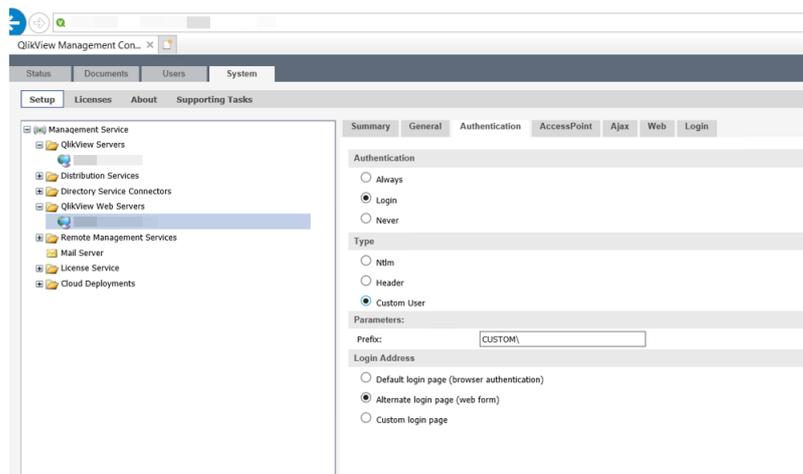
1. QlikView 管理 コンソールで、[システム] > [設定] を選択します。
2. QlikView サーバーを展開して選択します。
3. 右側のペインで、[セキュリティ] タブを選択します。
4. **DMS 許可** をクリックし、**適用** をクリックします。

QlikView 管理 コンソールにある DMS 許可の設定



5. QlikView 管理 コンソールで、[システム] > [設定] を選択します。
6. QlikView Web サーバーを展開して選択します。
7. 右側のパネルで、[認証] タブを選択します。
8. [認証] セクションで、**ログイン**を選択します。
9. [ログイン アドレス] セクションでは、設定を**代替ログイン ページ**のままにします。このページは、Windows ユーザーと非 Windows ユーザーの両方が資格情報を提供するために使用できます。
10. カスタム ユーザーは NTLM プロトコルを使用して認証できないため、[タイプ] セクションで認証タイプを**カスタム ユーザー**に変更します。[適用] をクリックします。

QlikView Web Server の認証設定

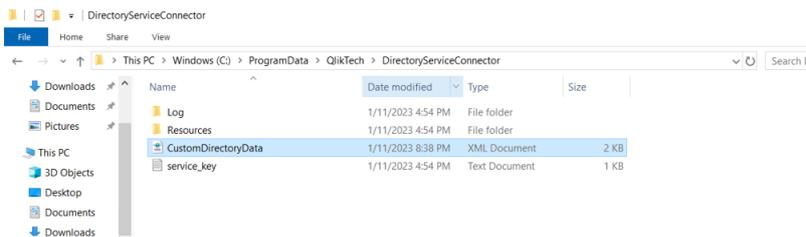


11. QlikView 管理 コンソール で、[システム] > [設定] > [ディレクトリサービス コネクタ] を選択し、ツリーを展開します。
12. カスタム ディレクトリを選択します。
13. 右側のペインには、[基本設定] という名前のタブが1つだけあります。  をクリックします。
14. アイコンをクリックしてカスタム ディレクトリのパスを設定します。パスは規定のカスタムに自動的に設定されます。
15. [適用] をクリックします。
[ユーザー] という名前の2番目のタブが表示されます。
16. [ユーザー] タブを選択し、クリックして新しいユーザーを追加します。
17. ユーザー名、フルネーム、パスワード、電子メール アドレスを入力します。Bob と Freddy をカスタム ユーザーとして作成します。任意のパスワードを選択します。
18. ユーザーを有効にして、適用 をクリックします。
19. また、Europe という名前のカスタム ユーザーグループを作成します。
20. [適用] をクリックします。
21. Bob と Freddy をカスタム グループ Europe に追加するには、[カスタム ユーザーグループ] セクションをクリックします。表示されるダイアログで、[ユーザーとグループの検索] フィールドに * を追加し、虫眼鏡アイコンをクリックします。[デフォルトの範囲] ドロップダウンにはカスタム ディレクトリサービスのみが含まれることに注意してください。
22. Bob と Freddy を [選択済みユーザー] に追加し、OK をクリックしてダイアログを閉じます。
23. [適用] をクリックします。

2 台のマシン間のファイル転送

次に、CustomDirectoryData.xml ファイルをマシン1 からマシン2 にコピーする必要があります。この後、マシン2 でサービスを再起動します。

Windows ファイル エクスプローラーでの CustomDirectoryData.xml ファイルの場所



マシン 2 の準備

次の手順は、移行されたカスタム ディレクトリを受け取るマシン上で実行する必要があります。

次の手順を実行します。

1. QlikView 管理 コンソール で、[システム] > [設定] を選択します。
2. QlikView サーバーを展開して選択します。
3. 右側のペインで、セキュリティタブを選択します。
4. **DMS 許可** をクリックし、**適用** をクリックします。
5. QlikView 管理 コンソール で、[システム] > [設定] を選択します。
6. 展開して選択します。QlikServer1 上の QlikView Web Server。
7. 右側のパネルで、[認証] タブを選択します。
8. [認証] セクションで、**ログイン** を選択します。
9. [ログインアドレス] セクションでは、設定を **代替ログインページ** のままにします。このページは、Windows ユーザーと非 Windows ユーザーの両方が資格情報を提供するために使用できます。
10. カスタム ユーザーは NTLM プロトコルを使用して認証できないため、[タイプ] セクションで認証タイプを **カスタム ユーザー** に変更します。[適用] をクリックします。
11. QlikView 管理 コンソール で、[システム] > [設定] > [ディレクトリサービス コネクタ] を選択し、ツリーを展開します。
12. **カスタム ディレクトリ** を選択します。
13. 右側のペインには、[基本設定] という名前のタブが 1 つだけあります。  をクリックします。
14. アイコンをクリックしてカスタム ディレクトリのパスを設定します。パスは規定のカスタムに自動的に設定されます。
15. [適用] をクリックします。
16. QlikView 管理 コンソール で、[ユーザー] セクションを開きます。
移行されたユーザーとグループが表示されるようになります。

(基本設定)

この基本設定タブでは、カスタム ディレクトリサービス設定を管理できます。

6.2 Directory Service

AllowAlternateAdmin=1

カスタム ディレクトリエントリを追加するには、パネル内右側の AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- パス (Path)

ディレクトリサービスへのパスを構成するには、[Get Default] (既定値を取得) アイコン  をクリックして、既定のパスを使用するか、またはこのテキストボックスに有効なパスを入力します。

 このテキストボックスを空にすることはできません。

既定のパス: カスタム.

- ユーザー名

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するユーザー名を構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- パスワード

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するパスワードを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- ポート

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するポートを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

既定のパス: 4735.

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

Users

この Users タブでは、カスタム ディレクトリのユーザーおよびグループの設定を管理できます。ユーザーやグループをカスタマイズして作成することができ、これには カスタム ユーザー (Custom Users) および カスタム ユーザー グループ (Custom User Groups) の機能をそれぞれ使用します。カスタマイズ機能についての詳細は、次のファイルに記載されています。

`C:\ProgramData\QlikTech\DirectoryServiceConnector\CustomDataDirectory.xml`

6.3 関数

カスタム ユーザー (Custom Users)

ここで Custom User パネル内右側にある AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- ユーザー名
ディレクトリサービスへのアクセスに使用するユーザー名を構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。
- フルネーム (Full Name)
カスタム ユーザーのフルネームを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。
- パスワード
ディレクトリサービスへのアクセスに使用するパスワードを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。
- 電子メール (E-mail)
カスタム ユーザーのメール アドレスを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。
- グループ (Groups)
カスタム ユーザーが属するグループを構成するには、次の操作を実行します。

グループを管理するには、グループ管理ダイアログ アイコン  をクリックします。

- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- グループの検索 (Search for Groups)
グループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- 追加 >
グループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 選択済みグループ (Selected Groups)
このボックスには選択済みのグループが表示されます。
- 削除

グループの選択を解除するには、選択済みグループ (Selected Groups) ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。

- << すべてを削除 (<< Delete All)

To deselect 実行された時にグループを選択済みグループ (Selected Groups) ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

- 有効化 (Enabled)

カスタム ユーザーを有効化するには、このチェックボックスをオンにします。カスタム ユーザーを無効化するには、このチェックボックスをオフにします。



カスタム ユーザー設定を変更すると、「変更内容を保存するにはパスワードをリセットする必要があります (The password must be reset in order to save the changes.)」というメッセージが表示されるので、次の項目に有効なパスワードを入力してください。パスワード項目に設定された書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

カスタム ユーザー グループ (Custom User Groups)

現在のセクションアクセステーブルに [カスタム ユーザー グループ (Custom User Groups) パネル内右側にある AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- グループ名

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するカスタム ユーザーグループの名前を構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- Users

カスタム ユーザーグループに属するユーザーおよびグループを構成するには、次の操作を実行します。

ユーザーを管理するには、検索フィールドで、ダイアログ アイコン  をクリックします。

- デフォルトの範囲 (Default Scope)

ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。

- グループの検索 (Search for Groups)

グループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。

- 検索結果

検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されません。

- 追加 >

グループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。

- 選択済みグループ (Selected Groups)
このボックスには選択済みのグループが表示されます。
- 削除
グループの選択を解除するには、選択済みグループ (Selected Groups) ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にグループを選択済みグループ (Selected Groups) ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除]アイコン  をクリックします。

構成可能な ODBC

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) 構成可能な ODBCディレクトリサービスプロバイダは、ODBCデータベースに接続できます。このフォルダに含まれるのは、基本設定 タブのみです。

ODBC データベースには、2 つのテーブル (ビュー) が必要です。1 つはエンティティ、もう1 つはグループです。Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) エンティティテーブル名 (下記で設定されているエンティティ テーブルデータベース名によって定義される名前) には、下記の項目が含まれている必要があります。

- entityid(一意の識別子、プライマリーキーに適切)
- name(文字列) (この項目の名前は、以下のエンティティ名設定によって定義されます)
- 説明(文字列)
- email(文字列)

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) テーブル(名前は以下のグループ テーブル データベース名の設定で定義されています) には、一意の識別子を作成する次の項目が含まれている必要があります。

- groupid
- memberid



Directory Service Connectors (DSC) で構成可能な ODBC を使用する場合は、ヘッダー認証を使用することをお勧めします。DSC で構成可能な ODBC からプルされたグループを使用した認証は、AccessPoint の NTLM 認証と組み合わせた場合は機能しません。

例

グループ テーブル

グループプロパティ

Groupid	Memberid
1001	101
1001	102
1001	103
1001	104
1002	104
1002	105

エンティティテーブル

エンティティプロパティ

Entityid	名前	説明	メール
101	sandra.franklin	Sandra Franklin	sandra.franklin@example.com
102	michael.milliken	Michael Milliken	michael.milliken@example.com
103	lucille.pender	Lucille Pender	lucille.pender@example.com
104	dustin.plunkett	Dustin Plunkett	dustin.plunkett@example.com
105	benjamin.mitchell	Benjamin Mitchell	benjamin.mitchell@example.com
1001	users	Users	-
1002	管理者	管理者	-

このサンプルでは、Benjamin Mitchell 以外の人は皆、Users という名前のグループのメンバーで、Dustin Plunkett と Benjamin のみが、Administrators というグループのメンバーです。

Directory Service



サーバー環境内では、*Microsoft Access Database* ドライバーに制限があります。問題を避けるために、*SQL Server Express Edition* を使用してください。

[Microsoft Access Database Engine 2016 再頒布可能 コンポーネント](#)

AllowAlternateAdmin=1

構成可能な ODBC エントリを追加するには、パネル内右側の AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- パス (Path)

ディレクトリサービスへのパスを構成するには、[Get Default] (既定値を取得) アイコン  をクリックして、既定のパスを使用するか、またはこのテキストボックスに有効なパスを入力します。

既定のパス: ODBC://localhost.

- ユーザー名

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するユーザー名を構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- パスワード

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するパスワードを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- 設定

ディレクトリサービスプロバイダ (DSP) 設定を構成するには、, open the dialog by clicking on the 編集アイコン  をクリックして開き、次のテキストボックスに適切な値を入力します。

- サービス タイムアウト (秒) (Service Timeout in Seconds)

ディレクトリサービスへの接続がタイムアウトする時間を設定します。

既定のパス: 30(秒)。

- ディレクトリ ラベル

接続先のディレクトリサービスのラベルを設定します。

既定のパス: DB DSP.

- エンティティ名

接続先のエンティティの名前を設定します。

既定のパス: entity_name.

- エンティティ テーブル データベース名

接続先のエンティティテーブルの名前を設定します。

既定のパス: entity.

- エンティティ テーブル データベース名

接続するグループという名前のテーブルの名前を設定します。

既定のパス: groups.

- データ ソース名

ODBC ドライバーの名前を設定します。

既定のパス: MySQL ODBC 5.1 Driver.

- 接続データベース名

接続先の ODBC データベースの名前を設定します。

既定のパス: dbname.

○ データベース バックエンド

データベースへの接続のタイプを設定します。

-  **ODBC:** この接続タイプは、システムに [.NET OdbcConnection クラス](#) を使用させます。
- **SQL:** この接続タイプは、システムに [.NET SqlConnection クラス](#) を使用させます。カスタム接続文字列を接続文字列をオーバーライド項目の変数に割り当てられる値です。
- **Oracle:** この接続タイプは、システムに [.NET OracleConnection クラス](#) を使用させます。カスタム接続文字列を接続文字列をオーバーライド項目の変数に割り当てられる値です。

既定のパス: ODBC.

○ 接続文字列をオーバーライド

この項目に文字列を入力する場合、入力された値が使用されますが、接続データベース名およびデータソース名は無視されます。変数 {user} および {pwd} を接続文字列で使用できます。変数は、ユーザー名およびパスワードのテキストボックスの内容によって自動的に置換され、互いに関係なく使用されます。

```
Server=MyServer;Database=MyDB;User Id={user};Password={pwd};
```

この項目に文字列を入力しない場合、[データベース バックエンド] ドロップダウンは無視され、データベースへの接続が ODBC.

既定のパス: Driver={Microsoft Access Driver (*.mdb, *.accdb)};Dbq=C:\AccessTest.accdb;.

○ キャッシュ有効時間 (分) (Cache Expiry in Minutes)

ディレクトリサービスへのクエリがキャッシュされる時間を設定します。

既定のパス: 15(分)。



赤いアスタリスクの付いた値は入力必須で、入力しないとエラーメッセージが表示されます。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

構成可能な LDAP

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) 構成可能な LDAPディレクトリサービスプロバイダは、汎用のライトウェイトディレクトリアクセスプロトコル (LDAP) に接続できます。このフォルダに含まれるのは、基本設定タブのみです。

Directory Service

AllowAlternateAdmin=1

構成可能な LDAP エントリを追加するには、右側パネルの AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- パス (Path)

ディレクトリサービスへのパスを構成するには、[Get Default] (既定値を取得) アイコン  をクリックして、既定のパスを使用するか、またはこのテキストボックスに有効なパスを入力します。

既定のパス: LDAP://localhost.

- ユーザー名

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するユーザー名を構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- パスワード

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するパスワードを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- 設定

ディレクトリサービスプロバイダ (DSP) 設定を構成するには、open the dialog by clicking on the 編集アイコン  をクリックして開き、次のテキストボックスに適切な値を入力します。

- アカウント名プロパティ名

LDAP プロパティの名前を対応するアカウント名にマップします。

既定のパス: sAMAccountName.

- キャッシュ有効時間 (分) (Cache Expiry in Minutes)

ディレクトリサービスへのクエリがキャッシュされる時間を設定します。

既定のパス: 60(分)。

- ディレクトリ ラベル

ディレクトリサービス インスタンスの固有名を設定します。

既定のパス: DSP1.

- ディスプレイ名プロパティ名

LDAP プロパティの名前を対応するディスプレイ名にマップします。

既定のパス: name.

- 分類名プロパティ名

LDAP プロパティの名前を対応する分類名にマップします。

既定のパス: distinguishedName.

- メール プロパティ名

LDAP プロパティの名前を対応するメール アドレスにマップします。

既定のパス: mail.

- グループ メンバー プロパティ名

LDAP プロパティの名前を対応するグループ メンバーにマップします。

- グループ オブジェクト クラス値

LDAP グループ オブジェクトのクラス値を設定します。

既定のパス: group.

- IP プロパティ名

LDAP プロパティの名前を対応する ID にマップします。

既定のパス: sAMAccountName.

- LDAP フィルタ

ユーザー オブジェクトの検索時に使用する LDAP フィルタを設定します。

既定のパス: (&(! (objectclass=computer)) (objectGUID=*)).

- サービス タイムアウト (秒) (Service Timeout in Seconds)

ディレクトリサービスへの接続がタイムアウトする時間を設定します。

既定のパス: 30(秒)。

- プロパティ名のユーザー メンバー

LDAP プロパティの名前を対応するユーザー メンバーにマップします。

既定のパス: memberof.

- ユーザー オブジェクト クラス値

LDAP ユーザー オブジェクトのクラス値を設定します。

既定のパス: user.



赤いアスタリスクの付いた値は入力必須で、入力しないとエラーメッセージが表示されます。

[削除]

リストから設定済みのエントリーを完全に削除するには、[削除]アイコン  をクリックします。

ローカル ディレクトリ

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) ローカル ディレクトリサービスプロバイダは、選択したマシン上のローカル ユーザーに接続できます。このフォルダに含まれるのは、基本設定 タブのみです。

Directory Service

AllowAlternateAdmin=1

ローカル ディレクトリ エントリを追加するには、右側 パネルの AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- パス (Path)

ディレクトリサービスへのパスを構成するには、[Get Default] (既定値を取得) アイコン  をクリックして、既定のパスを使用するか、またはこのテキストボックスに有効なパスを入力します。

既定のパス: local://<mycomputer>.

- ユーザー名

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するユーザー名を構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- パスワード

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するパスワードを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- 設定

ディレクトリサービスプロバイダ (DSP) 設定を構成するには、open the dialog by clicking on the 編集 アイコン  をクリックして開き、次のテキストボックスに適切な値を入力します。

- キャッシュ有効時間 (分) (Cache Expiry in Minutes)

ディレクトリサービスへのクエリがキャッシュされる時間を設定します。

既定のパス: 15(分)。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

Windows NT

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) Windows NTディレクトリサービスプロバイダは、基底の Windows オペレーティング システムから Windows NT ディレクトリに接続できます。このフォルダに含まれるのは、基本設定 タブのみです。

Directory Service

AllowAlternateAdmin=1

Windows NT エントリを追加するには、パネル内右側の AllowAlternateAdmin=1 アイコン  をクリックして、以下のテキストボックスを構成します。

- パス (Path)

ディレクトリサービスへのパスを構成するには、[Get Default] (既定値を取得) アイコン  をクリックして、既定のパスを使用するか、またはこのテキストボックスに有効なパスを入力します。

既定のパス: WinNT://AKQUINET.

- ユーザー名

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するユーザー名を構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- パスワード

ディレクトリサービスへのアクセスに使用するパスワードを構成するには、このテキストボックスに任意の認証情報を入力します。

- 設定

ディレクトリサービスプロバイダ (DSP) 設定を構成するには、, open the dialog by clicking on the 編集アイコン  をクリックして開き、次のテキストボックスに適切な値を入力します。

- キャッシュ有効時間 (分) (Cache Expiry in Minutes)

ディレクトリサービスへのクエリがキャッシュされる時間を設定します。

既定のパス: 15(分)。



赤いアスタリスクの付いた値は入力必須で、入力しないとエラーメッセージが表示されます。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

QlikView Web Server

<appSettings> QlikView Web Server フォルダでは、QlikView Web Server (QVW) の設定を表示、編集します。QlikView Publisher (QVP) をインストールする際、異なるマシンに配置された多数の QDS を組み込むことができます。したがって、これらのコンポーネントも追加、削除することが可能です。QVW は次のタスクを処理します。

- QlikView AccessPoint のホスト
- QlikView Server (QVS) のロード バランス
- AJAX クライアントのオープンセッションの追跡

- 認証の処理 (オプション)
- 一般的なウェブコンテンツの処理 (オプション)

QVWS は Windows サービスとしてインストールするか、Microsoft IIS の下で実行することができます。後者の場合、ウェブコンテンツのホストは行いません。



QVWS の代わりに Microsoft IIS ウェブサーバーを使用するには、QVWS リソースは実行中 (Running) ステータスのままであり、Windows サービス アプレットの下で QVWS サービスは実行またはインストールされていないことが条件となります。

関数

追加

QlikView Web Server エントリを作成するには、右側パネルの [Add] (追加) アイコン、 をクリックして、新しいテキストボックスに URL を入力します。新しいエントリが、左側パネルのツリー表示で利用可能になります。

既定のパス: `http://<mycomputer>:4750/qvws.asmx`.

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

[Apply] (適用)

角の丸みには [Apply] (適用) 変更を確認するため。

キャンセル

角の丸みには キャンセル変更を元に戻すため。

表示

QlikView Web Server の設定を表示または構成するには、右側パネルでツリー構造の該当するエントリをクリックします。各エントリには、以下のタブが含まれます。

- 概要
- 基本設定
- 認証
- AccessPoint
- AJAX
- Web
- Login (ログイン)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

概要

[General] 概要 タブには、現在の QlikView Web Server (QVWS) のアドレスが表示されます。

(基本設定)

この基本設定 タブでは、現在の QlikView Web Server (QVWS) のホスト名、ポート番号、ログレベル、通信、ディレクトリサービス コネクタといった設定を管理できます。

場所

名前

QVWS の名前。編集するには、このテキストボックスに特定の名前を入力します。

URL

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) ホスト名 (Host Name) とポート(サービスが動作中であるサーバーのもの)。サーバー アドレスを編集するには、このテキストボックスに有効な URL を入力します。

既定のパス: `http://<mycomputer>:4750/qvws.asmx`。

ログ レベル (Logging Level)

サービスのログ レベル。次のオプションを1つ選択します。

- 低 (Low)
- 中 (Medium)
- 高 (High)



ログレベルを高に設定すると、システムに負荷がかかる場合があります。

利用ログの有効化 (Enable Utilization Logging)

このログには、QlikView Server の利用状況が記録されます。その目的は、QlikView AccessPoint のロード バランス機能を監視することにあります。有効にするには、このチェックボックスをオンにします。無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

通信

ポート

QVWS のポート番号を構成するには、このテキストボックスに有効な番号を入力します。

HTTPS を使用 (Use HTTPS)

すべての通信を強制的にセキュア HTTP, HTTPSを経由させるには、このチェックボックスをオンにします (既定)。すべての通信に、通常の HTTPを経由させるには、このチェックボックスをオフにします。

有効になっている場合は、証明書を発行し、証明書をマシンにバインドする必要もあります。次の記事を参照してください。🔗 [QlikView AccessPoint \(WebServer および IIS\) を使用して HTTPS / SSL をセットアップする方法](#)

HSTS を使用する

また、すべてのコミュニケーションが HSTS を通過するよう設定することもできます。

QlikView Access Point と QMC 使用するために設定 HSTS を使用するよう設定するには次の記事を参照してください。🔗 [QlikView HSTS \(HTTP Strict-Transport-Security 応答ヘッダー\)](#)。

ディレクトリサービス コネクタ (Directory Service Connector)

QlikView Publisher (QVP) Directory Service Connectors (DSC) は、グループ処理のために、つまり QlikView 環境内のすべてのユーザーおよびグループを追跡するために使用されます。

名前

使用する DSC を構成するには、ドロップダウン リストからオプションを1つを選択します。

認証

[General] 認証 タブでは、現在の QlikView Web Server (QVWS) のユーザーに、QlikView AccessPoint に対するアクセスを許可する方法を管理できます。

認証

ユーザーのアクセス方法を設定するには、次のオプションの中から1つを選択します。

- 常に表示: ユーザーは、QlikView AccessPoint にログインする必要があります。
- Login (ログイン): ユーザーは、ログインの有無にかかわらず、QlikView AccessPoint にアクセスできます。
- なし: QlikView AccessPoint は匿名ユーザーのみを受容します。



[User Type] (ユーザーの種類) なしを選択された場合、[種類 (Type)] および [ログインアドレス (Login Address)] の設定は、非表示になります。

[Type] (種類)

ユーザー認証の種類を構成するには、次のオプションの中から1つを選択します。

- NTLM: Microsoft 認証プロトコルが使用されます。
- ヘッダー: パラメータ (Parameters) 次の下で指定した http ヘッダーが使用されます。
 - ヘッダー名 (Header Name)

カスタマイズされたログインシステムを使用する場合、http ヘッダーを指定して、QlikView AccessPoint のログインプロセスを構成する必要があります。ヘッダー名を構成するには、このテキストボックスに特定の値を入力します。

既定のパス: QVUSERでのみ有効です。
 - プレフィックス (Prefix)

ヘッダーのプレフィックスを構成するには、このテキストボックスに特定の値を入力します。

既定のパス: CUSTOM\でのみ有効です。
- カスタム ユーザー: QlikView AccessPoint は、カスタム ユーザー (カスタム ディレクトリ DSP で定義) のみを受容します。パラメータ (Parameters) の下部で指定したプレフィックスが使用されます。
 - プレフィックス (Prefix)

カスタム ユーザー Directory Service Provider のプレフィックスを構成するには、このテキストボッ

クスに特定の値を入力します。

既定のパス: CUSTOM\でのみ有効です。

ログイン アドレス (Login Address)

カスタム ユーザーを使用する場合、ログイン ページのアドレスを指定する必要があります。次のオプションを1つ選択します。

- デフォルトのログイン ページ (ブラウザ認証): Web ブラウザのログインプロンプトが使用されます。
- 代替 ログイン ページ (ウェブ フォーム): ログインは、Web フォームを使用して実行されます。
- カスタム ログイン ページ: ログインは、カスタマイズされたログイン ページを使用して実行されます。ログイン ページを、このテキストボックスに入力する必要があります。



テキストボックスにはサンプル文字列が含まれます。文字列は、[カスタム ログイン ページ] オプションに対して編集すると、有効化されます。

AccessPoint

[General] AccessPoint タブで QlikView AccessPoint 設定にアクセスするには、次のタブをクリックします。

- AccessPoint 設定
- (サーバー接続)

さらに、AccessPoint の一部の要素をカスタマイズできます。詳細については、「*AccessPoint のカスタマイズ (page 165)*」を参照してください。

AccessPoint 設定

この AccessPoint 設定 タブでは、以下の QlikView AccessPoint 設定を管理します。

- カスタム システム メッセージ (Custom System Message)
- パス (Path)
- ドキュメントを開くオプション (Open Document Options)
- デフォルトの優先 クライアント (Default Preferred Client)
- クライアントパス (Client Paths)
- プラグインダウンロード (Plugin Download)

カスタム システム メッセージ (Custom System Message)

QlikView AccessPoint に表示するカスタム システム メッセージを設定するには、このテキストボックスに任意のステートメントを入力します。

パス (Path)

QlikView AccessPoint へのパスを設定するには、このテキストボックスに有効なパスを入力します。

既定のパス: /QvAJAXZfc/AccessPoint.aspx.

ドキュメントを開くオプション (Open Document Options)

ドキュメントを開くウィンドウを設定するには、次のオプションのいずれかを選択します。

- 新しいウィンドウを再利用 (Reuse New Window)
新しいブラウザ ウィンドウでドキュメントが開きます。次に開くドキュメントも同じウィンドウに表示されます。
- 同じウィンドウ (Same Window)
ドキュメントは QlikView AccessPoint と同じブラウザ ウィンドウに開きます。
- 新しいウィンドウ (New Window)
新しいブラウザ ウィンドウでドキュメントが開きます。

デフォルトの優先クライアント (Default Preferred Client)

クライアントの優先順位を設定するには、QlikView AccessPoint に初めてアクセスするときに次のオプションのいずれかを選択します。

- IE プラグイン (IE Plugin)
- AJAX クライアントおよび小型デバイス バージョン
- ダウンロード: QlikView ドキュメントファイルを QlikView AccessPoint からダウンロードします。

クライアントパス (Client Paths)

QlikView プラグイン

QlikView プラグイン ファイルのウェブ ページを編集するには、このテキスト ボックスに有効なパスを入力します。

既定のパス: /QvPlugin/opendoc.htm.

Ajax クライアント

AJAX クライアント ファイルのウェブ ページを編集するには、有効なパスを入力します。

既定のパス: /QvAJAXZfc/opendoc.htm.



小型デバイスの場合は、常に次の URL を使用してください: /QvAJAXZfc/mobile/opendoc.htm

プラグインダウンロード (Plugin Download)

リンクを表示 (Show Link)

クライアントプラグイン ファイルのダウンロード リンクを QlikView AccessPoint 上に表示するには、このチェック ボックスをオンにし、次のテキスト ボックスにファイルへの有効なパスを入力します。

- URL
既定のパス: /QvPlugin/QvPluginSetup.exe.

クライアントプラグイン ファイルをダウンロードするリンクを QlikView AccessPoint で表示しない場合は、オフにします。

(サーバー接続)

この (サーバー接続) タブでは、QlikView Servers (QVS) への QlikView AccessPoint 接続設定を管理します。

サーバー接続

マウント上の閲覧可能フラグに従う(Respect Browsable Flag on Mount)

Folders (フォルダー) で [Browsable] (参照可能) として設定されている QVS のマウントだけを QlikView AccessPoint に表示するように設定するには、このチェックボックスをオンにします。QVS のマウントをすべて QlikView AccessPoint で表示するには、このチェックボックスをオフにします。

AllowAlternateAdmin=1

QVS エントリを追加するには、右側パネル右上の [Add] (追加) アイコン  をクリックし、以下の項目を設定します。

- [Name] (名前)
ド롭ダウン リストから、任意の QVS を選択します。
- ロード バランス
ロードバランス計算方法を選択するには、次のオプションのいずれかを選択します。
 - [CPU with RAM Overload] (CPU の RAM オーバーロード): クライアントは、ビジー度が最も低い QVS に送られます。
 - [Loaded Document] (ロード済みドキュメント): クライアントは、リクエストしたドキュメントが既にロードされている QVS に送られます。
 - [Random] (ランダム): クライアントは、無作為に選択された QVS に送られます。
- [Always Tunnel] (常にトンネル):
QVS への通信を必ずトンネルするには、このチェックボックスをオンにします。オンになっていない場合、通信をトンネルするのは、クライアントがポート 4747 経由で QVP 接続を確立できない場合のみです。トンネリングにおいて、QVS は、Web サーバーが使用するプロトコルに応じて HTTPS または HTTP で接続を処理します。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

AccessPoint のカスタマイズ

AccessPoint でタイトル、ラベル、画像、CSS スタイルをカスタマイズします。

%ProgramFiles%\QlikView\Web にある JSON ファイル *customConfig.json* を使用して、AccessPoint ページの *index.htm* および *FormLogin.htm* の要素をカスタマイズできます。



%ProgramFiles%\QlikView\Web\customFilesExample でカスタマイズの例を確認できます。このフォルダー内のサンプル ファイル、*customConfig.json* にはスタイルのカスタマイズが含まれており、既定の代わりにカスタム画像を使用します。

次のプロパティを使用して AccessPoint をカスタマイズできます。

- **title**: ブラウザに表示されるドキュメントのタイトルを定義するために使用されます。
例:
`"title": "My Access Point"`
- **customFilesFolder**: 置換画像の場所を指します。このプロパティは、代替ファイルが必要な場合にのみ必要です。QlikView がアクセスできる任意のフォルダーを使用できます。



AccessPoint のレイアウトを壊さないように、置換画像を元の画像と同様の軸に保つことをお勧めします。

例:

```
"customFilesFolder": "customFilesExample"
```

- **labels**: `accesspoint.json` で定義された規定のラベルを置き換えるために使用されます。言語に関係なくラベルを使用したい場合は、タグ `all` を使用します。

例

```
"labels": {
  "all": {
    "attributeHeader": "My Attribute (All):",
    "categoryHeader": "My Category:"
  }
}
```



カスタマイズできる個々のラベルについては、`%ProgramFiles%\QlikView\Web\lang\en-US\accesspoint.json` を参照してください。

言語固有のラベルを付けるには、`en-us` などの言語タグを使用します。次の言語タグが使用できます。

- de-DE
- en-US
- es-ES
- fr-FR
- it-IT
- ja-JP
- ko-KR
- nl-NL
- pl-PL
- pt-BR
- ru-RU
- sv-SE
- tr-TR
- zh-CN
- zh-TW

例:

```
"en-US": {
  "attributeHeader": "My Attribute (En):",
  "useridLabel": "Custom User Name:"
}
```

- **cssselectors:** 変更または追加する属性を使用して変更する CSS 要素の jQuery セレクターを追加します。要素のスタイルを変更するには、**style** 属性を使用します。指定したスタイルは、直接または CSS によって行われる他のスタイルに加えて、要素に直接適用されます。ブラウザの開発者ツールを使用して、*index.htm* および *FormLogin.htm* で変更可能な要素を表示できます。

例:

```
"cssselectors": {
  "#logo_main": {
    "src": "customFilesFolder/logo_main.png",
    "alt": "Custom"
  },
  ".pagination.topPag > h1": {
    "style": {
      "background-image": "url('customFilesFolder/logo_accessPoint.png')"
    }
  },
  "body": {
    "style": {
      "font-family": "Arial, sans-serif",
      "font-size": "14px"
    }
  },
  ".filter_view a": {
    "style": {
      "background-image": "url('customFilesFolder/ap_sprite.png')"
    }
  },
  "#loginBox": {
    "style": {
      "background-image": "url('customFilesFolder/bg_login.png')"
    }
  },
  "link[rel=\"shortcut icon\"]": {
    "href": "customFilesFolder/favicon.ico"
  }
}
```

Ajax

この AJAX タブでは、AJAX クライアントの設定を管理できます。

パス (Paths)

パス (Path)

AJAX クライアントファイルへのパスです。パスエントリを作成するには、パネル内右側の [Add] (追加) アイコン  をクリックして、新しいテキストボックスに AJAX クライアントファイルへのフルパスを入力します。

既定値 1: /QvAJAXZfc/QvsViewClient.aspx.

既定値 2: /QvAJAXZfc/QvsViewClient.asp.



デフォルトパスは変更可能ですが、インストールを機能させるためには、ファイル名を変更しないでおく必要があります。

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除]アイコン  をクリックします。

詳細設定

暗号化なし (No Crypto)

QlikView Web Server (QVWS) とQVS の間で暗号化の使用を禁止するには、このチェックボックスをオンにします。暗号化の使用を許可するには、このチェックボックスをオフにします。

マシンID 禁止 (Prohibit Machine ID)

マシンID の送信を禁止することによって、匿名ブックマークの使用を事実上除外することができます。マシンID の送信を禁止するには、このチェックボックスをオンにします。マシンID の送信を許可するには、このチェックボックスをオフにします。

記録 (Recording)

AJAX クライアントのログを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。AJAX クライアントのログを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

Web

この Web タブでは、Web ブラウザの MIME タイプおよびルートフォルダを管理できます。

MIME の種類

QlikView Web Server (QWS) が許可する、MIME ファイルの拡張子です。MIME パス エントリを作成するには、パネル内右側の [Add] (追加) アイコン  をクリックして、次のテキストボックスに任意の値を入力します。

拡張子 (Extension)

ピリオド (「.」) で開始される MIME ファイルの拡張子です。例 (下の コンテンツの例に対応させて列挙します): 「.CSS」、「.HTM」、「.HTML」、「.JPG」、「.GIF」、「.JAR」。

目次

MIME のコンテンツで、たとえば (上の 拡張子 (Extension) の例に対応させて列挙します): 「text/css」、「text/html」、「image/jpeg」、「image/gif」、「application/octet-stream」。

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除]アイコン  をクリックします。

ルートフォルダ (Root Folders)

QlikView Web Server の様々な仮想フォルダへのパスです。パス エントリを作成するには、右側パネルの [Add] (追加) アイコン  をクリックして、次のテキストボックスに任意の値を入力します。

【Name】 (名前)

既定値 1a: QLIKVIEW.

既定値 2a: QVCLIENTS.

既定値 3a: QVAJAXZFC.

既定値 4a: QVDESKTOP.

既定値 5a: QVPLUGIN.

パス (Path)

既定値 1b: C:\Program Files\QlikView\Web

既定値 2b: C:\Program Files\QlikView\Server\QlikViewClients

既定値 3b: C:\Program Files\QlikView\Server\QlikViewClients\QlikViewAjax

既定値 4b: C:\Program Files\QlikView\Server\QlikViewClients\QlikViewDesktop

既定値 5b: C:\Program Files\QlikView\Server\QlikViewClients\QlikViewPlugin

【削除】

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

Login (ログイン)

サーバー ログイン

通常、リモートシステムには、この管理サービスを実行しているサービス アカウントからアクセスできます。たとえば、リモートシステムが別の **Windows Active Directory** にあって実行不可な場合などは、有効なリモート ユーザー用のユーザー名とパスワードを入力することが可能です。リモートサーバーにインストールされているサービスの管理を有効にするには、次のテキストボックスを設定します。

- ユーザー名

Enter the name a of a user that is member of the QlikView Administrators group on the remote server.

- パスワード

Enter the password for the entered ユーザー名.

リモート マネージメント サービス (Remote Management Services)

<appSettings> リモート マネージメント サービス (Remote Management Services) フォルダには、リモートサーバーのマネージメントサービスから、タスクをインポートすることができます。



関係する環境では、同じメジャー **QlikView** リリース (**QlikView 12** と **QlikView 12** または **QlikView November 2018** と **QlikView November 2018** など) を使用する必要があります。関係する環境で異なるメジャー リリース (**QlikView November 2017** と **QlikView November 2018** など) が使用されている場合は、**[Remote Management Service]** (リモート マネージメント サービス) を使用することができません。

各接続は、現在のマネージメントサービスのユーザー アカウントごとに設定されるので、このアカウントは、リモートシステムの QlikView Management API セキュリティグループのメンバーでなければなりません。



QlikView Management API セキュリティグループがリモートシステムに存在しない場合、作成しなければなりません。

この機能は、QlikView Publisher (QVP) の環境間 (特にテストシステムとプロダクションシステム間) で、タスクを取得する際に使用できます。使用するには、テストシステムへのリモートマネージメントサービスのリンクが、プロダクションシステムに設定されなければなりません。このリンクによって、テストシステムからプロダクションシステムへとタスクをプルすることが可能になります。テストシステムには通例フォルダとサーバーの固有のセットが存在し、プロダクションシステムではその他のフォルダとサーバーが使用されるため、テスト項目がプロダクション項目にマップされなければなりません。このリンクおよびマップの設定は、1度だけ実行されます。これは、タスクをインポートしているときは、タスクの取得とマッピングが自動的に実行されていることを意味します。



リモートマネージメントサービスは、サポートタスク (Supporting Tasks) のインポートには使用できません。



タスクのインポートでは、他のタスクイベント (On Event from Another Task) のトリガータイプが除外されます (インポートされません)。このようなトリガーをインポートするには、すべてのタスクをタスクのインポートで説明している方法でインポートする必要があります。

関数

追加

リモートマネージメントサービスのエントリを作成するには、パネル内右側の [Add] (追加) アイコン、 をクリックして、新しいテキストボックスに URL を入力します。新しいエントリが、左側パネルのツリー表示で利用可能になります。

既定のパス: `http://remotehost:4799/QMS`。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

[Apply] (適用)

角の丸みには [Apply] (適用) 変更を確認するため。

キャンセル

角の丸みには キャンセル変更を元に戻すため。

表示

リモートマネージメントサービスの設定を表示または構成するには、右側パネルでツリー表示の該当するエントリをクリックします。各エントリには、以下のタブが含まれます。

- 概要
- 基本設定
- ソース フォルダ (Source Folders)
- QlikView Servers
- Login (ログイン)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

概要

[General] 概要 タブでは、リモート マネージメント サービスの API にアクセスすることができます。

General (基本設定)

[General] 基本設定 タブでは、リモート ホスト上で動作する QlikView マネージメント サービスの URL および インポート オプションを管理することができます。

場所

名前

リモート マネージメント サービスの名前です。

既定のパス: QMS@remotehostでのみ有効です。

[URL]

を [URL] リモート管理 サービス。

既定のパス: http://remotehost:4799/QMSでのみ有効です。

インポート オプション (Import Options)

インポート タスクのトリガーを無効化 (Disable Task Triggers on Import)

インポートされているすべてのタスクを無効にするには、このチェック ボックスをオンにします (デフォルト)。インポートされているすべてのタスクを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。

[Source Folders] (ソース フォルダ)

[General] ソース フォルダ (Source Folders) タブでは、様々な マネージメント サービスのソースやターゲット ドキュメント フォルダのマッピングを管理することができます。このマッピングは、タスクを別のシステムからインポートする際に、リモート システムのドキュメントと対応するローカル ドキュメントとをマッチさせるために使用されます。

ソース ドキュメント フォルダのマッピング (Source Document Folder Mappings)

最小

リモート システムのすべてのソース ドキュメント フォルダが表示されます。ソース ドキュメント フォルダのマッピングを設定するには、ドロップダウン リストからオプションの1つを選択します。

最大

ローカル システムのすべてのターゲット ドキュメント フォルダが表示されます。ターゲット ドキュメント フォルダのマッピングを設定するには、ドロップダウン リストからオプションの1つを選択します。

QlikView Servers

[General] QlikView Servers タブでは、ソース/ターゲット QlikView Server のマッピングを管理することができます。このマッピングは、タスクを別のシステムからインポートする際に、リモートシステムと対応するローカルシステムとをマッチさせるために使用されます。

たとえば、ある QVS がテストシステムでテストのために使用されているとき、同 QVS への配信が実行されたとしても、このテストシステムのタスクを、プロダクションシステムにテストサーバーへの配信を開始させることなく、同プロダクションシステムで取得するには、マッピングを設定する必要があります。このマッピングは、任意のタスクがテストシステムで実行されるとサーバー「X」に配信され、一方それらと同一のタスクがプロダクションシステムで実行されるとサーバー「Y」に配信されるように定義されます。

QlikView Server のマッピング (QlikView Server Mappings)

最小

リモートシステムで利用可能なすべてのサーバーが表示されます (例: テストシステムのサーバー「X」)。ソース QlikView Server のマッピングを設定するには、ドロップダウン リストからオプションの 1 つを選択します。

最大

ローカルシステムで利用可能なすべてのサーバーが表示されます (例: プロダクションシステムのサーバー「Y」)。ターゲット QlikView Server のマッピングを設定するには、ドロップダウン リストからオプションの 1 つを選択します。

Login (ログイン)

サーバー ログイン

通常、リモートシステムには、この管理サービスを実行しているサービス アカウントからアクセスできます。たとえば、リモートシステムが別の Windows Active Directory にあって実行不可な場合などは、有効なリモートユーザー用のユーザー名とパスワードを入力することが可能です。リモートサーバーにインストールされているサービスの管理を有効にするには、次のテキストボックスを設定します。

- ユーザー名
Enter the name a of a user that is member of the QlikView Administrators group on the remote server.
- パスワード
Enter the password for the entered ユーザー名.

メール サーバー

テスト メール サーバーフォルダの [基本設定] タブでは、アラートやドキュメントの配信に使用するメール サービスを設定します。

場所

ホスト名 (Host Name)

SMTP サーバーのアドレスを設定します。

既定のパス: localhost.

ポート

SMTP サーバーのポートを設定します。

既定のパス: 25.

その他 (Miscellaneous)

メール フォーマット (E-mail Format)

メール フォーマットを設定するには、ドロップダウンリストの次のオプションのいずれかを選択します。

- プレーン テキスト (Plain text)
- HTML メッセージ (HTML message)

SMTP サーバー タイムアウト (SMTP Server Timeout)

サーバーからの応答を待機する時間を設定します。

既定のパス: 100(秒)。

送信元アドレス (From Address)

送信者のメール アドレスを設定します。

既定のパス: publisher@company.com.

認証方法 (Authentication Method)

メールを送信する場合のユーザーの認証方法を設定するには、次のオプションのいずれかを選択します。

- Anonymous (匿名): 認証情報は使用されません
- Use Distribution Service Account (配信サービス アカウントを使用): サービスを実行している Windows ユーザーが使用されます。
- User Name and Password (ユーザー名およびパスワード): 以下のテキストボックスに設定されるユーザー情報が使用されます。
 - ユーザー名
ユーザー名を構成するには、任意の認証情報をこのテキストボックスに入力します。
 - パスワード
パスワードを構成するには、任意の認証情報をこのテキストボックスに入力します。

メールの上書き (Override E-mail)



これらの設定はテスト目的に限定されます。

すべてのメールの送信先 (Send All E-mails To)

QlikView Publisher (QVP) によって送信されるすべてのメールの受信者を構成するには、このテキストボックスに有効なメール アドレスを入力します。



QlikView Publisher (QVP) によって送信されるいかなるメールもその他の受信者には送信されません。

テストメールの送信先 (Send Test E-mail To)

設定をテストするには、このテキストボックスにメールアドレスを入力し、送信ボタンをクリックします。

メールでの配信権限があるドキュメント管理者 (Document Administrators Authorized to Distribute via E-mail)

ユーザーは、QlikView Publisher (QVP) のドキュメント管理者になることができ、メールでドキュメントを配信することができます。

ユーザーを管理するには、検索フィールドで、ダイアログアイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウンリストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

License Service

テスト License Service フォルダー、QlikView Server の License Service のステータスと情報を確認できます

License Service

[License Service] (ライセンス サービス) タブには、インストールされている QlikView Server の License Service のリストが表示されます。

編集

[編集 アイコン ] をクリックし、License Service の概要 (page 175) タブを開きます。

`http://<mycomputer>:9200/`

概要

ここでは、インストールされている QlikView Server の License Service のアドレスを確認できます。

参照先:

 [Qlik ライセンス付与サービス リファレンス ガイド](#)

クラウド展開

テストクラウド展開 フォルダーでは、QlikView Server に接続するクラウド展開を追加および構成できます。



QlikView April 2020 のリリースに伴い、*Qlik Sense* クラウドハブへのリンクの公開は *QlikView April 2019* では利用できなくなります。

クラウド展開

Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) クラウド展開 タブには、インストールされた QlikView Server に接続されているすべてのクラウド展開の一覧が表示されます。

AllowAlternateAdmin=1

新しいクラウド展開を追加するには、次をクリックします AllowAlternateAdmin=1 アイコン、 をクリックして、新しいテキストボックスに URL を入力します。新しいエントリが、左側パネルのツリー表示で利用可能になります。

`https://tenant.qlikcloud.com/`

編集

クラウド展開 エントリを構成するには、編集 アイコン、 をクリックするか、ツリー表示でエントリをクリックします。これにより、選択したクラウド展開の **概要 (page 176)** タブが開きます。

[削除]

リストから設定済みのエントリを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

[Apply] (適用)

角の丸みには [Apply] (適用) 変更を確認するため。

キャンセル

角の丸みには キャンセル変更を元に戻すため。

概要

テスト概要 タブでは、選択したクラウド展開の URL を確認できます。

General (基本設定)

テストGeneral (基本設定) タブでは、クラウド展開を QlikView Server に接続する場合の詳細設定を構成します。

場所

展開名

クラウド展開の名前。

API エンドポイント

クラウド展開のクラウドハブへのアドレス。

プロキシ

プロキシ経由でクラウドに配布する、サーバーとポートの詳細を入力します。

サーバー

プロキシサーバーの IP アドレス。

ポート

プロキシサーバーと通信するために使用するポート。

QlikView ウェブサーバー

ウェブサーバー

ドロップダウンメニューに、展開内で使用可能なすべての QlikView Web サーバーがリスト表示されます。

配布設定

Disable distribution of links (リンクの配布を無効にする)

クラウド展開に対する QlikView ドキュメントのリンクの配布を無効にする場合はこのオプションを選択します。

Issuer configuration (発行者構成)

Qlik Cloud Services format (Qlik Cloud Services の書式)

ローカルベアラー トークン (構成) を Qlik Cloud 書式で生成する場合はこのオプションを選択します。選択しない場合、トークンはテキストファイルとして生成されます。

Generate configuration (構成の生成)

ローカルベアラー トークンの構成を開始するにはこのボタンをクリックします。

クリップボードにコピー

ローカルベアラー トークン テキストをクリップボードにコピーするにはこのボタンをクリックします。

[Apply] (適用)

角の丸みには [Apply] (適用) 変更を確認するため。

キャンセル

角の丸みには キャンセル変更 を元に戻すため。

テスト

テストテスト タブで、選択したクラウド展開への接続をテストします。

クラウド接続のテスト

テストする QDS クラスターの選択

ドロップダウンメニューに、展開内で使用可能なすべての QlikView QDS クラスターがリストされます。

テスト

このボタンをクリックして、選択したクラウド展開への接続をテストします。

テストの対象は、次のとおりです。

- **認証トークンの作成:** 認証トークン経由で通信を確認します。
- **クラウドAPIへの接続:** クラウド展開 API との通信を確認します。
- **ライセンス:** クラウド展開ライセンスに次のタグが含まれるかどうかを確認します。 $QV_nodes \geq 1$ 。
- **TCSへの接続の前提条件:** TCS サービス通信が許可されているかどうかを確認します。

6.4 ライセンス

[General] ライセンス ページでは、利用可能なすべての製品ライセンスが、左側パネルにツリー表示でリストされます。ライセンスは、表示、追加、編集が可能です。また、QlikView Server (QVS) クライアントアクセスライセンス (CAL) を管理することができます。ライセンスや CAL を右側パネルで表示または管理するには、ツリー表示の該当するライセンスをクリックします。

タイプ

次のライセンスが表示されます。

- QlikView Publisher
- [QlikView Server]

[Name] (名前)

ライセンスがあるホストサーバーのサービスの名前のことです。

QlikView Publisher

[General] QlikView Publisher (QVP) ペインで、QlikView Publisher ライセンス タブが表示されません。

QlikView Publisher ライセンス

[QlikView ライセンス] タブでは、QlikView Publisher (QVP) 製品ライセンスを有効化および更新し、ライセンスの詳細を確認できます。選択可能なオプションは、有効化するライセンス (シリアル番号とコントロールナンバーが費用なライセンスや、署名付きキーが必要なライセンスなど) に応

じて異なります。

署名付きライセンスキーの使用

[署名付きライセンスキー]を選択すると、署名付きキーを使用したライセンス QlikView Publisher (QVP) に関連する項目のみが表示されます。選択しないと、ライセンス付与 QlikView Publisher (QVP) に固有の項目のみがシリアル番号とコントロールナンバーと一緒に表示されます。

シリアル番号とコントロールナンバーを使用する場合

レガシーライセンス(シリアル番号 + コントロールナンバー)を使用する場合、署名付きキーオプションは UI に表示されたままになります。後で署名付きキーに切り替えることができます。

シリアル番号と制御番号 (Serial and Control)

シリアル番号

このテキストボックスに、QVS ソフトウェアに割り当てられたシリアル番号を入力します。

制御番号 (Control)

このテキストボックスに、QVS ソフトウェアに割り当てられたコントロールナンバーを入力します。

LEF 情報の貼り付け (オプション) (Paste the contents of LEF file here (optional))

これは、サーバーからライセンスを更新 (Update License from Server) に関する選択肢であり、製品ライセンスを追加します。サーバーがインターネット経由で QVP ライセンス認証ファイル (LEF) 情報にアクセスできない場合、同情報は製品ベンダーから取得することができます。詳細は、製品ベンダーにお問い合わせください。

所有者情報 (Owner Information)

[Name] (名前)

製品所有者のユーザー名を入力します。

組織 (Organization)

製品所有者の組織名を入力します。

ライセンスを解除 (Clear License)

ライセンス情報をクリアする場合に選択します。

サーバーからライセンスを更新 (Update License from Server)

LEF をインターネット経由で取得する場合に選択します。このオプションは、シリアル番号および制御番号 (Control) を検証し、LEF を返します。

ライセンスを適用 (Apply License)

ライセンスを適用する場合に選択します。



新しい LEF は、QlikTech の LEF サーバーからダウンロードされます。

署名付きライセンスキーを使用する場合

署名付きライセンスキーを使用すると、レガシーライセンスのUIオプションが表示されなくなります。これは、インストールに署名付きライセンスキーを適用すると、環境をアンインストールしない限り、ライセンスキーをレガシーに戻すことができないためです。

署名付きライセンスキー

署名付きキー

署名付きライセンスキーを入力します。

License Definition (ライセンス定義)

ライセンスの詳細を表示します。変更することはできません。

ライセンスを適用 (Apply License)

ライセンスの適用を選択します。

QlikView Server

[General] QlikView Server(QVS) パネルには、次のタブが含まれます。

- QlikView Server ライセンス
- クライアントアクセス ライセンス
このタブは、QlikView Server がシリアル番号とコントロールナンバーを使用してライセンス付与されている場合に表示されます。
- Professional および Analyzer アクセス権
このタブは、QlikView Server が署名付きキーを使用してライセンス付与されている場合に表示されません。

QlikView Server ライセンス

[QlikView ライセンス] タブでは、QlikView Server (QVS) 製品 ライセンスを有効化および更新し、ライセンスの詳細を確認できます。選択可能なオプションは、有効化するライセンス(シリアル番号とコントロールナンバーが費用なライセンスや、署名付きキーが必要なライセンスなど)に応じて異なります。

Use Signed Key License (署名付きキーライセンスを使用する)

[署名付きライセンスキー] を選択すると、署名付きキーを使用したライセンス QlikView Server (QVS) に関連する項目のみが表示されます。選択しないと、ライセンス付与 QlikView Server (QVS) に固有の項目のみがシリアル番号とコントロールナンバーと一緒に表示されます。



ライセンスは、ドキュメントを開くたびにチェックされます。ライセンス認証ファイル (LEF) で指定された時間制限に達すると、QVS は自動的にオフラインモードに入ります。つまり、QMC からはアクセスできませんが操作不能です。OffDuty パラメータは、QVS がオフデューティーであることを示します。

シリアル番号とコントロール番号を使用する場合

レガシーライセンス(シリアル番号 + コントロール番号)を使用する場合、署名付きキーオプションは UI に表示されたままになります。後で署名付きキーに切り替えることができます。

シリアル番号と制御番号 (Serial and Control)

Serial Number

このテキストボックスに、QVS ソフトウェアに割り当てられたシリアル番号を入力します。

制御番号 (Control)

このテキストボックスに、QVS ソフトウェアに割り当てられたコントロール番号を入力します。

LEF 情報の貼り付け (オプション) (Paste the Contents of LEF File Here (Optional))

これは、サーバーからライセンスを更新 (Update License from Server)を使用することなく、製品ライセンスを追加するための手段です。サーバーがインターネット経由で QVS ライセンス認証ファイル (LEF) 情報にアクセスできない場合、同情報は製品ベンダーから取得することができます。詳細は、製品ベンダーにお問い合わせください。

所有者情報 (Owner Information)

[Name] (名前)

製品所有者のユーザー名を入力します。

組織 (Organization)

製品所有者の組織名を入力します。

ライセンスを解除 (Clear License)

ライセンス情報をクリアする場合に選択します。

サーバーからライセンスを更新 (Update License from Server)

LEF をインターネット経由で取得する場合に選択します。このオプションは、シリアル番号および制御番号 (Control) を検証し、LEF を返します。

ライセンスを適用 (Apply License)

ライセンスを適用する場合に選択します。



新しい LEF は、QlikTech の LEF サーバーからダウンロードされます。

署名付きライセンスキーを使用する場合

署名付きライセンスキーを使用すると、レガシーライセンスの UI オプションが表示されなくなります。これは、インストールに署名付きライセンスキーを適用すると、環境をアンインストールしない限り、ライセンスキーをレガシーに戻すことができないためです。

署名付きライセンスキー

署名付きキー

署名付きライセンスキーを入力します。

License Definition (ライセンス定義)

ライセンスの詳細を表示します。変更することはできません。

ライセンスを適用 (Apply License)

ライセンスの適用を選択します。

クライアントアクセスライセンス

[General] クライアント アクセス ライセンス タブでは、QlikView Server (QVS) で利用可能な CAL に関する情報が、以下のタブで示されます。

- General (基本設定)
- CAL の割り当て
- 履歴
- 制限

クライアントアクセスライセンスについて

クライアントアクセスライセンス (CAL) は、QlikView Server に存在する QlikView ドキュメントへのアクセスを提供します。CAL を使用するには QlikView Publisher ライセンスが必要です。

QlikView で使用できる CAL には次の 4 つの種類があります。

1. *Named User CAL (page 181)*
2. *Document CAL (page 182)*
3. *Session CAL (page 182)*
4. *Usage CAL (page 182)*

Named User CAL

Named User CAL を使用すると、1 人の名前付きユーザーが QlikView Server に存在する任意の QlikView ドキュメントに、必要なだけ何度でもアクセスできます。ユーザーには、QlikView 管理 コンソール (QMC) を介して手動または自動 (既定) で Named User CAL が割り当てられます。

例:

組織には 50 人のユーザーと 10 件の QlikView ドキュメントがあります。すべてのユーザーがすべてのドキュメントに頻繁にアクセスします。最も適切なライセンスソリューションは、各ユーザーに Named User CAL を割り当てて、時間や使用上の制限なしに、いつでも任意のドキュメントにアクセスできるようにします。

ライセンス リース

スタンドアロンの QlikView Desktop ライセンスがない場合は、Named User CAL をリースして、QlikView Desktop の一時ライセンスを提供できます。この機能を使用するには、ライセンス認証ファイル (LEF) でライセンス リースを有効にする必要があります。

Document CAL

Document CAL を使用すると、1人の名前付きユーザーが QlikView Server に存在する1つの QlikView ドキュメントに何度でも必要なだけアクセスできます。複数の Document CAL を同じユーザーに割り当てることができます。ユーザーには、QlikView 管理 コンソール (QMC) を介して手動または自動で Document CAL が割り当てられます。範囲が限られているため、Document CAL は、ユーザーが必要な特定のドキュメントにアクセスできるようにするために、より多くの管理オーバーヘッドを必要とします。Document CAL は、ユーザーに少数のドキュメントで大量のコンテンツを開発させ、リソースを大量に消費するアプリケーションを作成する可能性があります。

例:

組織には 50 人のユーザーと10件の QlikView ドキュメントがあります。各ユーザーは、少数のドキュメントにアクセスするだけで済みます。最も適切なライセンス ソリューションは、ユーザーに Document CAL を割り当てて、必要なドキュメントのみにアクセスすることです。各 Document CAL は1つのドキュメントへのアクセスを制限するため、複数のドキュメントへのアクセスを必要とするユーザーには複数の Document CAL が必要です。

Session CAL

Session CAL を使用すると、単一の QlikView クライアント上の単一の名前付きユーザーまたは匿名ユーザーが QlikView Server に存在する QlikView ドキュメントにアクセスできます。Session CAL は、先着順でユーザーに自動的に割り当てられるライセンスのプールを形成します。ユーザーがアプリケーションへのアクセスを要求すると、セッション期間中、ドキュメントにアクセスするための Session CAL が自動的に割り当てられます。セッションが終了すると、ライセンスは Session CAL のプールに再割り当てされます。セッション CAL の最小セッション時間は 15 分です。これは、最小セッション時間より前にセッション CAL をプールに再追加できないことを意味します。

例:

組織には 50 人のユーザーと10件の QlikView ドキュメントがあります。各ユーザーがすべてのドキュメントにアクセスすることはめったにありません。ドキュメントが同時に使用されていないことを考えると、Session CAL のプールはこの組織にとって適切なライセンス ソリューションです。

Usage CAL

Usage CAL を使用すると、単一の QlikView クライアント上の単一の名前付きユーザーまたは匿名ユーザーが 28 日間ごとに 60 分間単一の QlikView ドキュメントにアクセスできます。Usage CAL は、先着順でユーザーに自動的に割り当てられるライセンスのプールを形成します。Usage CAL は、すべてかゼロのどちらかのライセンスです。これは、ユーザーセッションが 5 分または 60 分続くかどうかに関係なく、セッションの有効期限が切れるとライセンスが隔離されることを意味します。ユーザーが 60 分の制限を超えると、プールから別の Usage CAL が自動的に割り当てられます。隔離された Usage CAL をプールにすぐに再割り当てすることはできません。28 日ごとに Usage CAL が更新され、ユーザーは同じ Usage CAL を使用して新しい QlikView ドキュメントを 60 分間表示できます。Usage CAL は、QlikView Server に割り当てられた1日あたりの Usage CAL の総数の 1/28 に相当するペースで継続的に再補充されます。

例:

組織には 50 人のユーザーと 10 件の QlikView ドキュメントがあります。各ユーザーは、1 か月を通してまれにドキュメントにアクセスします。ただし、月末には、ほとんどのユーザーが 1 つの特定のドキュメントに同時にアクセスします。Usage CAL は、セッションベースのライセンスモデル (Session CAL) を補完して、予測可能な時間に使用量の急増を処理できます。

CAL の比較

CAL	ユーザーの種類	QlikView ドキュメントの制限	時間制限
Named User	名前付きユーザー	なし	なし
[Document] (ドキュメント)	名前付きユーザー	1 件のドキュメントに制限	なし
Session	名前付きユーザーと匿名ユーザー	なし	最小 15 分/最大なし
Usage	名前付きユーザーと匿名ユーザー	1 件のドキュメントに制限	28 日間で 60 分

(基本設定)

この基本設定タブには、Named User CAL、Document CAL、Session CAL、Usage CAL に関する現在の情報が表示されます。

関数**最新の情報に更新**

現在表示されている情報を更新するには、最新の情報に更新アイコン  をクリックします。

識別**ユーザー識別方法 (Identify User by)**

名前付きユーザーは、2 つの方法のいずれかによって識別することができます。識別方法を設定するには、次のオプションの 1 つを選択します。

- ユーザー名: 名前付きユーザーの名前を表します。
- マシン名 (Link Machine Name): MAC アドレスを含むコンピュータ名を表します。



この設定はいつでも変更できますが、QlikView Server 内で、いずれか 1 つのモードを一貫して使用することを強く推奨します。製品の動作中に変更した場合、同一ユーザーに 2 つの CAL が設定される (1 つは ユーザー名に基づいて、もう 1 つは マシン名)。

Named user CAL: X が割り当て済み (Y がライセンス取得済み)

現在割り当てられている (使用済みの) 数が X を、User CAL を取得している (LEF で定義済みの) 数が Y を表し、共にヘッダーに表示されます。

ライセンスのリースを許可 (Allow License Lease)

ユーザーがライセンスを「借りる」ことを認め、30 日間オフラインで使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザーがライセンスを「借りる」ことを認めない場合は、このチェックボックスをオフにします。

CAL の動的割り当てを許可 (Allow Dynamic CAL Assignment)

QlikView Server に初めて接続するユーザーに、新しい Named User CAL を自動的に付与することができます。ただし、割り当てることができる Named User CAL が存在している必要があります。CAL の動的な追加を有効化するには、このチェックボックスをオンにします。CAL の動的な追加を無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

Document CAL: X が割り当て済み (Y がライセンス取得済み)

現在割り当てられている (使用済みの) 数が X を、Document CAL を取得している (LEF で定義済みの) 数が Y を表し、共にヘッダーに表示されます。Document CAL は、自動または手動で割り当てることができます。

Session CAL: X が使用可能 (Y がライセンス取得済み)

現在使用可能な (つまり、使用されていない) 数が X を、Session CAL を取得している (LEF で定義済みの) 数が Y を表し、共にヘッダーに表示されます。

Usage CAL: X が使用可能 (Y がライセンス取得済み)

現在使用可能な (つまり、使用されていない) 数が X を、Usage CAL を取得している (LEF で定義済みの) 数が Y を表し、共にヘッダーに表示されます。Usage CAL は、ライセンス発行時にすべてが配分されます。その後、利用可能な Usage CAL の総数が一定数に保たれるように、(ライセンス取得済みの) Usage CAL の総数を 28 で割った商に一致する数 (上限) が、毎日補充されます。たとえば、ライセンス取得済みの Usage CAL が 56 存在する場合、毎日 2 つの (56 を 28 で割った商) Usage CAL が追加され (使用済みの分が相殺され)、56 を超えないように維持されます。

CAL の割り当て

[General] CAL の割り当てタブでは、すべての種類のクライアントアクセス ライセンス (CAL) のユーザーへの割り当てを管理することができます。

関数**最新の情報に更新**

現在表示されている情報を更新するには、最新の情報に更新アイコン  をクリックします。

割り当てられているユーザー (Assigned Users)

リストに含まれる CAL 全タイプのユーザー割り当てを表示します。

ユーザーを割り当て (Assign Users)

Named CAL をユーザーに手動で割り当てるには、以下を実行します。



名前付きまたはドキュメント CAL は、ユーザーにのみ割り当てることができます。名前付きまたはドキュメント CAL をグループに割り当ててはできません。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。
- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果 ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

[Name] (名前)

Named CAL に現在割り当てられているすべてのユーザーの氏名のリストが示されます。ユーザーは、認証されているユーザー名または マシン名。

最終アクセス日時 (Last Used) (UTC)

各ユーザーのサーバーへの最終アクセス日時 (UTC) です。

有効期限 (Quarantined Until) (UTC)

7日間 CAL とユーザーの関連付けが使用されていない場合は、直ちに削除されます。CAL とユーザーの関連付けが現在使用中であったり最近使用されていた場合は、削除のステータスが付けられ、この CAL を介した新しいユーザーによるアクセスセッションは許可されません。しかし、CAL とユーザーの関連付けは、有効期間が終了するまで、割り当てられた CAL を占領します。

元のサイズに戻す

CAL とユーザーの関連付けは、有効期限 (Quarantined Until) (UTC) 日時を超える前であれば、[元のサイズに戻す] アイコン  をクリックします。

[削除]

ここで有効期限 (Quarantined Until) (UTC) 日時を超えた場合、CAL とユーザーの関連付けは手動により削除できます。リストから CAL とユーザーの関連付けを完全に削除するには、まずドキュメント CAL を解放し、[削除] アイコン  をクリックします。



CAL とユーザーの関連付けは、期限が過ぎると正式に削除されます。



その CAL は 7 日間利用できません。

履歴

[General] 履歴 タブには、リース ライセンス アクティビティに関する現在の情報が表示されます。リース ライセンスとは、QlikView Server (QVS) に接続しているエンドユーザーが利用できるライセンスで、ライセンスを「借りる」許可を受けて、30 日間にわたって、ダウンロードされたドキュメントを開くことができるようにするものです。

関数

最新の情報に更新

現在表示されている情報を更新するには、最新の情報に更新アイコン  をクリックします。

ライセンス リース履歴 (License Lease History)

User

リースを許可されているライセンスユーザーの名前を表示します。

マシン ID (Machine ID)

リースを許可されているライセンス エンドユーザーのコンピュータ ID を表示します。

時刻 (UTC) (Time (UTC))

ユーザーがライセンスのリースを受けた最新の時刻のタイム スタンプ (UTC: 協定世界時)。

制限

[General] 制限 タブでは、同時に使用することが可能な CAL の数を制限することができます。CAL の数は、QlikView Publisher (QVP) ライセンス認証 ファイル (LEF) に記述されているデフォルト値未満に制限できます。

関数

最新の情報に更新

現在表示されている情報を更新するには、最新の情報に更新アイコン  をクリックします。

CAL 数の制限 (Limit number of CALs)

同時に開くことができる CAL の数を制限するには、以下のテキストボックスに任意の値を入力します。

- Named user CAL

同時に開くことができる Named User CAL の数を設定します。このテキストボックスの右側にある括弧のなかのテキストは、現在ライセンスを取得している Named User CAL を示します。

既定のパス: 5でのみ有効です。

- Session CAL

同時に開くことができる Session CAL の数を設定します。このテキストボックスの右側にある括弧のなかのテキストは、現在ライセンスを取得している Session CAL を示します。

既定のパス: 5でのみ有効です。

- Usage CAL

同時に開くことができる Usage CAL の数を設定します。このテキストボックスの右側にある括弧のなかのテキストは、現在ライセンスを取得している Usage CAL を示します。

既定のパス: 300でのみ有効です。

- Document CAL

同時に開くことができる Document CAL の数を設定します。このテキストボックスの右側にある括弧のなかのテキストは、現在ライセンスを取得している Document CAL を示します。

既定のパス: 30でのみ有効です。

Professional および Analyzer アクセス権

テスト Professional アクセス権と Analyzer アクセス権 タブには、割り当てられている使用可能な Professional アクセス権と Analyzer アクセス権に関する情報が表示されます。このタブでは、ユーザーの Professional アクセス権と Analyzer アクセス権の割り当てまたは取り消しも行います。

General (基本設定)

Allow dynamic assignment for Professional access (Professional アクセス権の動的割り当てを許可)

Professional アクセス権の動的割り当てを許可するには、このオプションを選択します。Professional アクセス権クォータが使用可能な場合は、QlikView に初めて接続するユーザーに Professional アクセス権が自動的に付与されます。Professional アクセス権の動的割り当てを拒否するには、このオプションを選択しないままにします。

Allow dynamic assignment for Analyzer access (Analyzer アクセス権の動的割り当てを許可)

Analyzer アクセス権の動的割り当てを許可するには、このオプションを選択します。Analyzer アクセス権クォータが使用可能な場合は、QlikView に初めて接続するユーザーに Analyzer アクセス権が自動的に付与されます。Analyzer アクセス権の動的割り当てを拒否するには、このオプションを選択しないままにします。

Allow License Lease (ライセンスのリースを許可)

プロフェッショナル アクセスがリリースされ、QlikView Desktop の臨時ライセンスが提供されます。

QlikView Desktop でユーザーが Professional アクセス権をオフラインで使用できるようにするには、このオプションを選択します。ユーザーが Professional アクセス権を借用するのを拒否するには、このオプションを選択しないままにします。

アナライザー: X が割り当て済み (Y がライセンス取得済み)

この項目には、割り当てられている Analyzer アクセス権の数 (X) と、QVS ライセンスで使用可能な Analyzer アクセス権の合計数 (Y) が表示されます。

QVS ライセンスで使用可能な合計数よりも多くのユーザを割り当てた場合、割り当て超過のユーザに対して **Excess** が true になります。

さらに、ユーザーが最後にログオンした時期と、どの app にアクセスしたかに関する情報を確認できます。

プロフェッショナル: X が割り当て済み (Y がライセンス取得済み)

この項目には、割り当てられている Professional アクセス権の数 (X) と、QVS ライセンスで使用可能な Professional アクセス権の合計数 (Y) が表示されます。

QVS ライセンスで使用可能な合計数よりも多くのユーザを割り当てた場合、割り当て超過のユーザに対して **Excess** が true になります。

さらに、ユーザーが最後にログオンした時期と、どの app にアクセスしたかに関する情報を確認できます。

Analyzer Capacity**Analyzer capacity: X 分**

自分の QVS ライセンスでの Analyzer Capacity アクセス権で消費可能な時間 (分) (X) を示します。

今月の消費: X 分。(残り: Y)

現在月に Analyzer Capacity アクセス権で消費された時間 (分) (X) を示します。括弧内は、Analyzer Capacity アクセス権で現在月に消費可能な時間 (分) を示しています。

超過使用:

この項目は、ユーザーのライセンスで Analyzer Capacity アクセス権の割り当て時間 (分) を超過することを許可されているかどうかを示します。ライセンスに応じて、超過使用項目に次が表示されます。

- はい: ユーザーの QVS ライセンスでは、Analyzer Capacity アクセス権の場合、無制限の時間 (分) の超過使用を許可されていることを示します。
- 最大 X 分.: ユーザーの QVS ライセンスでは、Analyzer Capacity アクセス権の場合、最大 X 分の時間が許可されていることを示します。

超過使用項目は、ユーザーの QVS ライセンスで Analyzer Capacity アクセス権での超過使用時間 (分) が許可されていない場合には表示されません。

Analyzer アクセス権**割り当てられているユーザー (Assigned Users)**

Analyzer アクセス権が割り当てられているユーザーのリストが表示されます。

[Name] (名前)

Analyzer アクセス権が割り当てられているユーザーの名前のリスト。

ユーザーの Analyzer アクセス権の割り当てと削除

ユーザーに Analyzer アクセス権を割り当てるには:

1. [検索フィールドで、アイコン  をクリックします。アクセス権の割り当てウィンドウが開きます。
2. 専用検索フィールドでユーザーを検索します。セミコロン区切りのリストを作成することにより、複数のユーザーを同時に検索できます。検索条件に適合するユーザーは **[検索結果]** のリストに表示されます。
3. Analyzer アクセス権を付与するユーザーを選択し、**[追加]** をクリックします。
4. **[OK]** を選択してアクセス権の割り当てを確認します。アクセス権の割り当てウィンドウが閉じられます。
5. **[適用]** を選択してアクセス権の割り当てを確認します。
6. Analyzer アクセス権を付与されたユーザーのリストが **[Assigned Users]** (割り当てられているユーザー) に表示されます。

アクセス権の割り当ての削除

ユーザーから Analyzer アクセス権を削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。次に、**[適用]** を選択して確認します。

アクセスの削除が適用される前にキャンセルする場合は、割り当てられたアクセスを維持するユーザー一行で [元のサイズに戻す] アイコン  を選択します。このオプションは、**[適用]** を選択する前にも選択できます。

Professional アクセス権

割り当てられているユーザー (Assigned Users)

Professional アクセス権が割り当てられているユーザーのリストが表示されます。

[Name] (名前)

Professional アクセス権が割り当てられているユーザーの名前のリスト。

ユーザーの Professional アクセス権の割り当てと削除

ユーザーに Professional アクセス権を割り当てるには：

1. [検索フィールドで、アイコン  をクリックします。アクセス権の割り当てウィンドウが開きます。
2. 専用検索フィールドでユーザーを検索します。セミコロン区切りのリストを作成することにより、複数のユーザーを同時に検索できます。検索条件に適合するユーザーは **[検索結果]** の下にリストされます。
3. Professional アクセス権を付与するユーザーを選択し、**[追加]** をクリックします。
4. **[OK]** を選択してアクセス権の割り当てを確認します。アクセス権の割り当てウィンドウが閉じられます。アクセスの割り当てが適用される前にキャンセルする場合は、割り当てを元に戻したいユーザー一行で [元のサイズに戻す] アイコン  を選択します。このオプションは、**[適用]** を選択する前にも選択できます。
5. **[適用]** を選択してアクセス権の割り当てを確認します。
6. Professional アクセス権を付与されたユーザーのリストが **[Assigned Users]** (割り当てられているユーザー) に表示されます。

アクセス権の割り当ての削除

ユーザーから Professional アクセス権を削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。次に、**[適用]** を選択して確認します。

アクセスの削除が適用される前にキャンセルする場合は、割り当てられたアクセスを維持するユーザー一行で [元

のサイズに戻す] アイコン  を選択します。このオプションは、**[適用]** を選択する前にのみ選択できます。

ライセンス リース情報

ユーザー

リースを許可されているライセンス ユーザーの名前を表示します。

マシンID (Machine ID)

リースを許可されているライセンス エンドユーザーのコンピュータID を表示します。

ライセンス タイプ

リースを許可されているライセンス ユーザーのライセンス タイプを表示します。

時刻 (UTC) (Time (UTC))

ユーザーがライセンスのリースを受けた最新の時刻のタイム スタンプ (UTC: 協定世界時)。

6.5 バージョン情報

このバージョン情報ページには、QlikView のシステム全体に関する情報、つまり様々な Windows サービスとそれらが実行されているコンピュータが表示されます。各サービスは、別々の見出しの下に表示されます。

QlikView システム情報 (About this QlikView System)

高レベルの詳細 / 低レベルの詳細 (More Details / Less Details)

低レベルの詳細を表示するには、[Less Details] (低レベルの詳細) リンクをクリックすると、以下の情報が示されます。

- 製品情報 (Product Information)
- マシン情報 (Machine Information)
- CPU情報 (CPU information)

高レベルの詳細を表示するには、[More Details] (高レベルの詳細) リンクをクリックすると、以下の情報が示されます。

- 製品情報 (Product Information)
- 現在のプロセス情報 (Current Process Information)
- マシン情報 (Machine Information)
- CPU情報 (CPU information)
- 論理ドライブ情報 (Logical Drives Information)
- ネットワーク情報 (Network Information)
- ファイル情報 (File Information)

6.6 サポート タスク

[General] サポート タスクページでは、以下に示す利用可能なサポートタスクグループが、左側パネルにツリー表示でリストされます。

- 外部プログラム
- データベース コマンド
- 一時停止
- QVD 生成

特定グループのサポートタスクを右側パネルで表示または管理するには、ツリー表示の該当するフォルダをクリックします。

外部プログラム

テスト外部プログラム フォルダでは、外部プログラムに関するサポートタスクを表示および管理することができます。

関数

タスクの追加 (Add Task)

タスクを追加するには、タスクの追加 (Add Task) アイコン  (右側パネルの右上隅) をクリックします。次のタブが作成されます。

- 基本設定
- トリガー (Trigger)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

ステータスの表示 (View Status)

タスクのステータスと設定を表示するには、右側パネルでツリービューにあるタスクをクリックします。

タスクの編集 (Edit Task)

タスクを構成するには、タスクの編集 (Edit Task) アイコン  をクリックするか、ツリー表示で該当するタスクをクリックします。右側パネルに、以下のタブが表示されます。

- 基本設定
- トリガー (Trigger)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

タスクのコピー (Copy Task)

タスクをコピーするには、クリップボードにコピー アイコン  をクリックします。

タスクの貼り付け (Paste Task)

タスクを貼り付けることにより、新しいタスクが作成されます。特定のフォルダーにコピーしたタスクを貼り付けるには、該当するドキュメントをクリック (強調表示) して、タスクの貼り付け (Paste Task) アイコン、、(右側パネル内、貼り付け (Paste Add Task) アイコン  の左) をクリックします。

タスクの実行 (Run Task)

タスクを開始するには、[Run this Task] (このタスクを実行) アイコン  をクリックします。

タスクの中断 (Abort Task)

タスクを中止するには、[Abort this Task] (このタスクを中断) アイコン  をクリックします。

タスクの削除

タスクを完全に削除するには、ツリー構造からタスクが存在するドキュメントをクリック(強調表示)して、右側のパネルにあるこのタスクの [タスクを削除] アイコン  をクリックするか、ツリー表示のタスクをクリック(強調表示)して、[削除]。

General (基本設定)

[General] (基本設定) タブでは、現在のタスクの基本的な設定およびパラメータを管理することができます。ドキュメントカテゴリの割り当て、作成、編集、削除が可能です。ドキュメントにカテゴリを設定することにより、エンドユーザーは容易に分類することができます。これらのカテゴリは、QlikView AccessPoint のエンドユーザーのみに表示されます。各ドキュメントは 1 つのカテゴリにのみ属することが可能です。

基本操作

有効化 (Enabled)

タスクを有効化するには、このチェックボックスをオンにします。タスクを無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

タスク名 (Task Name)

タスク名を編集するには、このテキストボックスに任意の名前を入力します。



Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) タスク名 (Task Name) は一意である必要があります、そうでない場合は、末尾に数字が追加されて一意の名前になります。たとえば、「MyTask」は「MyTask (2)」になります。

[Select Category] (カテゴリの選択)

サポートタスクにカテゴリを割り当てるには、ドロップダウンリストに表示されているカテゴリから1つを選択します。

既定のパス: 初期設定でのみ有効です。

新しいカテゴリの入力 (Or Type a New Category)

カテゴリを作成するには、このテキストボックスに説明的な名前を入力します。新しいカテゴリがカテゴリの選択 (Select Category) ドロップダウンリストで利用可能になります。



カテゴリの再割り当ては可能ですが、削除はできません。

タスクの説明 (Task Description)

タスクの説明を編集するには、このテキストボックスに任意の説明を入力します。

パラメータ (Parameters)

コマンドライン ステートメント (Command Line Statement)

実行されるコマンドラインのステートメントです。タスクの説明を編集するには、このテキストボックスに任意の説明を入力します。



このステートメントに「」(スペース) を含む場合、該当するパスは引用符「`"`」で開始および終了する必要があります。

アプリケーション `notepad.exe` を開始し、ファイル `odbc.ini` のコンテンツを表示するタスクの場合:

```
c:\windows\notepad.exe c:\windows\odbc.ini
```

タスク結果の処理 (Task Result Handling)

エラー (ゼロ以外の戻りコード) を無視 (Ignore Errors (Non-zero Return Codes))

通例、ゼロ以外のリザルトコードが返された場合、タスクは失敗したものととして処理されます。これを無視し、タスクが常に成功したものとして処理されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。エラーを処理するには、このチェックボックスをオフにします。

既存のファイル

Run task to check if file exists (タスクを実行して既存のファイルをチェックする)

[既存のファイル] を有効化すると、選択したファイルが適切な場所で使用可能かどうかがこのタスクによって検証されます。既存のファイル タスクによってドキュメント タスクがトリガーされるように設定すると、既存のファイル タスクによってファイルが見つかった場合にのみ、このドキュメント タスクが実行されます。タスクを完了するために必要なファイルを使用できない場合には、この設定によってドキュメント タスクの失敗が回避されます。ファイルが見つからない場合でも、既存のファイル タスクは正常に完了します。入力したファイル パスが空であったり、ネットワークの不具合によってタスクが完了しなかったりしたとすると、既存のファイル タスクは失敗します。

[既存のファイル] を有効化するには、[Run task to check if file exists] (タスクを実行して既存のファイルをチェックする) チェックボックスをオンにします。次に、[Path:] (パス:) 項目にファイルへのパスを挿入します。



[Run task to check if file exists] (タスクを実行して既存のファイルをチェックする) をオンにすると、[Command Line Statement] (コマンドラインステートメント) テキストボックス (パラメータ (Parameters) セクション内) が非アクティブになります。

パス (Path)

このテキストボックスにはファイル パスを入力します。ファイル パスにはファイル拡張子が含まれている必要があります。

任意のファイルを見つけられるように既存のファイル タスクを設定できます。つまり、既存のファイル タスクのターゲットを、ドキュメント タスクに接続されていない代替ファイルにすることができます。既存のファイル タスクで代替

ファイルが見つかった場合にのみ、ドキュメントタスクが実行されます。代替ファイルを見つけられるように既存のファイルタスクを設定した場合、ドキュメントタスクの実行時に、ドキュメントタスクによって読み取られたファイルが使用可能であることを確認します。

ファイルパスでアスタリスクを使用することができます。パスにアスタリスクが含まれている場合、以下のルールが適用されます。

- 必ずファイル拡張子を付ける必要があります。例：
`C:\ProgramData\QlikTech\SourceDocuments\Data*.qvw`
- 2つ以上のファイルがパスの条件を満たしている場合、ファイルパスと一致する最初のファイルが見つかる
 とすぐに、タスクが完了します。
- アスタリスクはファイル名の前または後に追加できます。2つのアスタリスクを両端に1つずつ配置して、同
 時に使用することができます。
`C:\ProgramData\QlikTech\SourceDocuments*Data.qvw`
`C:\ProgramData\QlikTech\SourceDocuments\Data*.qvw`
`C:\ProgramData\QlikTech\SourceDocuments*Data*.qvw`
- ファイル名内にアスタリスクを挿入することはできません。次のパスは無効です。
`C:\ProgramData\QlikTech\SourceDocuments\Data*3.qvw`

[Trigger] (トリガー)

[トリガー (Trigger)] タブで、現行タスクを構成して、トリガーにより開始することができます。1つのタスクには複数のトリガーを設定することができ、タスクのワークフローを作成できます。このタブには、以下の見出しが含まれます。

- 現在のトリガー (Current Triggers)
- タスクの依存関係 (Task Dependencies)

現在のトリガー (Current Triggers)

各行は個別のトリガーを表示します。この現在のタスクは、トリガーがリリースされると開始されます (OR 演算子)。複数のトリガー (複数条件) をリリースするには、現在のタスクを開始する前に複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) 機能を使用する必要があります (AND 演算子)。

トリガーを作成するには、パネル内右側で [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

トリガー (Trigger)

トリガーの種類。可能な値は次の通りです。

- Once トリガー
- Task Finished トリガー
- External Event トリガー
- And トリガー

詳細 (Details)

The trigger condition settings, that is, a summary of when the trigger starts the 現在のタスク。

有効化 (Enabled)

トリガーの現在の状態。可能な値は次の通りです。

- 有効化 (Enabled)
- 無効化 (Disabled)

トリガーの編集 (Edit Trigger)

トリガーを構成するには、トリガーの編集 (Edit Trigger) アイコン  をクリックします。

【削除】

トリガーを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

トリガーの設定 (Configure Trigger) ダイアログ

タスクの開始

トリガーの種類を選択するには、ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックします。

- スケジュール設定 (On a Schedule)
- 他のタスク イベント (On Event from Another Task)
- 外部 イベント (On an External Event)
- 複数 イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

有効化 (Enabled)

タスク実行のトリガーを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。トリガーを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

スケジュール設定 (On a Schedule)

ここでスケジュール設定 (On a Schedule) trigger type was chosen, a trigger can be scheduled to start the 現在のタスク。次の構成オプションが利用できます。

定期的 (Recurrence)

トリガーを開始するスケジュールは、次のオプションのいずれかをクリックして選択します。

- 一度 (Once)
- 時間ごと (Hourly)
- 日ごと (Daily)
- 週ごと (Weekly)
- 月ごと (Monthly)
- 連続 (Continuously)



時刻は、24 時間形式にする必要があります。

開始時刻 (Start at)

トリガーの開始日時を「yyyy-mm-dd hh:mm:ss」.

2011-12-31 23:59:59

一度 (Once)

これ以降の設定はありません。

時間ごと (Hourly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を、時間および分テキストボックスに入力します。

1 および 10: トリガーは 70 分ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、トリガーは毎日実行されます。

設定時間のみで実行 (Run Only Between)

このチェックボックスをオンにすると、1 日のうちトリガーを開始する時間を制限できます。トリガーの開始を許可する、開始時間と停止時間を [start] (開始) および [stop] (停止) テキストボックスに、hh:mm (時間:分)、時間制限を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

日ごと (Daily)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を日 (Day) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

3: トリガーは 3 日ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

週ごと (Weekly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を [Weeks] (週ごと) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

2: トリガーは 2 週間ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、現在の曜日が選択されます。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ssの形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

月ごと (Monthly)

月 (Months)

トリガーを開始する月を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 1 月 (January)
- 2 月 (February)
- 3 月 (March)
- 4 月 (April)
- 5 月
- 6 月 (June)
- 7月 (July)
- 8 月 (August)
- 9 月 (September)
- 10 月 (October)
- 11 月 (November)
- 12 月 (December)



月を選択しないと、現在の月が選択されます。

すべて選択 (Check All)

すべての月を自動的に選択するには、このボタンをクリックします。

すべて解除 (Uncheck All)

すべての月の選択を自動的に解除するには、このボタンをクリックします。

開始のみ (Run Only)

トリガーを選択した月 (Months) 次のオプションを1つ選択します。

- [Days] (日)とトリガーを開始する日を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 - 1, 2, 3... 31(各値は月の第何日目かを表します)
 - 最後:月の末日を意味します。



日を選択しない場合は、トリガーは実行されません。

- オン (On)と月の日付を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
トリガーする日数

順序	週日 (Weekday)
First	月曜日 (Monday)
2 番目	火曜日 (Tuesday)
3 番目	水曜日 (Wednesday)
4 番目	木曜日 (Thursday)
最後	金曜日 (Friday)
	土曜日 (Saturday)
	日曜日 (Sunday)

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ssの形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

連続 (Continuously)

これ以降の設定はありません。

他のタスクイベント(On Event from Another Task)

ここで他のタスク イベント(On Event from Another Task)トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon the event from another task. 次の構成オプションが利用できます。

開始 (Start on)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー イベントを選択します。

- Successful (成功): タスクが正常に実行されたことを意味します。
- 失敗 (Failed): タスクの実行に失敗したことを意味します。

完了 (Completion of)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー タスクを選択します。

外部イベント (On an External Event)

ここで外部イベント (On an External Event) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon an external event, that is, an outside component, making a QlikView Management Service (QMS) API call. 次の構成オプションが利用できます。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

ここで複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクwhen other tasks have 実行された時にbeen completed in their execution within a certain time. 次の構成オプションが利用できます。

時間の制約 (Time Constraint)

すべてのタスクの実行が完了しなければならない時間的制約を、[分]テキストボックスに目的の数値を入力して設定します。

既定のバ: 360: 6 時間に相当。

すべてのイベント完了後にタスクを実行 (Run task when all of these events completed)

外部イベント (External event)

トリガーを開始させるために完了する必要があるタスクリストに外部イベントを追加して、このチェックボックスをオンにします。リストから外部イベントを完全に削除するには、このチェックボックスをオフにします。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

タスク完了 (Task Completed)

タスクとトリガーを開始するために完了させておく必要があるイベントを追加するには、パネル内右側にある [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

イベント

ドロップダウン リストからタスク イベントを選択します。

タスク (Task)

Select the corresponding task, for which an event was selected in the イベントfield, in the drop-down list.

タスクの依存関係 (Task Dependencies)

タスク依存関係は、現在のタスク現在のタスクが実行されるようにするための手段です。The task dependencies overrule any trigger, which means that a trigger might not be able to start the 現在のタスク, if a task dependency for the 現在のタスク is not fulfilled. To configure a dependency for the 現在のタスク, click on the [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

タスク (Task)

Select the task(s), which must have been successfully executed before the 現在のタスク can be executed, in the drop-down list.

【削除】

タスクの依存関係を完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

データベース コマンド

テストデータベース コマンドフォルダでは、データベース コマンドの実行に関連するサポートタスクを表示および管理することができます。

関数

タスクの追加 (Add Task)

タスクを追加するには、タスクの追加 (Add Task) アイコン  (右側パネルの右上隅) をクリックします。次のタブが作成されます。

- 基本設定
- トリガー (Trigger)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

ステータスの表示 (View Status)

タスクのステータスと設定を表示するには、右側パネルでツリービューにあるタスクをクリックします。

タスクの編集 (Edit Task)

タスクを構成するには、タスクの編集 (Edit Task) アイコン  をクリックするか、ツリー表示で該当するタスクをクリックします。右側パネルに、以下のタブが示されます。

- 基本設定
- トリガー (Trigger)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

タスクのコピー (Copy Task)

タスクをコピーするには、クリップボードにコピー アイコン  をクリックします。

タスクの貼り付け (Paste Task)

タスクを貼り付けることにより、新しいタスクが作成されます。特定のフォルダーにコピーしたタスクを貼り付けるには、該当するドキュメントをクリック(強調表示)して、タスクの貼り付け (Paste Task) アイコン  (右側パネル内、追加を貼り付け] (Paste Add Task) アイコン  の左) をクリックします。

タスクの実行 (Run Task)

タスクを開始するには、[Run this Task] (このタスクを実行) アイコン  をクリックします。

タスクの中断 (Abort Task)

タスクを中止するには、[Abort this Task] (このタスクを中断) アイコン  をクリックします。

タスクの削除

タスクを完全に削除するには、ツリー構造からタスクが存在するドキュメントをクリック(強調表示)して、右側のパネルにあるこのタスクの [タスクを削除] アイコン  をクリックするか、ツリー表示のタスクをクリック(強調表示)して、[削除].

General (基本設定)

[General] General (基本設定) タブでは、基本設定とパラメータが現行タスクのアクセスコントロールを管理することができます。ドキュメントカテゴリの割り当て、作成、編集、削除が可能です。ドキュメントにカテゴリを設定することにより、エンドユーザーは容易に分類することができます。これらのカテゴリは、QlikView AccessPoint のエンドユーザーのみに表示されます。各ドキュメントは1つのカテゴリにのみ属することが可能です。

基本操作

有効化 (Enabled)

タスクを有効化するには、このチェックボックスをオンにします。タスクを無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

タスク名 (Task Name)

タスク名を編集するには、このテキストボックスに任意の名前を入力します。



Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) タスク名 (Task Name) は一意である必要があり、そうでない場合は、末尾に数字が追加されて一意の名前になります。たとえば、「MyTask」は「MyTask (2)」になります。

[Select Category] (カテゴリの選択)

サポートタスクにカテゴリを割り当てるには、ドロップダウンリストに表示されているカテゴリから1つを選択します。

既定のパス: 初期設定でのみ有効です。

新しいカテゴリの入力 (Or Type a New Category)

カテゴリを作成するには、このテキストボックスに説明的な名前を入力します。新しいカテゴリがカテゴリの選択 (Select Category) ドロップダウンリストで利用可能になります。



カテゴリの再割り当ては可能ですが、削除はできません。

タスクの説明 (Task Description)

タスクの説明を編集するには、このテキストボックスに任意の説明を入力します。

パラメータ (Parameters)

ユーザー名

接続文字列に使用されるユーザー名。

パスワード

接続文字列に使用されるパスワード。パスワードのこの項目は、クリアテキストで表示されないよう非表示となっています。

接続文字列 (Connection String)

データベースへの接続に使用される接続文字列です。接続文字列を編集するには、このテキストボックスに任意のステートメントを入力します。



接続文字列でキーワード `{user}` と `{pwd}` を使用して、ユーザー名とパスワードを挿入します。

データベース コマンド

実行されるデータベース コマンドステートメントです。これは、データベースが理解する任意のコマンドです (ストアド プロシージャまたは SQL ステートメント) (複数イベント発生時 (複数イベント完了時))。データベース コマンドを編集するには、このテキストボックスに任意のステートメントを入力します。

[Trigger] (トリガー)

[トリガー (Trigger)] タブで、現行タスクを構成して、トリガーにより開始することができます。1つのタスクには複数のトリガーを設定することができ、タスクのワークフローを作成できます。このタブには、以下の見出しが含まれます。

- 現在のトリガー (Current Triggers)
- タスクの依存関係 (Task Dependencies)

現在のトリガー (Current Triggers)

各行は個別のトリガーを表示します。この現在のタスクは、トリガーがリリースされると開始されます (OR 演算子)。複数のトリガー (複数条件) をリリースするには、現在のタスクを開始する前に複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) 機能を使用する必要があります (AND 演算子)。

トリガーを作成するには、パネル内右側で [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

トリガー (Trigger)

トリガーの種類。可能な値は次の通りです。

- Once トリガー
- Task Finished トリガー

- External Event トリガー
- And トリガー

詳細 (Details)

The trigger condition settings, that is, a summary of when the trigger starts the 現在のタスク.

有効化 (Enabled)

トリガーの現在の状態。可能な値は次の通りです。

- 有効化 (Enabled)
- 無効化 (Disabled)

トリガーの編集 (Edit Trigger)

トリガーを構成するには、トリガーの編集 (Edit Trigger) アイコン  をクリックします。

【削除】

トリガーを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

トリガーの設定 (Configure Trigger) ダイアログ

タスクの開始

トリガーの種類を選択するには、ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックします。

- スケジュール設定 (On a Schedule)
- 他のタスク イベント (On Event from Another Task)
- 外部 イベント (On an External Event)
- 複数 イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

有効化 (Enabled)

タスク実行のトリガーを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。トリガーを無効にするには、このチェック ボックスをオフにします。

スケジュール設定 (On a Schedule)

ここで スケジュール設定 (On a Schedule) trigger type was chosen, a trigger can be scheduled to start the 現在のタスク. 次の構成 オプションが利用 できます。

定期的 (Recurrence)

トリガーを開始するスケジュールは、次のオプションのいずれかをクリックして選択します。

- 一度 (Once)
- 時間ごと (Hourly)
- 日ごと (Daily)
- 週ごと (Weekly)
- 月ごと (Monthly)
- 連続 (Continuously)



時刻は、24 時間形式にする必要があります。

開始時刻 (Start at)

トリガーの開始日時を「yyyy-mm-dd hh:mm:ss」.

2011-12-31 23:59:59

一度 (Once)

これ以降の設定はありません。

時間ごと (Hourly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を、時間および分テキストボックスに入力します。

1 および 10: トリガーは 70 分ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、トリガーは毎日実行されます。

設定時間のみで実行 (Run Only Between)

このチェックボックスをオンにすると、1 日のうちトリガーを開始する時間を制限できます。トリガーの開始を許可する、開始時間と停止時間を [start] (開始) および [stop] (停止) テキストボックスに、hh:mm (時間:分). 時間制限を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

日ごと (Daily)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を日 (Day) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

3: トリガーは 3 日ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

週ごと (Weekly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を [Weeks] (週ごと) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

2: トリガーは 2 週間ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)

- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、現在の曜日が選択されます。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

月ごと (Monthly)

月 (Months)

トリガーを開始する月を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 1 月 (January)
- 2 月 (February)
- 3 月 (March)
- 4 月 (April)
- 5 月
- 6 月 (June)
- 7 月 (July)
- 8 月 (August)
- 9 月 (September)
- 10 月 (October)
- 11 月 (November)
- 12 月 (December)



月を選択しないと、現在の月が選択されます。

すべて選択 (Check All)

すべての月を自動的に選択するには、このボタンをクリックします。

すべて解除 (Uncheck All)

すべての月の選択を自動的に解除するには、このボタンをクリックします。

開始のみ (Run Only)

トリガーを選択した月 (Months) 次のオプションを1つ選択します。

- [Days] (日)とトリガーを開始する日を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 - 1, 2, 3... 31(各値は月の第何日目かを表します)
 - 最後:月の末日を意味します。



日を選択しない場合は、トリガーは実行されません。

- オン (On) と月の日付を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

トリガーする日数

順序	週日 (Weekday)
First	月曜日 (Monday)
2 番目	火曜日 (Tuesday)
3 番目	水曜日 (Wednesday)
4 番目	木曜日 (Thursday)
最後	金曜日 (Friday)
	土曜日 (Saturday)
	日曜日 (Sunday)

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ssの形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

連続 (Continuously)

これ以降の設定はありません。

他のタスク イベント(On Event from Another Task)

ここで他のタスク イベント(On Event from Another Task)トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon the event from another task. 次の構成オプションが利用できます。

開始 (Start on)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー イベントを選択します。

- Successful (成功): タスクが正常に実行されたことを意味します。
- 失敗 (Failed): タスクの実行に失敗したことを意味します。

完了 (Completion of)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー タスクを選択します。

外部イベント (On an External Event)

ここで外部イベント (On an External Event) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon an external event, that is, an outside component, making a QlikView Management Service (QMS) API call. 次の構成オプションが利用できます。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

ここで複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクwhen other tasks have 実行された時にbeen completed in their execution within a certain time. 次の構成オプションが利用できます。

時間の制約 (Time Constraint)

すべてのタスクの実行が完了しなければならない時間的制約を、[分] テキストボックスに目的の数値を入力して設定します。

既定のパス: 360:6 時間に相当。

すべてのイベント完了後にタスクを実行 (Run task when all of these events completed)

外部イベント (External event)

トリガーを開始させるために完了する必要があるタスクリストに外部イベントを追加して、このチェックボックスをオンにします。リストから外部イベントを完全に削除するには、このチェックボックスをオフにします。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

タスク完了 (Task Completed)

タスクとトリガーを開始するために完了させておく必要があるイベントを追加するには、パネル内右側にある [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

イベント

ドロップダウン リストからタスク イベントを選択します。

タスク (Task)

Select the corresponding task, for which an event was selected in the イベントfield, in the drop-down list.

タスクの依存関係 (Task Dependencies)

タスク依存関係は、現在のタスク現在のタスクが実行されるようにするための手段です。The task dependencies overrule any trigger, which means that a trigger might not be able to start the 現在のタスク, if a task dependency for the 現在のタスクis not fulfilled. To configure a dependency for the 現在のタスク, click on the [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

タスク (Task)

Select the task(s), which must have been successfully executed before the 現在のタスクcan be executed, in the drop-down list.

【削除】

タスクの依存関係を完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

一時停止

テスト一時停止 フォルダでは、ポーズに関するサポートタスクを表示および管理することができます。

関数

タスクの追加 (Add Task)

タスクを追加するには、タスクの追加 (Add Task) アイコン  (右側パネルの右上隅) をクリックします。次のタブが作成されます。

- 基本設定
- トリガー (Trigger)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

ステータスの表示 (View Status)

タスクのステータスと設定を表示するには、右側パネルでツリービューにあるタスクをクリックします。

タスクの編集 (Edit Task)

タスクを構成するには、タスクの編集 (Edit Task) アイコン  をクリックするか、ツリー表示で該当するタスクをクリックします。右側パネルに、以下のタブが示されます。

- 基本設定
- トリガー (Trigger)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

タスクのコピー (Copy Task)

タスクをコピーするには、クリップボードにコピー アイコン  をクリックします。

タスクの貼り付け (Paste Task)

タスクを貼り付けることにより、新しいタスクが作成されます。特定のフォルダーにタスクを貼り付けるには、該当するドキュメントをクリック(強調表示)して、タスクの貼り付け (Paste Task) アイコン  (右側パネル内、貼り付け (Paste Add Task) アイコン  の左) をクリックします。

タスクの実行 (Run Task)

タスクを開始するには、[Run this Task] (このタスクを実行) アイコン  をクリックします。

タスクの中断 (Abort Task)

タスクを中止するには、[Abort this Task] (このタスクを中断) アイコン  をクリックします。

タスクの削除

タスクを完全に削除するには、ツリー構造からタスクが存在するドキュメントをクリック(強調表示)して、右側のパネルにあるこのタスクの [タスクを削除] アイコン  をクリックするか、ツリー表示のタスクをクリック(強調表示)して、[削除]。

General (基本設定)

[General] General (基本設定) タブでは、基本設定とパラメータが現行タスクのアクセスコントロールを管理することができます。ドキュメントカテゴリの割り当て、作成、編集、削除が可能です。ドキュメントにカテゴリを設定することにより、エンドユーザーは容易に分類することができます。これらのカテゴリは、QlikView AccessPoint のエンドユーザーのみに表示されます。各ドキュメントは1つのカテゴリにのみ属することが可能です。

基本操作

有効化 (Enabled)

タスクを有効化するには、このチェックボックスをオンにします。タスクを無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

タスク名 (Task Name)

タスク名を編集するには、このテキストボックスに任意の名前を入力します。



Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) タスク名 (Task Name) は一意である必要があり、そうでない場合は、末尾に数字が追加されて一意の名前になります。たとえば、「MyTask」は「MyTask (2)」になります。

[Select Category] (カテゴリの選択)

サポートタスクにカテゴリを割り当てるには、ドロップダウンリストに表示されているカテゴリから1つを選択します。

既定のパス: 初期設定でのみ有効です。

新しいカテゴリの入力 (Or Type a New Category)

カテゴリを作成するには、このテキストボックスに説明的な名前を入力します。新しいカテゴリがカテゴリの選択 (Select Category) ドロップダウンリストで利用可能になります。



カテゴリの再割り当ては可能ですが、削除はできません。

タスクの説明 (Task Description)

タスクの説明を編集するには、このテキストボックスに任意の説明を入力します。

パラメータ (Parameters)

次のポーズ オプションを1つ選択します。

- 遅延させる時間 (秒数) (Delay Seconds)
この設定によって n 秒間、処理がポーズされます。このパラメータを編集するには、このテキストボックスに任意の値を入力します。

既定のパス: 0 (秒)。
- 遅延を終える時刻 (時分) (Delay Until)
この設定によって、指定した時刻まで処理がポーズされます。このパラメータを編集するには、テキストボックスに hh:mm で目的の値を入力します。

[Trigger] (トリガー)

[トリガー (Trigger)] タブで、現行タスクを構成して、トリガーにより開始することができます。1つのタスクには複数のトリガーを設定することができ、タスクのワークフローを作成できます。このタブには、以下の見出しが含まれます。

- 現在のトリガー (Current Triggers)
- タスクの依存関係 (Task Dependencies)

現在のトリガー (Current Triggers)

各行は個別のトリガーを表示します。この現在のタスクは、トリガーがリリースされると開始されます (OR 演算子)。複数のトリガー (複数条件) をリリースするには、現在のタスクを開始する前に複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) 機能を使用する必要があります (AND 演算子)。

トリガーを作成するには、パネル内右側で [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

トリガー (Trigger)

トリガーの種類。可能な値は次の通りです。

- Once トリガー
- Task Finished トリガー
- External Event トリガー
- And トリガー

詳細 (Details)

The trigger condition settings, that is, a summary of when the trigger starts the 現在のタスク。

有効化 (Enabled)

トリガーの現在の状態。可能な値は次の通りです。

- 有効化 (Enabled)
- 無効化 (Disabled)

トリガーの編集 (Edit Trigger)

トリガーを構成するには、トリガーの編集 (Edit Trigger) アイコン  をクリックします。

【削除】

トリガーを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

トリガーの設定 (Configure Trigger) ダイアログ

タスクの開始

トリガーの種類を選択するには、ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックします。

- スケジュール設定 (On a Schedule)
- 他のタスク イベント (On Event from Another Task)
- 外部 イベント (On an External Event)
- 複数 イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

有効化 (Enabled)

タスク実行のトリガーを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。トリガーを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

スケジュール設定 (On a Schedule)

ここでスケジュール設定 (On a Schedule) trigger type was chosen, a trigger can be scheduled to start the 現在のタスク. 次の構成オプションが利用できます。

定期的 (Recurrence)

トリガーを開始するスケジュールは、次のオプションのいずれかをクリックして選択します。

- 一度 (Once)
- 時間ごと (Hourly)
- 日ごと (Daily)
- 週ごと (Weekly)
- 月ごと (Monthly)
- 連続 (Continuously)



時刻は、24 時間形式にする必要があります。

開始時刻 (Start at)

トリガーの開始日時を「yyyy-mm-dd hh:mm:ss」.

2011-12-31 23:59:59

一度 (Once)

これ以降の設定はありません。

時間ごと (Hourly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を、時間および分テキストボックスに入力します。

1 および 10: トリガーは 70 分ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、トリガーは毎日実行されます。

設定時間のみで実行 (Run Only Between)

このチェックボックスをオンにすると、1 日のうちトリガーを開始する時間を制限できます。トリガーの開始を許可する、開始時間と停止時間を [start] (開始) および [stop] (停止) テキストボックスに、hh:mm (時間: 分)、時間制限を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

日ごと (Daily)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を日 (Day) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

3: トリガーは 3 日ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

週ごと (Weekly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を [Weeks] (週ごと) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

2: トリガーは 2 週間ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、現在の曜日が選択されます。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

月ごと (Monthly)

月 (Months)

トリガーを開始する月を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 1 月 (January)
- 2 月 (February)
- 3 月 (March)
- 4 月 (April)
- 5 月
- 6 月 (June)
- 7 月 (July)
- 8 月 (August)
- 9 月 (September)
- 10 月 (October)
- 11 月 (November)
- 12 月 (December)



月を選択しないと、現在の月が選択されます。

すべて選択 (Check All)

すべての月を自動的に選択するには、このボタンをクリックします。

すべて解除 (Uncheck All)

すべての月の選択を自動的に解除するには、このボタンをクリックします。

開始のみ (Run Only)

トリガーを選択した月 (Months) 次のオプションを 1 つ選択します。

- [Days] (日)とトリガーを開始する日を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 - 1, 2, 3... 31(各値は月の第何日目かを表します)
 - 最後:月の末日を意味します。



日を選択しない場合は、トリガーは実行されません。

- オン (On)と月の日付を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
トリガーする日数

順序	週日 (Weekday)
First	月曜日 (Monday)
2 番目	火曜日 (Tuesday)
3 番目	水曜日 (Wednesday)
4 番目	木曜日 (Thursday)
最後	金曜日 (Friday)
	土曜日 (Saturday)
	日曜日 (Sunday)

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ssの形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

連続 (Continuously)

これ以降の設定はありません。

他のタスクイベント(On Event from Another Task)

ここで他のタスク イベント(On Event from Another Task)トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon the event from another task. 次の構成オプションが利用できます。

開始 (Start on)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー イベントを選択します。

- Successful (成功): タスクが正常に実行されたことを意味します。
- 失敗 (Failed): タスクの実行に失敗したことを意味します。

完了 (Completion of)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー タスクを選択します。

外部イベント (On an External Event)

ここで外部イベント (On an External Event) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon an external event, that is, an outside component, making a QlikView Management Service (QMS) API call. 次の構成オプションが利用できます。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

ここで複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクwhen other tasks have 実行された時にbeen completed in their execution within a certain time. 次の構成オプションが利用できます。

時間の制約 (Time Constraint)

すべてのタスクの実行が完了しなければならない時間的制約を、[分]テキストボックスに目的の数値を入力して設定します。

既定のバ: 360: 6 時間に相当。

すべてのイベント完了後にタスクを実行 (Run task when all of these events completed)

外部イベント (External event)

トリガーを開始させるために完了する必要があるタスクリストに外部イベントを追加して、このチェックボックスをオンにします。リストから外部イベントを完全に削除するには、このチェックボックスをオフにします。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

タスク完了 (Task Completed)

タスクとトリガーを開始するために完了させておく必要があるイベントを追加するには、パネル内右側にある [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

イベント

ドロップダウン リストからタスク イベントを選択します。

タスク (Task)

Select the corresponding task, for which an event was selected in the イベントfield, in the drop-down list.

タスクの依存関係 (Task Dependencies)

タスク依存関係は、現在のタスク現在のタスクが実行されるようにするための手段です。The task dependencies overrule any trigger, which means that a trigger might not be able to start the 現在のタスク, if a task dependency for the 現在のタスク is not fulfilled. To configure a dependency for the 現在のタスク, click on the [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

タスク (Task)

Select the task(s), which must have been successfully executed before the 現在のタスク can be executed, in the drop-down list.

【削除】

タスクの依存関係を完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

QVD 生成

テスト [QVD 生成] フォルダでは、QlikView Data (QVD) の作成に関連するサポートタスクの表示および管理ができます。

この QVD 作成機能によって、QlikView 管理者は特定の QVD ファイルを、特定の QlikView 開発者およびエンドユーザーに配布できます。また、QlikView 管理者はこの機能を使って、QVD ファイルを作成するタスクをスケジュールに組み込むことも可能です。これらのタスクでは、既存の QlikView ドキュメントファイルは必要ありません。代わりに QlikView 管理者は、QlikView テーブルの生成に必要なロードスクリプトを QVD 作成タスクに挿入できます。QlikView Publisher (QVP) はこのロードスクリプトを実行し、QVD を自動的に任意のロケーションに保存します。

関数

タスクの追加 (Add Task)

タスクを追加するには、タスクの追加 (Add Task) アイコン  (右側パネルの右上隅) をクリックします。次のタブが作成されます。

- 基本設定
- トリガー (Trigger)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

ステータスの表示 (View Status)

タスクのステータスと設定を表示するには、右側パネルでツリービューにあるタスクをクリックします。

タスクの編集 (Edit Task)

タスクを構成するには、タスクの編集 (Edit Task) アイコン  をクリックするか、ツリー表示で該当するタスクをクリックします。右側パネルに、以下のタブが表示されます。

- 基本設定
- トリガー (Trigger)

詳細を確認するには、各タブのラベルをクリックしてください。

タスクのコピー (Copy Task)

タスクをコピーするには、クリップボードにコピーアイコン  をクリックします。

タスクの貼り付け (Paste Task)

タスクを貼り付けることにより、新しいタスクが作成されます。特定のフォルダーにタスクを貼り付けるには、該当するドキュメントをクリック(強調表示)して、タスクの貼り付け (Paste Task) アイコン、、(右側パネル内、貼り付け (Paste Add Task) アイコン  の左) をクリックします。

タスクの実行 (Run Task)

タスクを開始するには、[Run this Task] (このタスクを実行) アイコン  をクリックします。

タスクの中断 (Abort Task)

タスクを中止するには、[Abort this Task] (このタスクを中断) アイコン  をクリックします。

タスクの削除

タスクを完全に削除するには、ツリー構造からタスクが存在するドキュメントをクリック(強調表示)して、右側のパネルにあるこのタスクの [タスクを削除] アイコン  をクリックするか、ツリー表示のタスクをクリック(強調表示)して、[削除]。

(基本設定)

[General] (基本設定) タブでは、現在のタスクの基本的な設定およびパラメータを管理することができます。ドキュメントカテゴリの割り当て、作成、編集、削除が可能です。ドキュメントにカテゴリを設定することにより、エンドユーザーは容易に分類することができます。これらのカテゴリは、QlikView AccessPoint のエンドユーザーのみに表示されます。各ドキュメントは 1 つのカテゴリにのみ属することが可能です。

基本操作

有効化 (Enabled)

タスクを有効化するには、このチェックボックスをオンにします。タスクを無効化するには、このチェックボックスをオフにします。

タスク名 (Task Name)

タスク名を編集するには、このテキストボックスに任意の名前を入力します。



Load Doc Admins (ドキュメント管理者のロード) タスク名 (Task Name) は一意である必要があり、そうでない場合は、末尾に数字が追加されて一意の名前になります。たとえば、「MyTask」は「MyTask (2)」になります。

[Select Category] (カテゴリの選択)

サポートタスクにカテゴリを割り当てるには、ドロップダウンリストに表示されているカテゴリから1つを選択します。

既定のパス: 初期設定でのみ有効です。

新しいカテゴリの入力 (Or Type a New Category)

カテゴリを作成するには、このテキストボックスに説明的な名前を入力します。新しいカテゴリが カテゴリの選択 (Select Category) ドロップダウン リストで利用可能になります。



カテゴリの再割り当ては可能ですが、削除はできません。

タスクの説明 (Task Description)

タスクの説明を編集するには、このテキストボックスに任意の説明を入力します。

パラメータ (Parameters)

テーブル名 (Table Name)

QVD データベース テーブルの名前です。テーブル名を編集するには、このテキストボックスに特定の名前を入力します。



QVD 作成タスクは、このテーブル名を使用して QlikView テーブルおよび QVD ファイルを生成するため、同テーブル名は必須です。テーブル名が入力されていないと、QVD 作成タスクは失敗します。

QVD パス (QVD Path)

QVD のフォルダを選択するには、[Browse] (参照) アイコン、 をクリックし、[Choose Folder] (フォルダを選択) ダイアログでフォルダを選択します。

QVD ユーザー (QVD Users)

ユーザーおよびグループの管理方法を選択するには、次のドロップダウン リストからオプションを1つクリックします。

- すべての認証ユーザー: 認証済みのすべてのユーザーに許可を与えます。
- 項目: ユーザーやグループの検索によりドメインやコンピュータに手動で追加されたユーザーに許可を与えます (名前は Directory Service Connector により決定されます)。

ユーザーおよびグループの追加

[User Type] (ユーザーの種類) 項目で [Named Users] (指定されたユーザー) が選択されている場合、以下を実行します。

ユーザーおよびグループを管理するには、[ユーザーの管理] ダイアログ アイコン  をクリックします。

- ユーザーとグループの検索 (Search for Users and Groups)
ユーザーまたはグループを検索するには、このテキストボックスに検索したい用語を入力し、[Search] (検索) アイコン  をクリックします。
- デフォルトの範囲 (Default Scope)
ドロップダウン リストから検索するディレクトリを選択します。
- 検索結果
検索結果 (Search Result) このボックスには、希望する条件を使った検索の結果が表示されます。

- [選択済みユーザー (Selected Users)]
このボックスには選択ユーザーとグループが表示されます。
- 追加 >
ユーザーまたはグループを追加するには、検索結果ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーを追加できます。
- 削除
ユーザーまたはグループの選択を解除するには、[選択済みユーザー (Selected Users)]ボックスでクリックしてこのボタンをクリックします。同時に複数のユーザーの選択解除ができます。
- << すべてを削除 (<< Delete All)
To deselect 実行された時にユーザーとグループを [選択済みユーザー (Selected Users)] ボックスから選択解除するには、このボタンをクリックします。

スクリプト

QVD ファイルの生成に必要なロードスクリプトです。このスクリプトを編集するには、このテキストボックスに任意のステートメントを入力します。



QVD 生成タスクでは、単一の QVD ファイルの作成のみが可能です。このタスクに組み込むスクリプトは、QlikView テーブルの作成に必要なものすべてが揃っている必要があります。これには、必要な「CONNECT」ステートメントも含まれます。QVD 作成タスクは、必要な「STORE」ステートメントを自動的に追加します。よって、同ステートメントをこのスクリプトに含める必要はありません。

[Trigger] (トリガー)

[トリガー (Trigger)] タブで、現行タスクを構成して、トリガーにより開始することができます。1つのタスクには複数のトリガーを設定することができ、タスクのワークフローを作成できます。このタブには、以下の見出しが含まれます。

- 現在のトリガー (Current Triggers)
- タスクの依存関係 (Task Dependencies)

現在のトリガー (Current Triggers)

各行は個別のトリガーを表示します。この現在のタスクは、トリガーがリリースされると開始されます (OR 演算子)。複数のトリガー (複数条件) をリリースするには、現在のタスクを開始する前に複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) 機能を使用する必要があります (AND 演算子)。

トリガーを作成するには、パネル内右側で [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

トリガー (Trigger)

トリガーの種類。可能な値は次の通りです。

- Once トリガー
- Task Finished トリガー
- External Event トリガー
- And トリガー

詳細 (Details)

The trigger condition settings, that is, a summary of when the trigger starts the 現在のタスク。

有効化 (Enabled)

トリガーの現在の状態。可能な値は次の通りです。

- 有効化 (Enabled)
- 無効化 (Disabled)

トリガーの編集 (Edit Trigger)

トリガーを構成するには、トリガーの編集 (Edit Trigger) アイコン  をクリックします。

【削除】

トリガーを完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

トリガーの設定 (Configure Trigger) ダイアログ

タスクの開始

トリガーの種類を選択するには、ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックします。

- スケジュール設定 (On a Schedule)
- 他のタスク イベント (On Event from Another Task)
- 外部 イベント (On an External Event)
- 複数 イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

有効化 (Enabled)

タスク実行のトリガーを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。トリガーを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

スケジュール設定 (On a Schedule)

ここでスケジュール設定 (On a Schedule) trigger type was chosen, a trigger can be scheduled to start the 現在のタスク。次の構成オプションが利用できます。

定期的 (Recurrence)

トリガーを開始するスケジュールは、次のオプションのいずれかをクリックして選択します。

- 一度 (Once)
- 時間ごと (Hourly)
- 日ごと (Daily)
- 週ごと (Weekly)
- 月ごと (Monthly)
- 連続 (Continuously)



時刻は、24 時間形式にする必要があります。

開始時刻 (Start at)

トリガーの開始日時を「yyyy-mm-dd hh:mm:ss」.

2011-12-31 23:59:59

一度 (Once)

これ以降の設定はありません。

時間ごと (Hourly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を、時間および分テキストボックスに入力します。

1 および 10: トリガーは 70 分ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、トリガーは毎日実行されます。

設定時間のみで実行 (Run Only Between)

このチェックボックスをオンにすると、1 日のうちトリガーを開始する時間を制限できます。トリガーの開始を許可する、開始時間と停止時間を [start] (開始) および [stop] (停止) テキストボックスに、hh:mm (時間:分)、時間制限を無効にするには、このチェックボックスをオフにします。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

日ごと (Daily)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を日 (Day) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

3: トリガーは 3 日ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ss の形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

週ごと (Weekly)

次の間隔で実行 (Run Every)

トリガーを開始する時間間隔を [Weeks] (週ごと) テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。

2: トリガーは 2 週間ごとに開始されます (この例では、他の制限的な設定は考慮されていません)。

オン (On)

トリガーを開始する曜日を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 月曜日 (Monday)
- 火曜日 (Tuesday)
- 水曜日 (Wednesday)
- 木曜日 (Thursday)
- 金曜日 (Friday)
- 土曜日 (Saturday)
- 日曜日 (Sunday)



曜日を選択しないと、現在の曜日が選択されます。

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ssの形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

月ごと (Monthly)

月 (Months)

トリガーを開始する月を選択するには、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。

- 1 月 (January)
- 2 月 (February)
- 3 月 (March)
- 4 月 (April)
- 5 月
- 6 月 (June)
- 7月 (July)
- 8 月 (August)
- 9 月 (September)
- 10 月 (October)
- 11 月 (November)
- 12 月 (December)



月を選択しないと、現在の月が選択されます。

すべて選択 (Check All)

すべての月を自動的に選択するには、このボタンをクリックします。

すべて解除 (Uncheck All)

すべての月の選択を自動的に解除するには、このボタンをクリックします。

開始のみ (Run Only)

トリガーを選択した月 (Months) 次のオプションを1つ選択します。

- [Days] (日)とトリガーを開始する日を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 - 1, 2, 3... 31(各値は月の第何日目かを表します)
 - 最後:月の末日を意味します。



日を選択しない場合は、トリガーは実行されません。

- オン (On)と月の日付を選択し、次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
トリガーする日数

順序	週日 (Weekday)
First	月曜日 (Monday)
2 番目	火曜日 (Tuesday)
3 番目	水曜日 (Wednesday)
4 番目	木曜日 (Thursday)
最後	金曜日 (Friday)
	土曜日 (Saturday)
	日曜日 (Sunday)

最大実行数 (Max Number of Executions)

トリガーが開始する最大タスク数を制限するには、このチェックボックスをオンにし、最大値 テキストボックスにトリガーを許可する回数を入力します。トリガー数を制限しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

期限切れ (Expire)

特定の日時でトリガーを期限切れに設定するには、このチェックボックスをオンにし、テキストボックスに yyyy-mm-dd hh:mm:ssの形式で日時を入力します。トリガーの期限切れを設定しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

2012-12-31 23:59:59

連続 (Continuously)

これ以降の設定はありません。

他のタスクイベント(On Event from Another Task)

ここで他のタスク イベント(On Event from Another Task)トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon the event from another task. 次の構成オプションが利用できます。

開始 (Start on)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー イベントを選択します。

- Successful (成功): タスクが正常に実行されたことを意味します。
- 失敗 (Failed): タスクの実行に失敗したことを意味します。

完了 (Completion of)

ドロップダウン リストから次のいずれかのオプションをクリックして、トリガー タスクを選択します。

外部イベント (On an External Event)

ここで外部イベント (On an External Event) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクon an external event, that is, an outside component, making a QlikView Management Service (QMS) API call. 次の構成オプションが利用できます。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed)

ここで複数イベント完了時 (On Multiple Events Completed) トリガーの種類を選択した場合は、その他のタスクすべてが、現在のタスクwhen other tasks have 実行された時にbeen completed in their execution within a certain time. 次の構成オプションが利用できます。

時間の制約 (Time Constraint)

すべてのタスクの実行が完了しなければならない時間的制約を、[分]テキストボックスに目的の数値を入力して設定します。

既定のバ: 360: 6 時間に相当。

すべてのイベント完了後にタスクを実行 (Run task when all of these events completed)

外部イベント (External event)

トリガーを開始させるために完了する必要があるタスクリストに外部イベントを追加して、このチェックボックスをオンにします。リストから外部イベントを完全に削除するには、このチェックボックスをオフにします。

パスワード

このパスワードは、タスクにアクセスする場合やトリガーをリリースする際に使用します。外部イベントの場合は、このパスワードを把握しておく必要があります。外部イベントを有効にしてタスクのトリガーをリリースさせるには、このテキストボックスにパスワードを入力します。

タスク完了 (Task Completed)

タスクとトリガーを開始するために完了させておく必要があるイベントを追加するには、パネル内右側にある [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

イベント

ドロップダウン リストからタスク イベントを選択します。

タスク (Task)

Select the corresponding task, for which an event was selected in the イベントfield, in the drop-down list.

タスクの依存関係 (Task Dependencies)

タスク依存関係は、現在のタスク現在のタスクが実行されるようにするための手段です。The task dependencies overrule any trigger, which means that a trigger might not be able to start the 現在のタスク, if a task dependency for the 現在のタスク is not fulfilled. To configure a dependency for the 現在のタスク, click on the [Add] (追加) アイコン  をクリックします。

タスク (Task)

Select the task(s), which must have been successfully executed before the 現在のタスク can be executed, in the drop-down list.

【削除】

タスクの依存関係を完全に削除するには、[削除] アイコン  をクリックします。

6.7 ログ収集

この ログ収集 ページでは、定義した期間のログファイルを収集し、エクスポートすることができます。このログは、Qlik サポートのトラブルシューティングに役立ちます。

収集されたファイル

次のファイルを収集することができます。

Windows イベントログ

ログ収集は Windows アプリケーション イベント ログを読み取り、QlikView 関連のイベントのみ抽出します。Qlik サポートは、これらのログを使用して、すべての QlikView サービスの開始と停止、警告、およびエラーを分析することができます。

システム情報

ログ収集は、標準的な Windows Management Instrumentation (WMI) を使用して、ローカルサーバー、現在のホットフィックス、およびサービスパックの情報を収集します。また、ログ収集はコマンドラインを使用して、プロキシセットアップ、実行中のサービス、証明書名、およびインターネット設定を検出します。この情報は、接続および Windows に関連する問題のトラブルシューティングに役立ちます。

ログファイルの収集およびエクスポート

次の手順を実行します。

1. 開始日および終了日を、手動またはカレンダーを使用して入力します。📅。
2. サポートケース番号を入力します。
3. 含める追加のログを選択します:
 - Windows イベント ログ
 - システム情報
4. [ログの収集とエクスポート] をクリックします。

Qlik サポートに送信する zip ファイルが生成されます。



選択した日付に使用できるログがない場合でも、ログ収集は継続して一般的な情報を収集します。